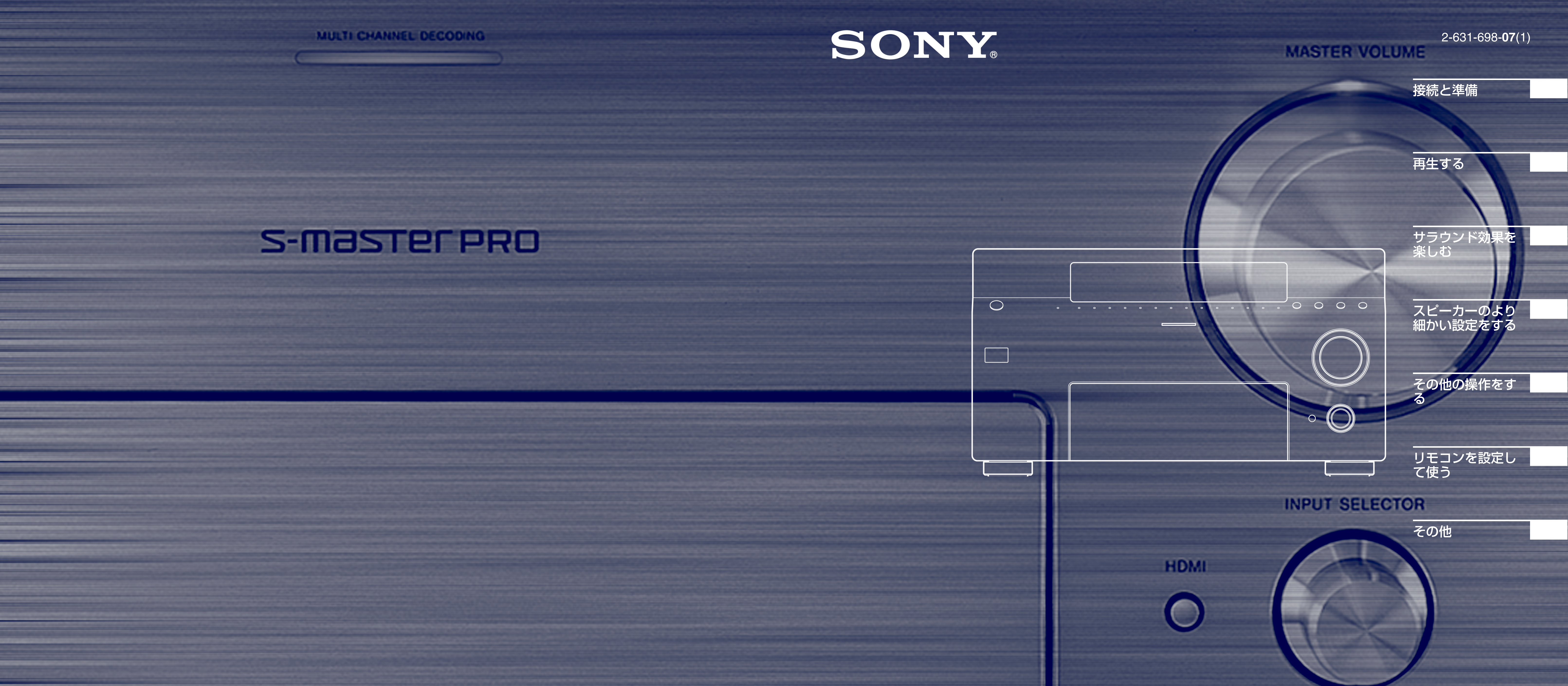
SONY

2-631-698-07(1)



接続と準備

再生する

サラウンド効果を楽しむ

スピーカーのより細かい設定をする

その他の操作をする

リモコンを設定して使う

その他

マルチチャンネル
インテグレートアンプ

TA-DA9100ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル················0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話··· 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル················0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話··· 0466-31-2531
※取扱説明書･リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月～金：9:00～20:00 土･日･祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 2 6 3 1 6 9 8 0 7 * (1)

主な特長

32Bit S-Master PRO搭載

S-Master（ストリームマスターデジタルアンプ）は、入力信号をフルデジタルで処理し、スピーカーを直接駆動できるデバイスです。信号をスピーカーに出力する直前までデジタルで処理するため、極めてロスの少ない伝送が可能となっています。また、高い時間軸精度を保った信号を生成できるため、アンプの1つの理想であるノンフィードバック構成を実現しています。

i.LINKデジタル入力を2系統装備

SCD-DR1とSCD-XA9000ES、DVP-NS9100ESのi.LINKデジタル出力に対応しています。

HDMIインターフェース装備

HDMI（High Definition Multimedia Interface）はDVIをベースにA/Vに特化した規格です。映像とマルチチャンネル音声をデジタル伝送することができます。TA-DA9100ESはHDMI端子を入力2系統、出力1系統持っています（Ver.1.1対応）。映像は好きな入力に割り当てることができます。音声はドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACに対応し、TA-DA9100ESにつないだスピーカーからマルチチャンネルで楽しむことができます。

映像変換機能（ビデオコンバータ）搭載

本機に入力された映像信号を内部処理で変換することができます。お手持ちのディスプレイ機器の入力端子に合わせた信号でつなぎ、さまざまな機器の映像を楽しむことができます。HDMIへの変換もできるので、高精細ディスプレイで楽しむことができます。

＊ビデオデッキの早送り / 巻き戻しやゲーム機の映像の非標準信号が入力されると、テレビなどの機種によっては映像が表示できない場合があります。

自動音場補正機能（DCAC: Digital Cinema Auto Calibration）搭載

Digital Cinema Auto Calibrationはソニー独自の自動音場補正技術です。リスニング環境を短時間で自動的に測定し、最適なスピーカー設定にすることができます。

9.1CHサラウンドシステム搭載

映画の音を製作するスタジオ環境を、家庭のスピーカーを使って再現するのが9.1chサラウンドシステムです。7.1chのシステムに加えて、さらに2個のサラウンドスピーカーを側方に配置することで、フロント～サラウンド～後方の音のつながりが自然になります。TA-DA9100ESは9.1chのリアルマルチチャンネルを広いエリアで楽しむことができます。

マルチゾーン機能搭載

TA-DA9100ESに入力した映像や音声を、メインのオーディオルームだけでなく別の部屋でも楽しむことができます。

バイアンプ接続に対応

フロントスピーカーとのバイアンプ接続に対応しています。

高音質パーツをふんだんに採用

トロイダル電源トランスはドーナツ状のコアに太い銅線を巻いた構造で、一般の電源トランスに比べて変換効率が極めて高いのが特長です。TA-DA9100ESでは大容量、大型トロイダル電源トランスを採用し、瞬時電流供給能力に優れた余裕のある電源部を構成しています。スピーカー端子には高級金メッキ端子を使用しました。電源コードも高品質タイプを採用しました。主要な電解コンデンサは試聴をくり返してチューニングした専用タイプを使用しています。

A/Vシンク機能搭載

A/Vシンク機能（リップシンク機能）は、音声と映像のタイミングのズレ（映像の遅れ）を補正します。最大200ミリ秒（0.2秒）までの調整ができます。

目次

接続と準備

各部の名前と働き 5
準備 1：スピーカーを設置する 14
準備 2：スピーカーを接続する 16
準備 3a：オーディオ機器を接続する 18
準備 3b：映像機器を接続する 23
準備 4：本体とリモコンを準備する 34
準備 5：使用するフロントスピーカーとサラウンド
　スピーカーを選ぶ（SPEAKERS スイッチ）... 37
準備 6：自動でスピーカーを設定する
　（自動音場補正機能）................................... 38

再生する

アンプの入力を選ぶ（INPUT SELECTOR）.... 43
スーパーオーディオ CD/CD を聞く 44
DVD を見る 45
ゲームを楽しむ 46
ビデオを見る 47

サラウンド効果を楽しむ

ドルビーデジタルや DTS のサラウンド効果を
　楽しむ 48
ソニーのサラウンド効果（DCS）を楽しむ 51
サブウーファーを使わずフロントスピーカーのみか
　ら音を出す（2CH STEREO）..................... 53
小音量でサラウンド効果を楽しむ
　（NIGHT MODE）..................................... 53
ドルビーデジタルや DTS のサラウンド効果にサラ
　ウンドバック機能を働かせる....................... 54
サラウンド効果を調節する 56
サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す 60

スピーカーのより細かい設定をする

メニューを使ってスピーカーを設定する 61
スピーカーのレベルとバランスを調節する
　（TEST TONE）....................................... 65
自動音場補正機能の測定結果を確認する 66
イコライザー（低域 / 中域 / 高域のレベル）を
　調節する.. 67

その他の操作をする

本機のメニューをテレビに表示して操作する 70
入力に名前を付ける 71
デジタル音声とアナログ音声の入力を
　切り換える..72
選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる 73
i.LINK 音声に映像を組み合わせる.....................74
選んだ入力に HDMI 端子を割り当てる 75
選んだ入力にコンポーネント /D4 映像端子を
　割り当てる...76
設定した内容を登録する（USER PRESET）......77
各種設定を変える（CUSTOMIZE メニュー）.....78
表示窓の表示を切り換える 82
スリープタイマーを使う 83
他機を使って録音 / 録画する............................84
本機から他機を操作する 85
マルチゾーン機能を使う 87
バイアンプ接続する 90
ソニー製機器を操作する 90

リモコンを設定して使う

リモコンメニュー一覧（アンプ操作）................92
使いたい機器を選ぶ 93
本機のリモコンで他機を操作する......................94
お使いの機器に合わせて本機をリモコンに
　登録する...98
いくつかの操作を続けて実行させる
　（マクロ操作）..100
本機のリモコンにないリモコンコードを
　学習させる...102
リモコンをお買い上げ時の設定に戻す 103
その他の操作 104

その他

メニュー一覧 107
用語集 111
技術解説 113
使用上のご注意..114
故障かな？と思ったら 115
保証書とアフターサービス 119
主な仕様 120
索引 122

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のAVリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。AVリモコンと同じ名前の本体と付属の簡単リモコンのボタンは、同じ働きをします。
リモコンのON SCREENを押すと、本機のMONITOR OUT端子につないだテレビに、メニューの設定画面が表示されます。

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS **(DTS-ES および DTS 96/24) デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
  Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
  以下が米国 AAC パテントナンバーです。
  Pat. 5,848,391；5,291,557；5,451,954；5 400 433；5,222,189；5,357,594；5 752 225；5,394,473；5,583,962；5,274,740；5,633,981；5 297 236；4,914,701；5,235,671；07/640,550；5,579,430；08/678,666；98/03037；97/02875；97/02874；98/03036；5,227,788；5,285,498；5,481,614；5,592,584；5,781,888；08/039,478；08/211,547；5,703,999；08/557,046；08/894,844

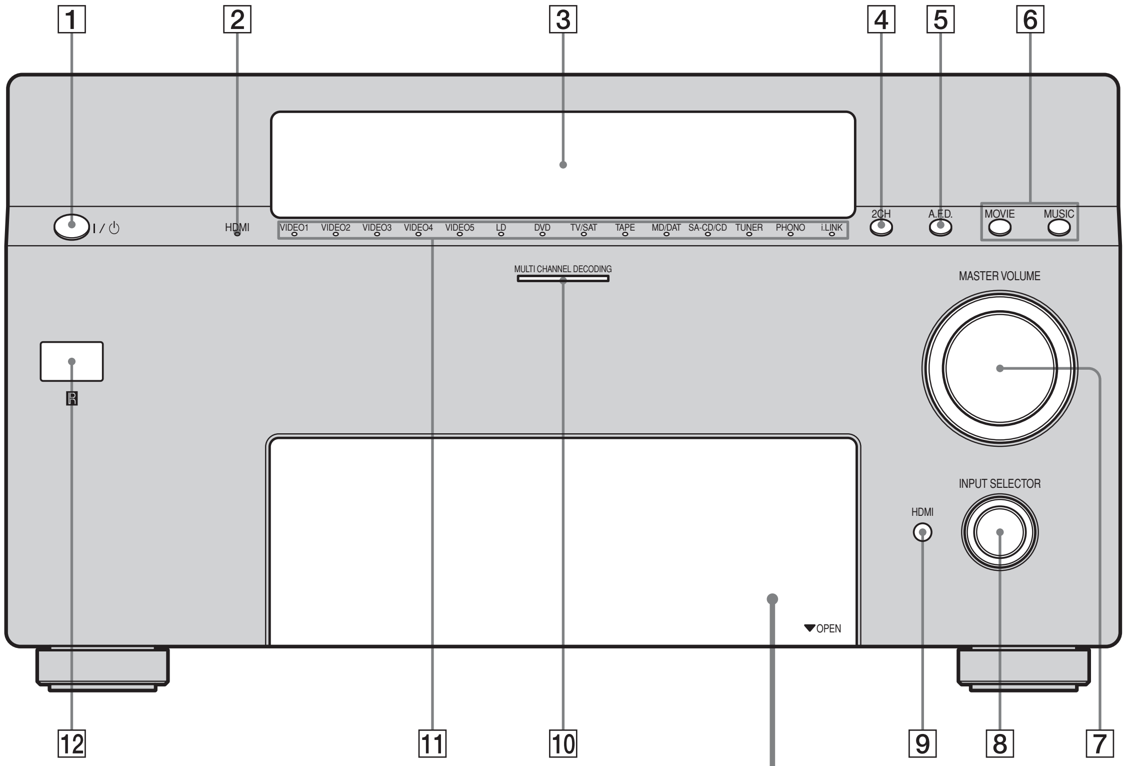
**Digital Theater Systems, Inc からの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-ES、Neo:6 および DTS 96/24 は Digital Theater Systems, Inc の商標です。

マルチチャンネルインテグレートアンプは、HDMI（HDMI™）技術を搭載しています。

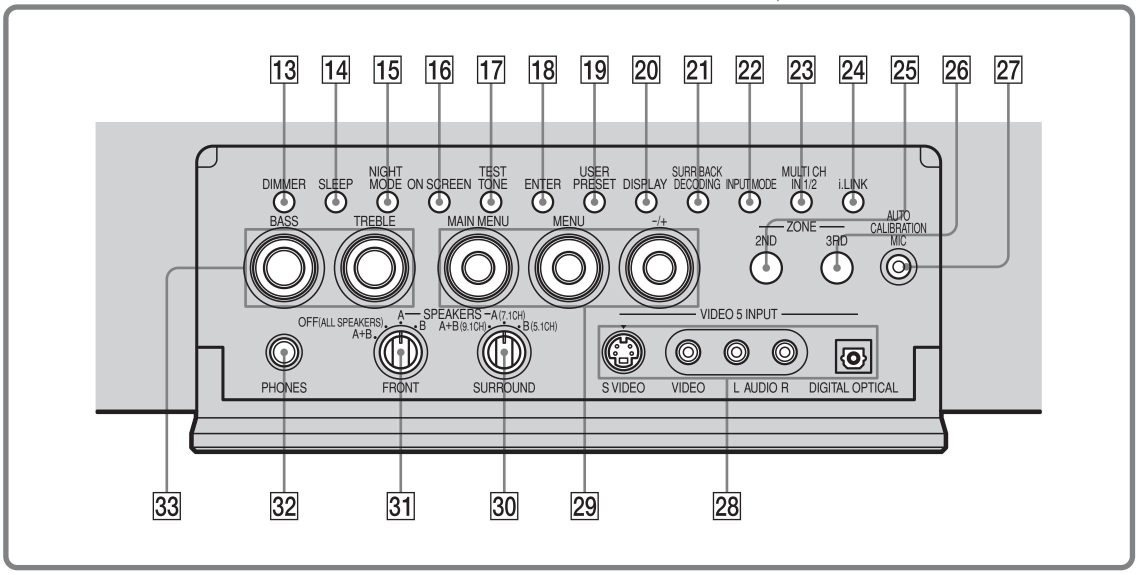
HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition　Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

各部の名前と働き

本体前面



本体前面のふたを開ける

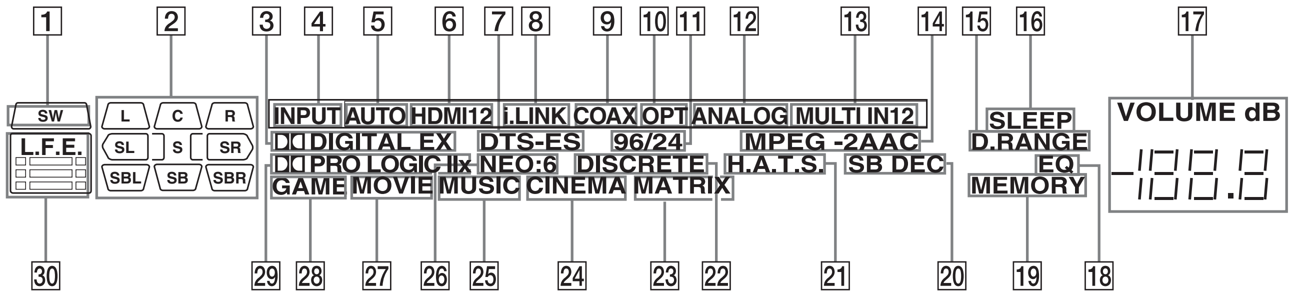


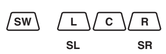
つづく

名称	働き
1 I/⏻（電源）	本機（アンプ）の電源を入/切します（35、44、45、46、47、60、66ページ）。
2 HDMIランプ	再生する入力ソースとしてHDMIが選ばれているときに点灯します（43ページ）。
3 表示窓	プログラムの名称や設定など、さまざまな情報を表示します（7ページ）。
4 2CH	2CH STEREOモードを選びます（53ページ）。
5 A.F.D.	A.F.D.モードを選びます（48、49ページ）。
6 MOVIE MUSIC	サウンドフィールド（映画用：MOVIE、音楽用：MUSIC）を選びます（51、52ページ）。
7 MASTER VOLUMEつまみ	本機（アンプ）の音量を調節します（43、44、45、46、47、66ページ）。
8 INPUT SELECTORつまみ	再生する入力ソースを選びます（43、44、45、46、47、71、72、84ページ）。
9 HDMI	HDMI接続されている外部機器の入力を選びます（43ページ）。
10 MULTI CHANNEL DECODINGランプ	マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します（45ページ）。
11 入力ランプ	選ばれている入力ソースのランプが点灯します。
12 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
13 DIMMER	表示窓の明るさを切り換えます（82ページ）。
14 SLEEP	スリープタイマーを設定します（83ページ）。
15 NIGHT MODE	NIGHT MODE機能のオン/オフを切り換えます（53ページ）。
16 ON SCREEN	本機につないだテレビにメニューや設定を表示させます（65、70ページ）。
17 TEST TONE	テストトーンを入（オン）/切（オフ）します（65ページ）。
18 ENTER	設定を選ぶときなど、押して決定します（35、77ページ）。
19 USER PRESET	調節したサウンドフィールドなどの設定を登録します（78ページ）。
20 DISPLAY	表示窓に表示される情報を切り換えます（82ページ）。
21 SURR BACK DECODING	サラウンドバック音声デコードの設定を切り換えます（54ページ）。
22 INPUT MODE	同じ機器をデジタルとアナログ両方の入力端子につないでいる場合に、入力信号の優先順位を設定します（72ページ）。

名称	働き
23 MULTI CH IN 1/2	MULTI CH IN端子につながれている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。
24 i.LINK	i.LINK端子につながれている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。
25 2ND ZONE スイッチ	2ND ZONE OUT端子へ出力を切り換えます（89ページ）。
26 3RD ZONE スイッチ	3RD ZONE OUT端子へ出力を切り換えます（89ページ）。
27 AUTO CALIBRATION MIC端子	自動音場補正機能で使用するマイクをつなぎます（38ページ）。
28 VIDEO 5 INPUT端子	ビデオカメラやテレビゲーム機をつなぎます（30、46ページ）。
29 +/−つまみ MENUつまみ MAIN MENUつまみ	設定したいメニューや項目、パラメーターを選び、確定します（56、58、66、70、71、77ページ）。
30 SURROUND SPEAKERS スイッチ	サラウンドスピーカーのA+B（9.1チャンネル）、A（7.1チャンネル）、B（5.1チャンネル）を切り換えます（37ページ）。
31 FRONT SPEAKERS スイッチ	フロントスピーカーのA+B、A、Bを切り換えます（37ページ）。
32 PHONES端子	ヘッドホンをつなぎます（52ページ）。
33 TREBLEつまみ BASSつまみ	フロントスピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します（68ページ）。

表示窓に点灯する項目と働き



名称	働き
1 SW	サブウーファーの設定が「YES」になっているとき（61ページ）に点灯します。この表示が点灯しているときは、入力信号のL.F.E.信号またはスピーカーの低域成分をもとに、サブウーファーから音声を出力しています。
2 **再生チャンネル表示**	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。 SLとSRの二重枠は9.1チャンネルで出力されているときに点灯します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分） 例: 記録形式（フロント/サラウンド）: 3/2.1 再生チャンネル：サラウンドスピーカーなし サウンドフィールド：A.F.D. AUTO 

名称	働き
3 DIGITAL (EX)	ドルビーデジタル信号が入力されたときに点灯します。ドルビー EXデコードしているときに「EX」も点灯します。
4 INPUT	現在の入力ランプとともに常に点灯します。
5 AUTO	INPUT MODEが「AUTO 2CH」に設定されているときに点灯します（72ページ）。
6 HDMI 1 2	HDMI機器を認識しているときに点灯します（24ページ）。
7 DTS (-ES)	DTS信号が入力されたときに点灯します。DTS-ESデコードしているときに「-ES」も点灯します。
8 i.LINK	i.LINK機器を認識しているときに点灯します（21ページ）。
9 COAX	INPUT MODEを「AUTO 2CH」に設定していて、デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「COAXIAL FIXED」に設定されているときに点灯します（72ページ）。
10 OPT	INPUT MODEを「AUTO 2CH」に設定していて、デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「OPTICAL FIXED」に設定されているときに点灯します（72ページ）。
11 96/24	DTS 96kHz/24bit信号をデコードしているときに点灯します。

ご注意

SW は 2CH STEREO が選ばれているとき、または「A.F.D. AUTO」を選んでいて、SURROUND SET UP メニューの「A.F.D. 2CH SW」を「OFF」にしているときに、2 チャンネル信号が入力されているときは消灯します。

つづく

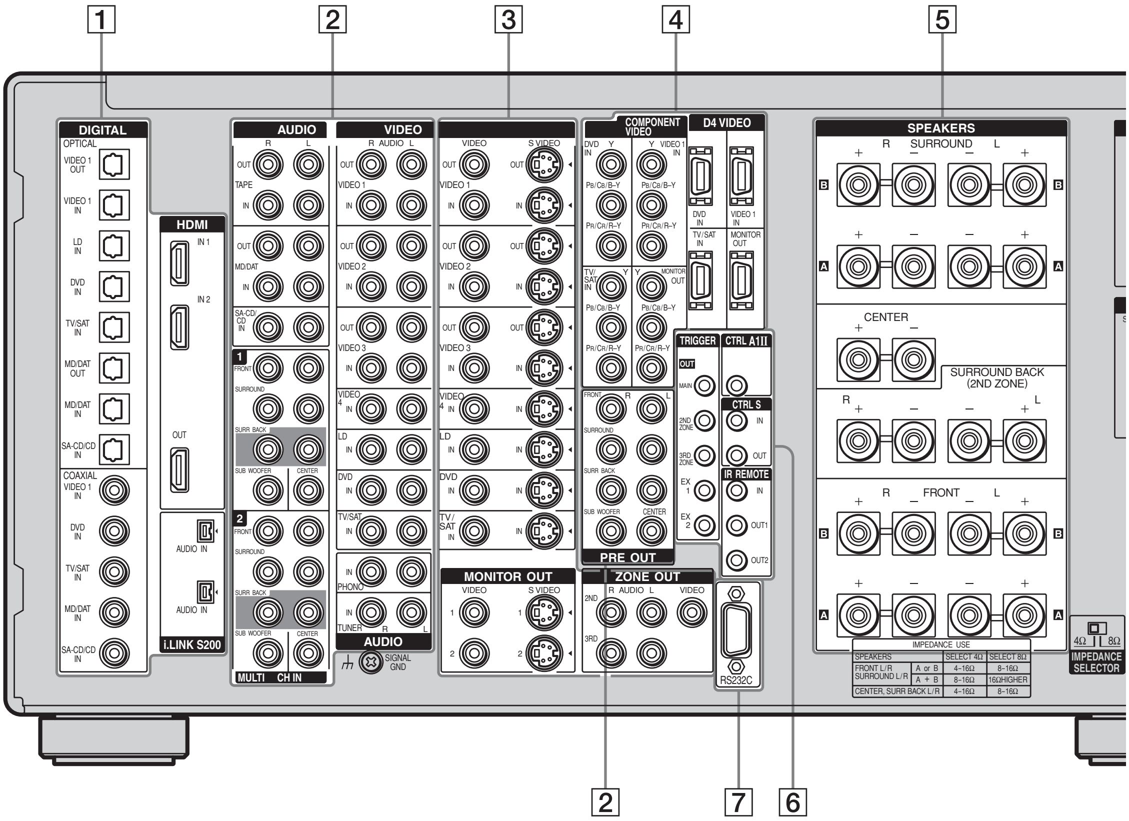
名称	働き
⑫ ANALOG	INPUT MODEを「AUTO 2CH」に設定していて、COAXIALまたはOPTICAL端子に信号が入力されていないとき、またはINPUT MODEが「ANALOG 2CH FIXED」に設定されているときに点灯します（72ページ）。
⑬ MULTI IN 1 2	MULTI CH IN 1または2が選ばれているときに点灯します（43ページ）。
⑭ MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。
⑮ D.RANGE	ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（59ページ）。
⑯ SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します（83ページ）。
⑰ VOLUME	現在の音量を表示します。
⑱ EQ	イコライザーが働いているときに点灯します（67ページ）。
⑲ MEMORY	Name InputやPreset Memoryなど、メモリー機能が働いたときに点灯します。
⑳ SB DEC	サラウンドバック音声のデコーディングが行われているときに点灯します（54ページ）。
㉑ H.A.T.S.	i.LINK接続した機器から、H.A.T.S.信号を受信中に点灯します（80ページ）。
㉒ DISCRETE	DTS-ES Discrete信号をデコードしているときに点灯します（55ページ）。
㉓ MATRIX	DTS-ES Matrix信号をデコードしているときに点灯します（55ページ）。
㉔ CINEMA	DTS Neo: 6のシネマ処理を行っているときに点灯します（49ページ）。
㉕ MUSIC	プロロジックII、プロロジックIIx またはDTS Neo: 6のミュージック処理を行っているときに点灯します。
㉖ NEO:6	DTS-ES Neo:6のシネマ/ミュージック処理を行っているときに点灯します。
㉗ MOVIE	プロロジックII 、プロロジックIIxのムービー処理を行っているときに点灯します。
㉘ GAME	プロロジックII 、プロロジックIIxのゲーム処理を行っているときに点灯します。
㉙ DDPRO LOGIC (II/IIx)	2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。また、プロロジックII またはプロロジックIIxのムービー /ミュージックモード処理を行っているときにも点灯します。

名称	働き
㉚ L.F.E.	入力信号にL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「L.F.E.」の文字が点灯します。また、実際にL.F.E.信号の音が再生されているときには、文字の下のバーが信号のレベルに応じて点灯します。L.F.E.信号は、すべての部分に記録されているとは限らないため、多くの場合、バーは点灯と消灯をくり返します。

ご注意

- MPEG-2 AAC は、アルゴリズム：(LC (Low Complexity)) にのみ対応しています。
- DDPRO LOGIC（II/IIx）は、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方が「NO」と設定されているときは点灯しません。

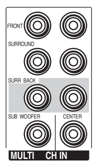
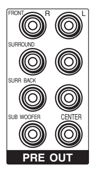
本体後面



1 デジタル入出力部

	OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子	DVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーなどをつなぎます。COAXIALのほうがより高音質です（19、27ページ）。
	COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子	
	HDMI入出力端子	DVDプレーヤー、チューナーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（24ページ）。
	i.LINK入力端子	ソニーのスーパーオーディオCDプレーヤー SCD-XA9000ESまたはSCD-DR1、DVP-NS9100ESとつなぐことができます（21ページ）。

2 音声入出力部

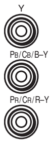
	音声入出力端子	カセットデッキ、MD/DATなどをつなぎます（22ページ）。
	マルチチャンネル入力端子	7.1チャンネルや5.1チャンネルのアナログ音声出力端子を持っているスーパーオーディオCDプレーヤーやDVDプレーヤーをつなぎます（20ページ）。
	PRE OUT（プリアウト）出力端子	外部のパワーアンプなどとつなぎます。

3 映像と音声の入出力部

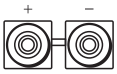
	音声入出力端子	ビデオデッキ、DVDプレーヤーなどの映像と音声をつなぎます（27、29、30ページ）。
	映像入出力端子a)	
	S映像入出力端子a)	

つづく

4 コンポーネント映像/D4映像入出力部

	コンポーネント映像入出力端子 a)b)	DVDプレーヤー、テレビ、チューナーなどとつなぎ、より高画質な映像を楽しめます（26、28、29ページ）。
	D4映像入出力端子a)b)	

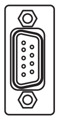
5 スピーカー出力部

		スピーカーをつなぎます（16ページ）。

6 ソニー機器、その他の機器のコントロール端子

	CTRL A1II	CONTROL A1II端子のあるソニーのCDプレーヤー、テープデッキなどをつなぎます（90ページ）。
	CTRL S	CONTROL S端子のあるソニーのテレビおよびDVDプレーヤー、VCRなどをつなぎます（91ページ）。
	TRIGGER OUT	12Vトリガ対応機器の電源のオン/オフをするためにつなぎます（85ページ）。
	IR REMOTE	外部受光部をつなぎます（89ページ）。

7 RS-232C端子

		保守、サービス用です。

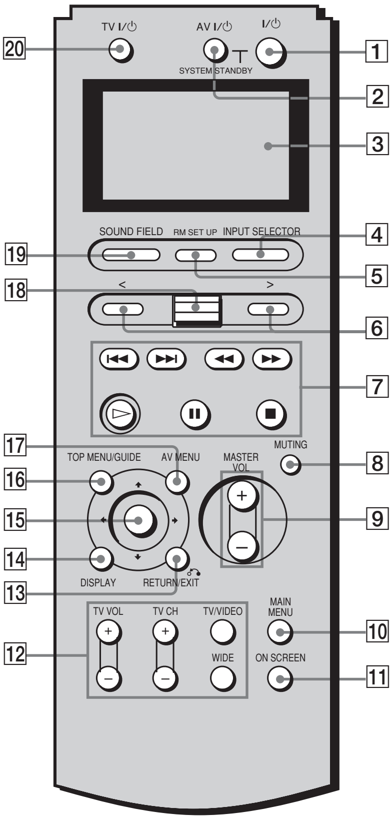
a) お手持ちのテレビを MONITOR OUT 端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（26、70 ページ）。また、ON SCREEN を押したとき、SPEAKER SET UP、LEVEL、SURROUND SET UP、EQUALIZER、CUSTOMIZE メニューの設定やサウンドフィールドを表示できます。

b) 同じ入力名のコンポーネント映像端子と D4 映像端子に同時につながないでください。これらは本機内部で並列につながれているためです。

リモコン

付属のAVリモコン（RM-AAE004）を使って、本機の操作ができます。

AVリモコン（RM-AAE004）



リモコンのボタン	機能
1 I/⏻（電源）	本体の電源を入/切します（43ページ）。マルチゾーンが選ばれているときは、このボタンで本機の電源のみ入/切します。すべての機器の電源を切るときは、I/⏻とAV/I/⏻（2）を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
2 AV I/⏻	リモコンに登録されている機器の電源を入/切します（98ページ）。I/⏻スイッチ（1）と同時に押すと、本体と、他のソニー製オーディオ/映像機器の電源を切ります（SYSTEM STANDBY）。
3 表示窓	選べる項目のリストが表示されます。
4 INPUT SELECTOR	押すと入力（機器）リストが表示されます（43ページ）。
5 RM SET UP	リモコンの設定項目のリストが表示されます。
6 </>	表示窓に表示される項目を切り換えます。＜ボタンをくり返し押すとAV AMPLIFIERメニューが表示され、＞ボタンをくり返し押すとSUBメニュー（95ページ）やNUMメニューが表示されます。
7 ◀◀/▶▶a) ■a) ❚❚a) ▷a) b) ❙◀◀/▶▶❙a)	テープデッキやCDプレーヤーなどを操作します。
8 MUTING	音を瞬時に消したいときに押します（43ページ）。
9 MASTER VOL +b)/–	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（43、65ページ）。
10 MAIN MENU	本機のメニュー（LEVEL、SURROUND SET UP、EQUALIZER、AUTO CALIBRATION、SPEAKER SET UP、CUSTOMIZE、CISメニュー）を選ぶときに押します。
11 ON SCREEN	テレビ画面のメニュー表示を入/切します。
12 TV VOL +b)/– TV CH +b)/– TV/VIDEO WIDE	テレビを操作します。
13 RETURN ↶/EXIT	ビデオデッキやDVD、衛星放送チューナーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニュー画面を抜けるときに押します。
14 DISPLAY	テレビ画面に表示される情報を切り換えるときに押します。
15 コントロールボタン	MAIN MENU（10）、TOP MENU/GUIDE（16）、またはAV MENU（17）を押したあとで、コントロールボタンを上下左右に動かしてさまざまな設定を選びます。メニューによっては押して決定します。
16 TOP MENU/GUIDE	DVDや衛星放送チューナーのメニューやガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。コントロールボタンを使ってメニュー操作を行います。

ご注意

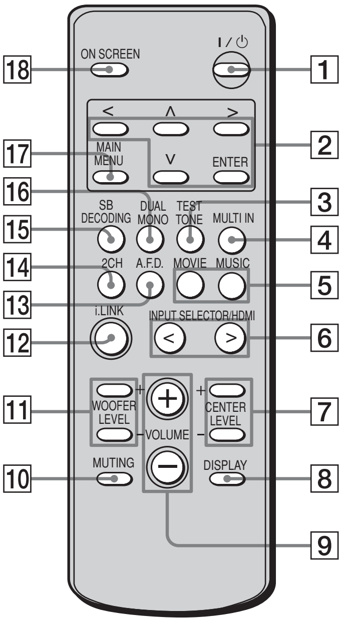
AV I/⏻ スイッチの機能は、INPUT SELECTOR（4）のリストを選ぶことで自動的に切り換わります。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。

つづく

リモコンのボタン	機能
17 AV MENU	ビデオデッキやDVD、衛星放送チューナーのメニューをテレビ画面に表示させるときに押します。コントロールボタンを使ってメニュー操作を行います（97ページ）。
18 **イージースクロールキー**	リストが表示されているときに、上下に回して項目を選び、押して決定します。
19 SOUND FIELD	サウンドフィールドリストが表示されます（48、51ページ）。
20 TV I/⏻	テレビの電源を入/切します。

[a] 各機器を操作できるその他のボタンについては、94 ページの表をご覧ください。
[b] ▷、TV VOL +、TV CH +、MASTER VOL + ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

簡単リモコン（RM-U9S）



名称	働き
1 I/⏻（電源）	本機の電源を入/切します（44、45、46、47ページ）。
2 ∧/∨/</> ENTER	設定したいメニューや項目、パラメーターを選び、確定します。
3 TEST TONE	テストトーンを出力します（65ページ）。
4 MULTI IN	MULTI CH IN端子につながれている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。
5 MOVIE MUSIC	サウンドフィールド（映画用：MOVIE、音楽用：MUSIC）を選びます（51ページ）。
6 INPUT SELECTOR/HDMI	再生する入力ソースを選びます（43、44、45、46、47、71、72、84ページ）。
7 CENTER LEVEL +/−	センタースピーカーの音量を調節します。
8 DISPLAY	プログラムの名称や設定など、さまざまな情報を表示します（82ページ）。
9 VOLUME +*/−	本機（アンプ）の音量を調節します（43、44、45、46、47ページ）。
10 MUTING	消音します。消音されているときに押すと、消音が解除されます（43ページ）。
11 WOOFER LEVEL +/−	サブウーファーの音量を調節します。

名称	働き
12 i.LINK	i.LINK端子につながれている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。
13 A.F.D.	A.F.D.モードを選びます（48、49ページ）。
14 2CH	2CH STEREOモードを選びます（53ページ）。
15 SB DECODING	サラウンドバック音声デコードの設定を切り換えます（54ページ）。
16 DUAL MONO	二重音声の再生モードを選びます（79ページ）。
17 MAIN MENU	LEVELやCUSTOMIZEなど、メインメニューを選びます（55、56、58、61、66、67、70、71、77、78、83、85ページ）。
18 ON SCREEN	本機につないだテレビにメニューや設定を表示させます（65、70ページ）。

＊　＊の付いたボタン（VOLUME ＋ボタン）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

準備１：スピーカーを設置する

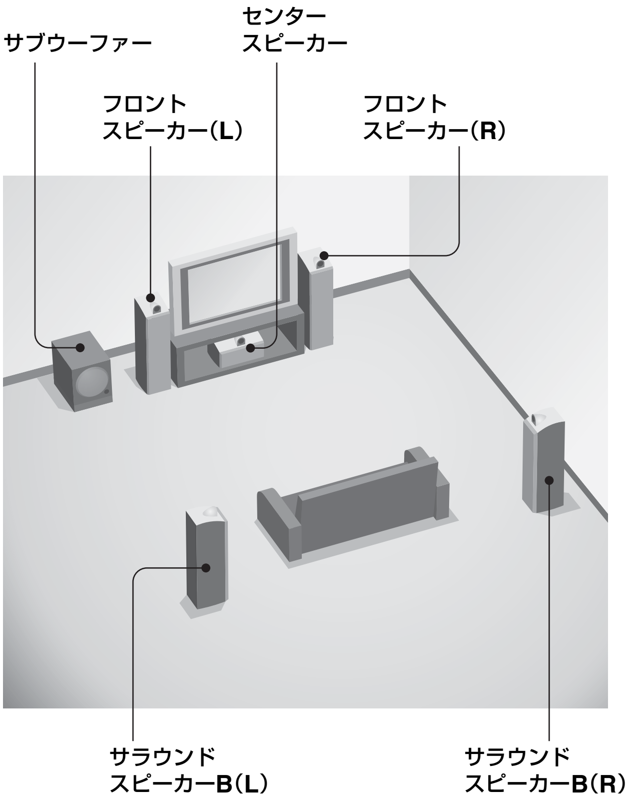
本機では最大9.1チャンネル（スピーカー 9本とサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。

5.1/7.1チャンネルで楽しむ

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、
- 5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）
- サブウーファー

が必要です（5.1チャンネル）。

5.1チャンネルの設置例

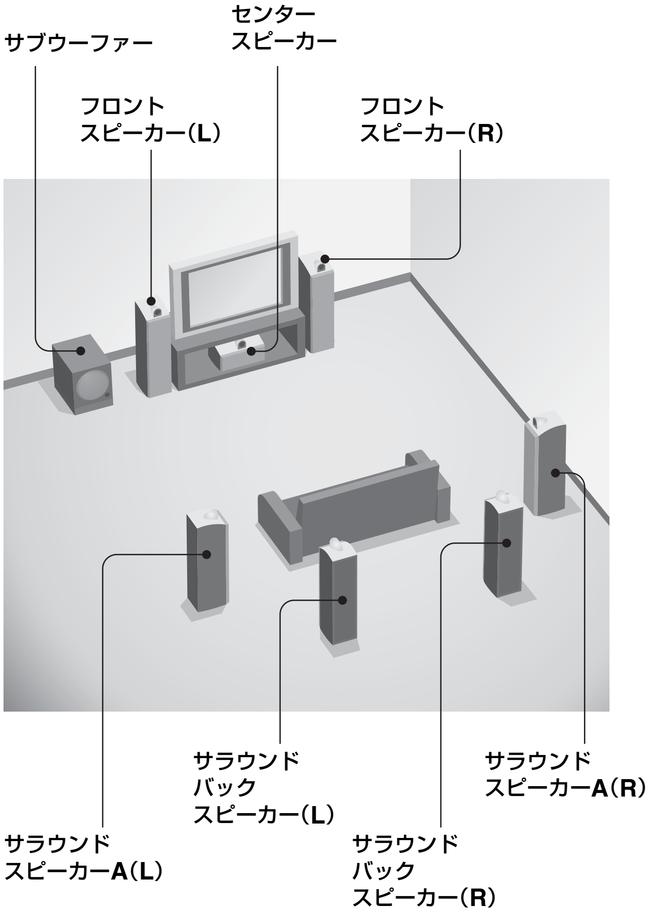


5.1チャンネルにさらに
- サラウンドバックスピーカー：1本（6.1チャンネル）

または
- サラウンドバックスピーカー：2本（7.1チャンネル）

を追加することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDソフトを忠実に再現できるようになります（「サラウンドバックデコーディング機能の種類を選ぶ（SB DECODING）」（54ページ））。

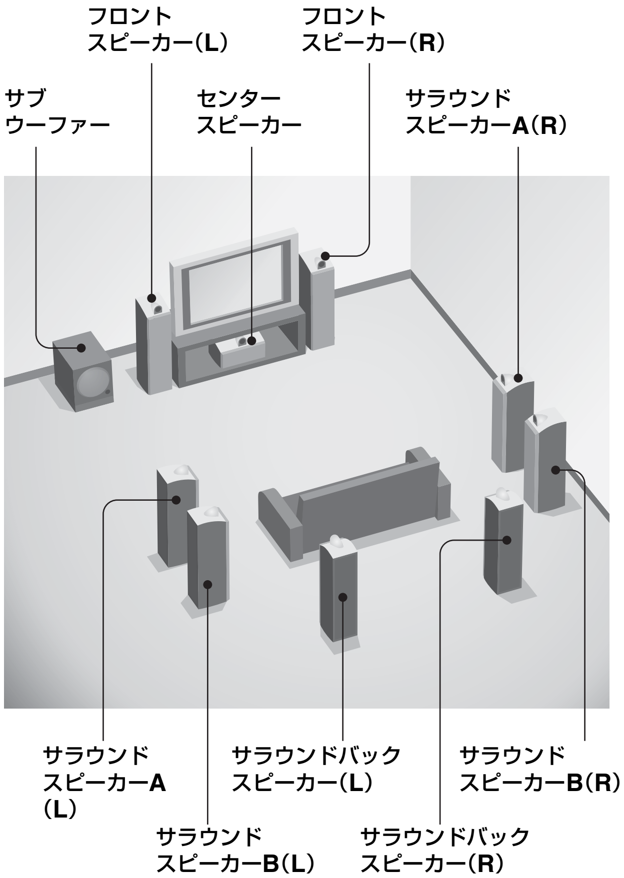
7.1チャンネルの設置例



ちょっと一言
- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。
- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

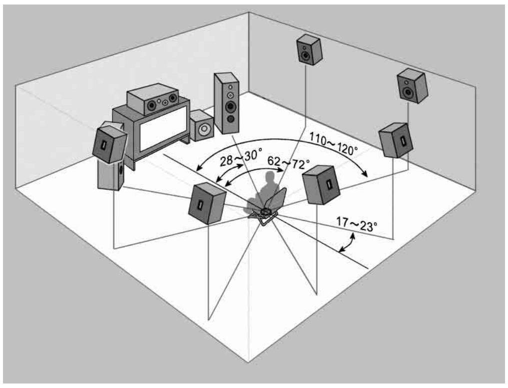
9.1チャンネルで楽しむ

映画の音を製作する大型のスタジオでは、サラウンドスピーカーが合計で10個程度使われています。しかし、小型のスタジオでは、左右の壁と後ろの壁に、それぞれ2個ずつ設置されている場合がほとんどです。
本機では、最小構成の9.1チャンネルを使うことができます。
9.1チャンネルの優位性は、フロントの映像の世界とサラウンドの世界のつながりが非常によくなることです。従来もバーチャル技術でこの音場を提供してきましたが、9.1チャンネルはリアルマルチチャンネルです。
サービスエリアが広く、室内にいる家族全員が効果的な音を聞くことができます。部屋の中央で聞く音場は、まさに映画製作者が聞いた音です。



スピーカーの設置のポイント

部屋の中央を基準にして、下の図の角度を参考にしてスピーカーを配置してください。角度が理想的にならない場合は、一組のサラウンドスピーカーをリスニングポジションより前（フロントスピーカー寄り）に配置してください。この位置を微調整することで、フロントとサラウンドのつながりが非常によくなります。
配置の基準点は部屋の中央ですが、基準点より後ろの空間であれば、部屋の中のどこにいても音を効果的に楽しむことができます。



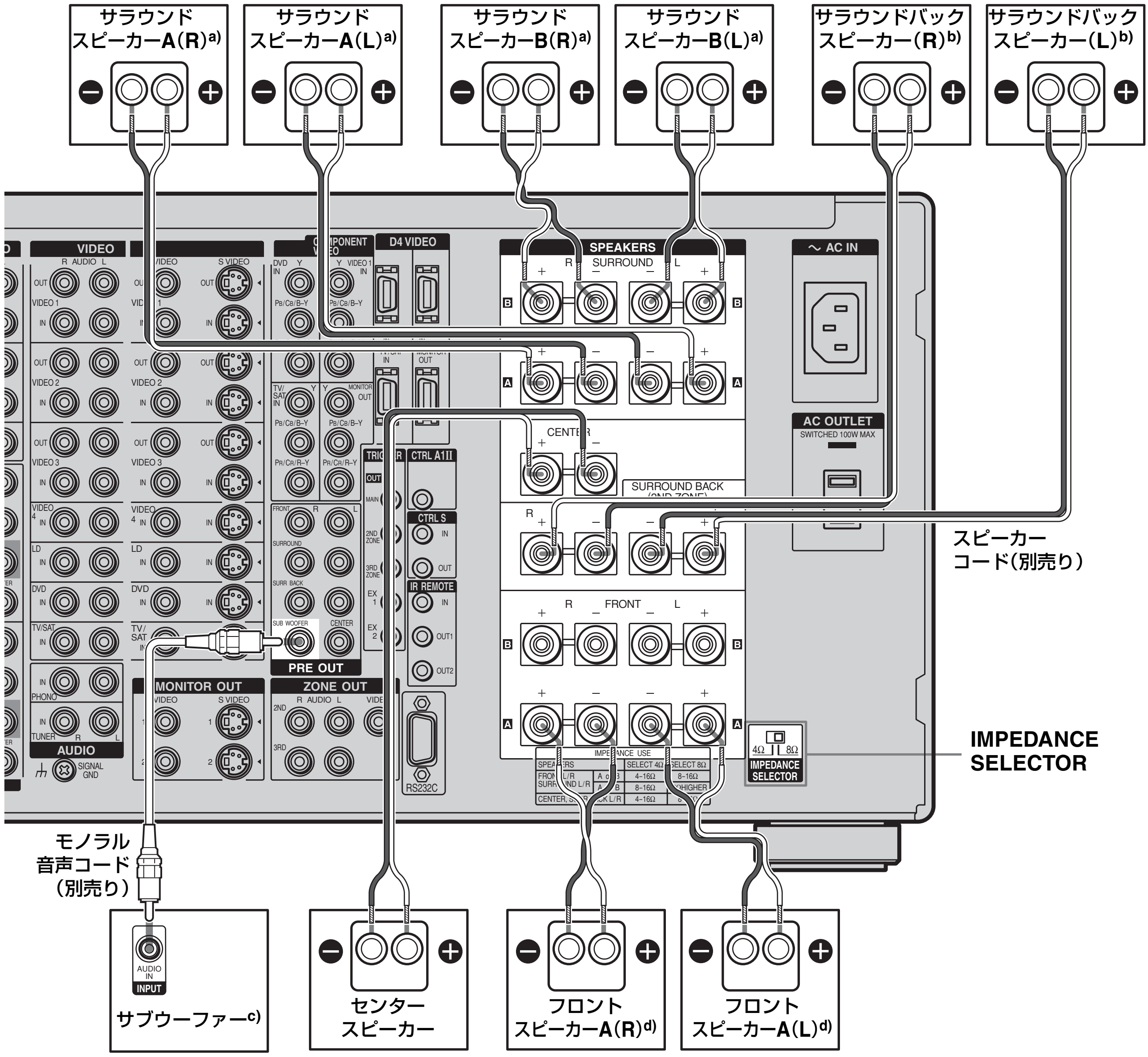
9.1チャンネルでシネマスタジオEXモードをお使いのときは

SURROUND SET UPメニューで「VIR.SPEAKERS」を「OFF」にしてください（57ページ）。使用するスピーカーが多いので、バーチャルスピーカー（仮想スピーカー）を使わなくても効果的に映画を鑑賞できます。
本物のスピーカーはバーチャルスピーカーと違い、表現力がスピーカーにより違います。エフェクトレベルは、セリフが自然な感じに聞こえ、サウンドエフェクトの迫力がバランスよくなるように調整してください。

9.1チャンネルでスーパーオーディオCDなどのピュアオーディオを聞くには

9.1チャンネルは、スーパーオーディオCDなどのピュアオーディオ用にそのまま使うことができます。しかし、スピーカーの性格や音楽ソフトの作りかたによっては、スーパーオーディオCDは7.1チャンネル、または5.1チャンネルで再生したほうがいい場合があります。このような場合は、サラウンドスピーカーのAとBを入れ換えて、サラウンドBで5.1チャンネル、サラウンドA＋Bで9.1チャンネルとしてお使いいただくことをおすすめします（37ページ）。

準備 2：スピーカーを接続する



a) 使用するサラウンドスピーカーを本機前面の SURROUND SPEAKERS スイッチで選べます。詳しくは、「準備 5：使用するフロントスピーカーとサラウンドスピーカーを選ぶ（SPEAKERS スイッチ）」（37 ページ）をご覧ください。

b) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L 端子につないでください。

c) オートスタンバイ機能があるサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、サブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイモードになり、音が出なくなることがあります。

d) 使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS FRONT スイッチで選べます。詳しくは、「準備 5：使用するフロントスピーカーとサラウンドスピーカーを選ぶ（SPEAKERS スイッチ）」（37 ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

別のパワーアンプにつないでいるスピーカーに出力するためには、PRE OUT 端子を使用してください。SPEAKERS 端子と PRE OUT 端子の両方から同じ信号が出力されます。例えば、フロントスピーカーだけを別のアンプにつなぎたい場合は、そのアンプを PRE OUT FRONT L、R 端子につなぎます。

スピーカーインピーダンスの設定について

- 本機後面のIMPEDANCE SELECTORスイッチを切り換えるときは、必ず電源を切ってください。
- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています）。

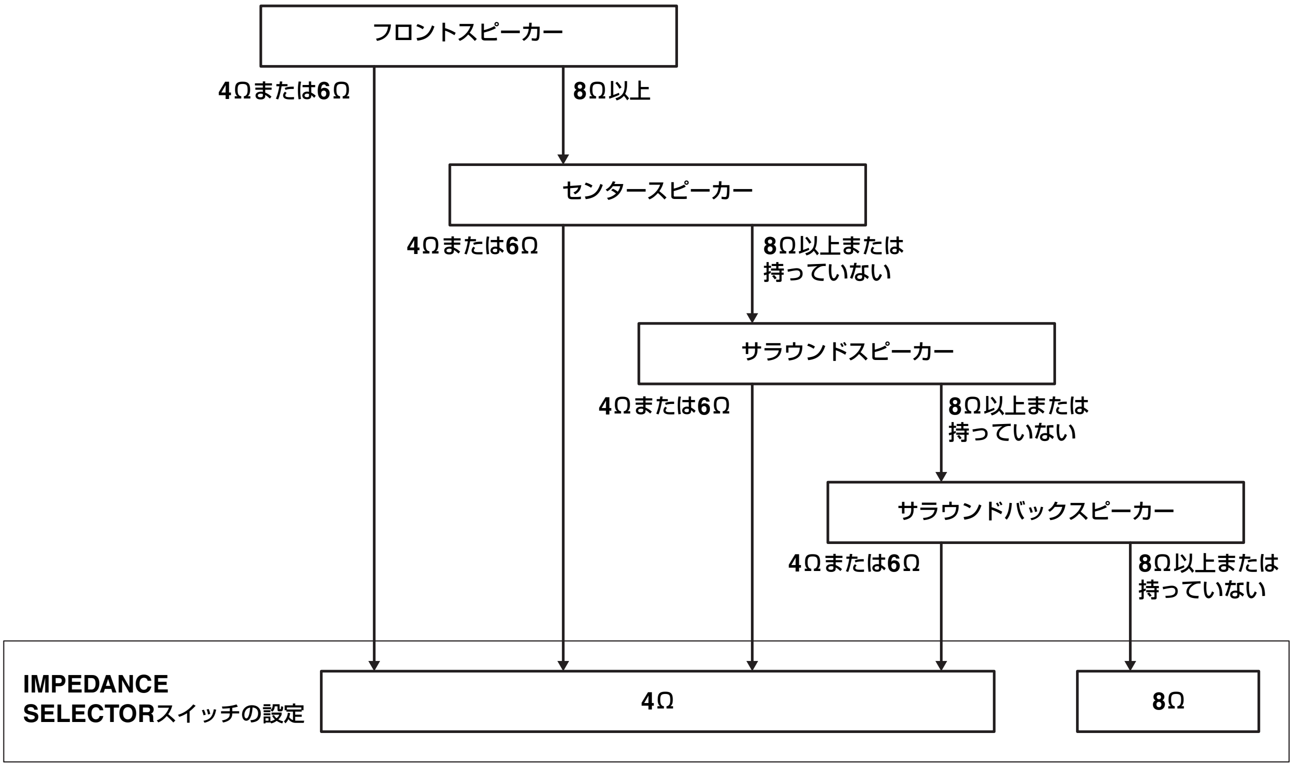
すべて8Ω以上のスピーカーをつないだ場合は

IMPEDANCE SELECTORスイッチを「8Ω」にしてください。それ以外の場合は「4Ω」にしてください。

FRONT SPEAKERS AとB端子の両方にスピーカーをつないで使う場合と、SURROUND SPEAKERS AとB端子の両方にスピーカーをつないで使う場合は

「準備5：使用するフロントスピーカーとサラウンドスピーカーを選ぶ （SPEAKERSスイッチ）」（37ページ）をご覧ください。

お使いのスピーカーのインピーダンスとIMPEDANCE SELECTORスイッチの設定



準備 3a:オーディオ機器を接続する

お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	デジタル音声出力端子付き[a]	19ページ
		マルチチャンネル音声出力端子付き[b]	20ページ
		i.LINK端子付き	21ページ
		アナログ音声出力端子付き[c]	22ページ
	MD/DATデッキ	デジタル音声出力端子付き[a]	19ページ
		アナログ音声出力端子付き[c]	22ページ
	カセットデッキ、レコードプレーヤー、チューナー		22ページ

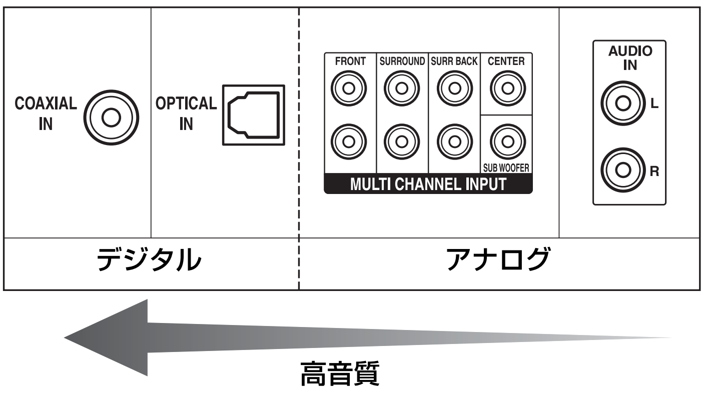
a) DIGITAL OPTICAL OUTPUT、DIGITAL COAXIAL OUTPUT などの端子がある場合。
b) MULTI CH OUTPUT などの端子がある場合。接続機器のマルチチャンネルデコーダーでデコードした音声を、本機から出力するときの接続です。
c) AUDIO OUT L/R などの端子がある場合。

コントロールA1II端子、コントロールS端子のあるソニー製の機器をお持ちの場合は

「ソニー製機器を操作する」（90ページ）をご覧ください。

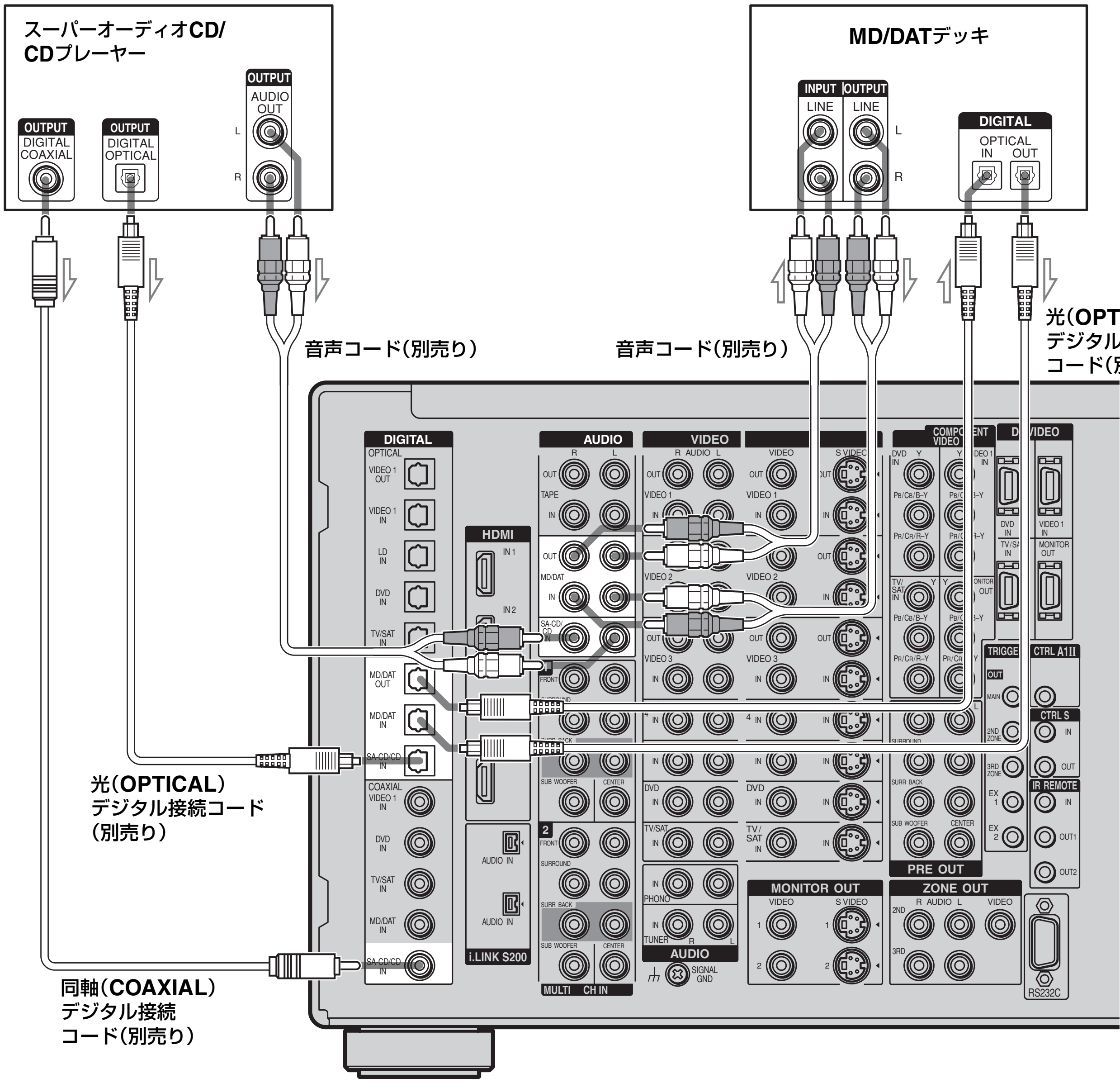
接続する音声端子について

音声信号は下の図のような順によい音質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



デジタル音声出力端子のある機器

スーパーオーディオCD/CDプレーヤーやMD/DATデッキの接続例です。



スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

- 本機のSA-CD/CD OPTICAL IN端子またはSA-CD/CD COAXIAL IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、プレーヤーのOPTICAL端子とCOAXIAL端子からは信号は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のMULTI CH INまたはSA-CD/CD IN端子につないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- スーパーオーディオCDのデジタル音声はデジタル録音できません。アナログ接続してください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

複数のデジタル機器を同時に接続したいときに、空いている入力端子がない場合は

「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（73ページ）をご覧ください。

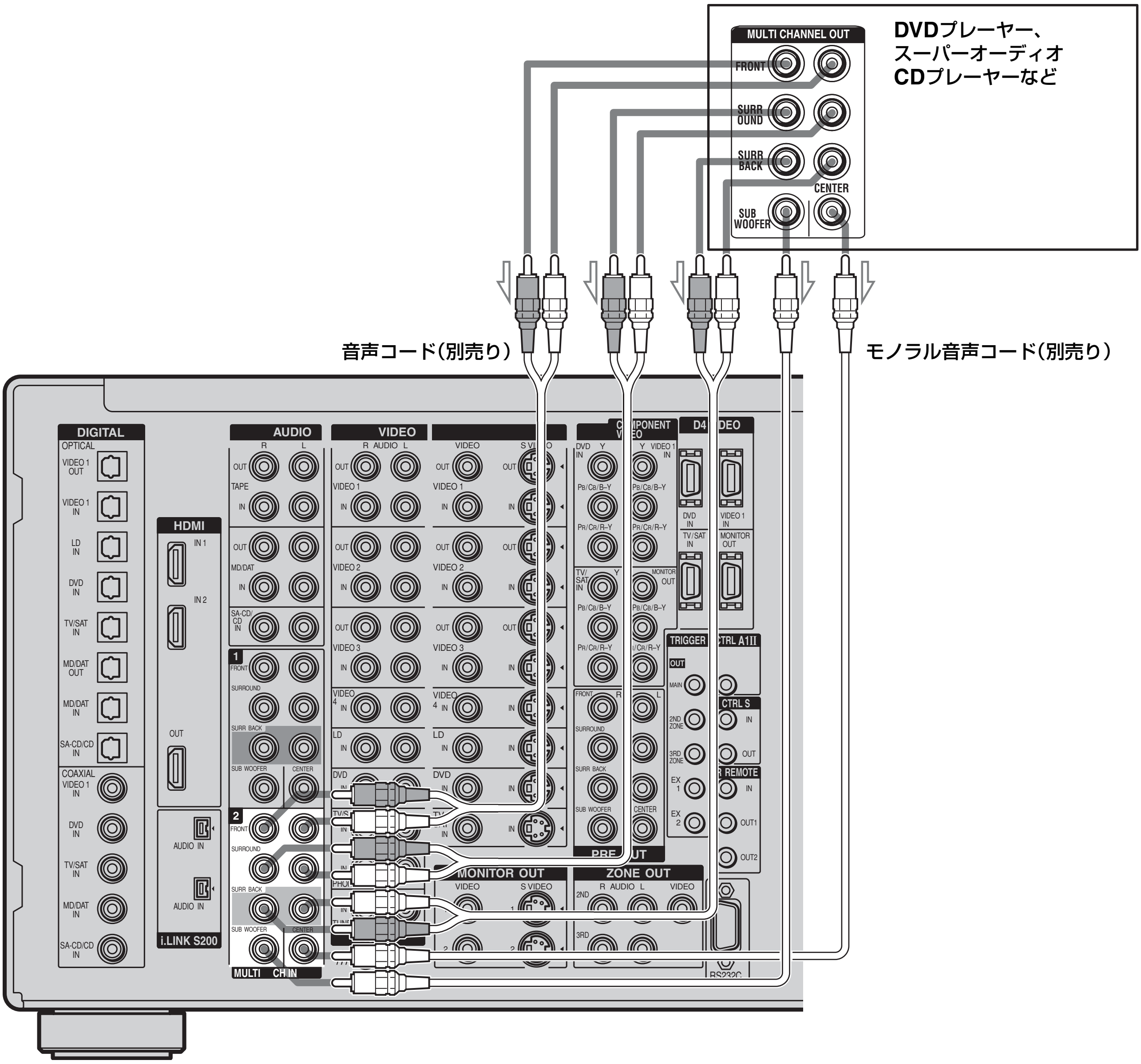
ちょっと一言

- 本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- LD プレーヤーの DOLBY DIGITAL RF OUT 端子を本機のデジタル入力端子に直接つなぐことはできません。RF 復調器が必要です。

つづく

マルチチャンネル音声出力端子のある機器

お手持ちのDVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CH IN端子につないで、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。外部のマルチチャンネルデコーダーとつなぐためにマルチチャンネル入力端子を使用することもできます。



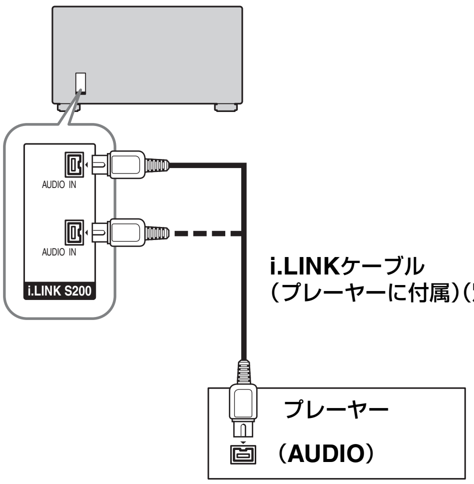
ご注意

- DVD プレーヤーとスーパーオーディオ CD プレーヤーには SURR BACK 端子はありません。
- お買い上げ時はサラウンドバックへの入力が無効になっています。再生機とアンプを 7.1 チャンネルでつないでいる（サラウンドバックをつないでいる）ときは、CUSTOMIZE メニューの「MULTI IN5.1→7.1」を「NO」に設定してください（79 ページ）。
- SPEAKER SET UP メニューで「SURR BACK SP」を「2ND ZONE」に設定しているときは（62 ページ）、SURR BACK 端子への入力は無効です。

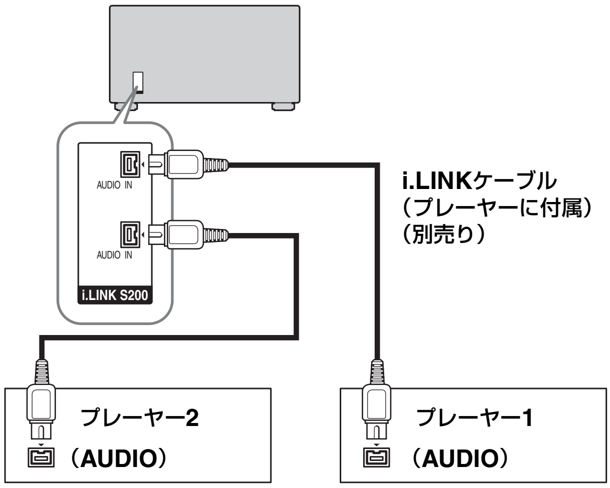
i.LINK端子のある機器

ソニーのSCD-XA9000ES、SCD-DR1またはDVP-NS9100ESは、i.LINKケーブル（各機器に付属、または別売りのソニー製i.LINKケーブル）を使ってつなぎます。接続のしかたについては各機器の取扱説明書もご覧ください。
本機のi.LINK端子はSCD-XA9000ES、SCD-DR1またはDVP-NS9100ESとの接続にのみ対応しています。本機とSCD-XA9000ES、SCD-DR1またはDVP-NS9100ESの間に他の機器をつないだり、SCD-XA9000ES、SCD-DR1またはDVP-NS9100ES以外の機器とi.LINK接続をして使用した場合の動作については保証していません。

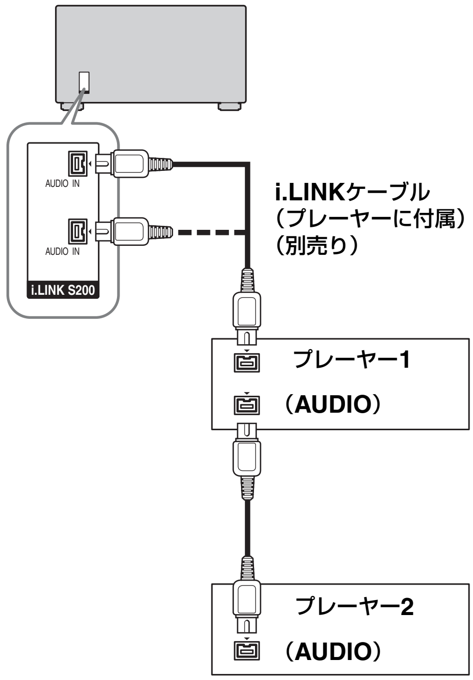
① i.LINK端子にプレーヤーを1台接続する



② i.LINK端子にプレーヤーを1台ずつ接続する

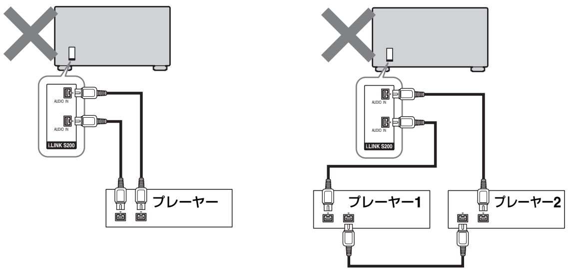


③ 1つのi.LINK端子に2台のプレーヤーを接続する



ご注意

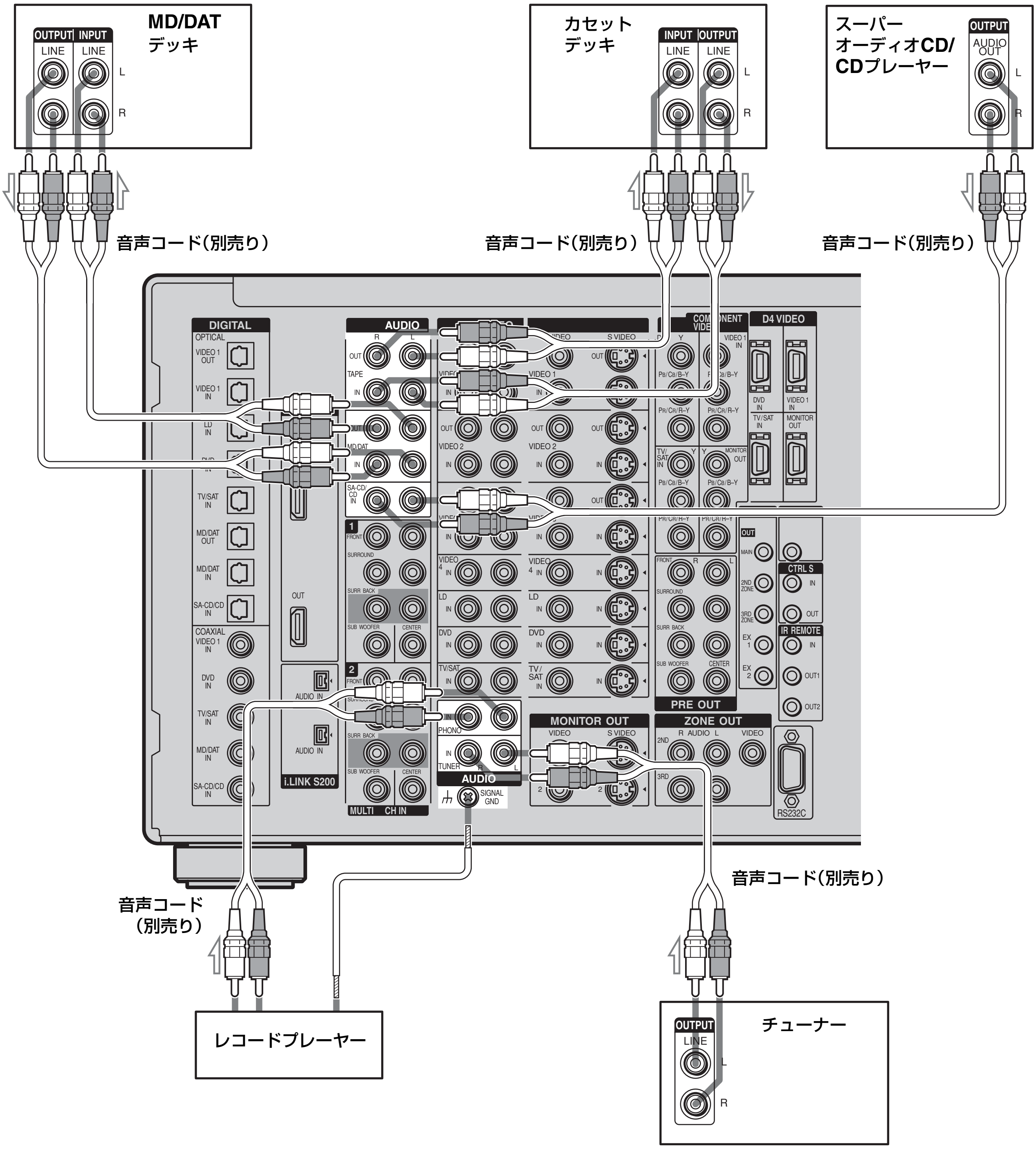
- 機器間で接続がループにならないようにケーブルをつないでください。



- i.LINK 接続中に機器を再生しようとしても、音はでません。本機の表示窓に機器名が表示されてから音がでます。
- 上記の ② または ③ の接続の場合、2 台以上のプレーヤーを再生すると、音がでない場合があります。この場合は、本機が選んでいないプレーヤーを停止させて、本機の i.LINK ボタンを押して再生したいプレーヤーを選びなおしてください。詳しくは、エラーメッセージ“BUSFULL”をご覧ください（118 ページ）。
- i.LINK は映像信号を扱う機器、PC 関連機器とつなぐことができません。
- 本機が対応していない信号（DV、MICROMV や MPEG-TS など）は扱うことができません。
- i.LINK 表記のない IEEE1394 関連機器のオーディオ信号は受信できません。
- i.LINK ケーブルは 1.5m 以下の長さのものを使用してください。
- 他社の i.LINK オーディオ出力付き DVD プレーヤー , スーパーオーディオ CD/CD プレーヤーとつないだ場合の動作については保証していません。
- i.LINK 端子に金属が触れるとショートし、つないだ機器にトラブルが生じる場合があります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。
- i.LINK 対応機器の中には、コピー・プロテクション技術に対応し、暗号化した信号を扱う機器があります。本機は DTLA のコピー・プロテクション技術（Revision 1.3）に対応しています。
- DSD 信号を受けている場合、サウンドフィールド、A/V SYNC、サラウンドバックデコーディングは機能しません。
- i.LINK は、IEEE1394-1995 と IEEE1394a-2000 を示す呼称です。i.LINK と i はソニーの商標です。

アナログ音声出力端子のある機器

カセットデッキやレコードプレーヤーなどアナログ端子のある機器の接続例です。



ご注意

お手持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。

準備 3b：映像機器を接続する

お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

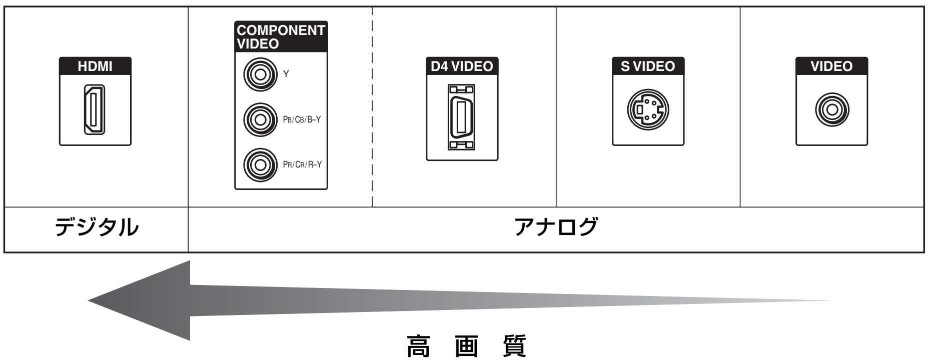
接続機器	HDMI端子のある機器	24ページ
	テレビ	26ページ
	DVDプレーヤー	27～28ページ
	BSデジタル/デジタルCSチューナー	29ページ
	ビデオデッキ、DVDレコーダーなど	30ページ
	ビデオカメラ、テレビゲームなど	30ページ

コントロールA1II/コントロールS端子のあるソニー製の機器をお持ちの場合は

「コントロールA1IIコントロールシステムについて」（90ページ）をご覧ください。

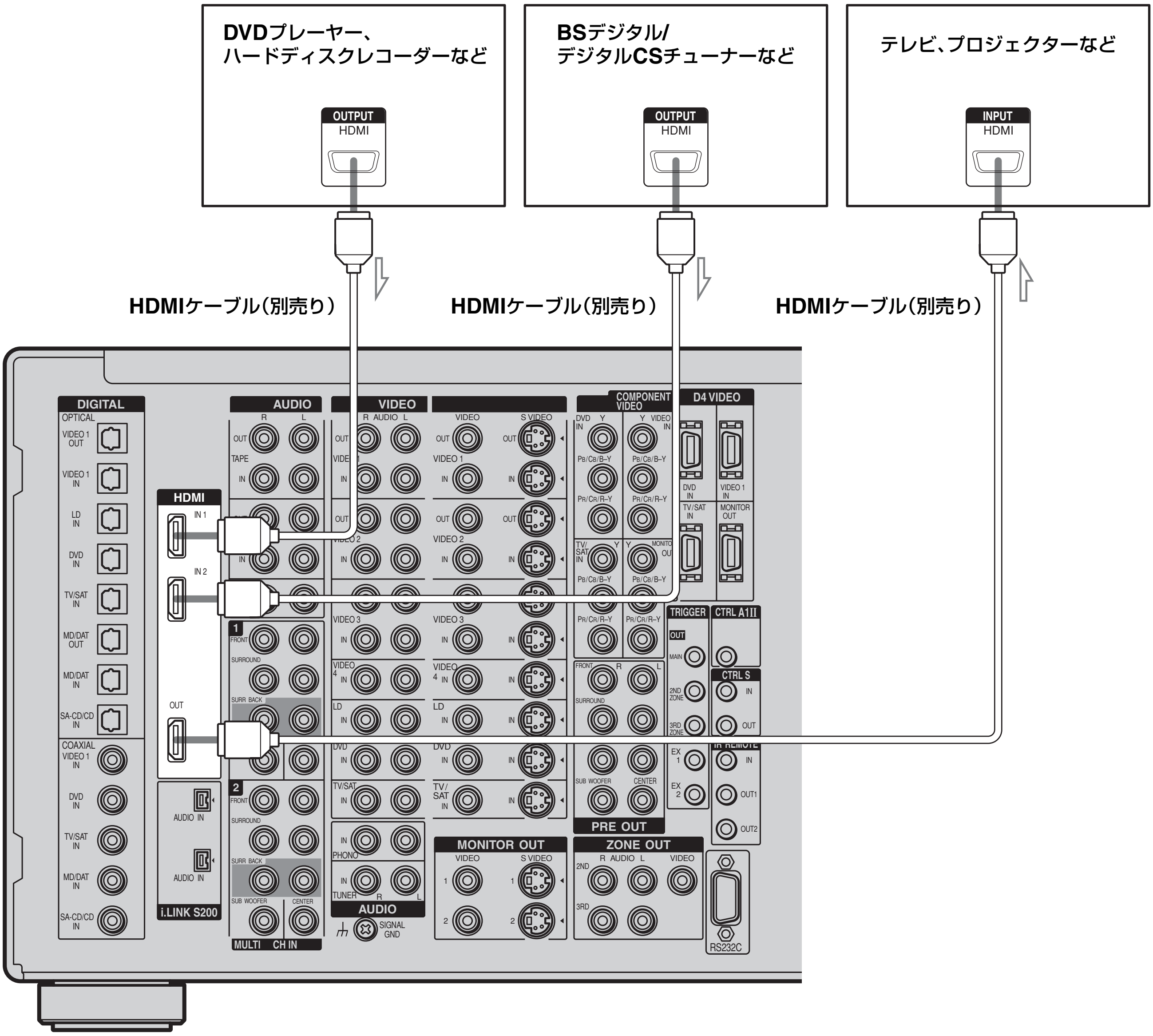
接続する映像端子について

映像信号は次の図のような順によい画質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



HDMI端子のある機器を接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。



HDMI接続でできること

- 本機と再生機器、本機とテレビなどの映像機器をHDMIでつなぎ、高画質、高音質を楽しむことができます。本機が対応している映像の解像度は最大1080pまでです。
- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子とPRE OUTから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- 映像端子、S映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。HDMIに変換できるコンポーネント映像の解像度は最大1080iまでです。映像を変換したとき、音声信号はHDMIから出力されません。

HDMI端子の接続について

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているもの（ソニー製）をお使いください。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。

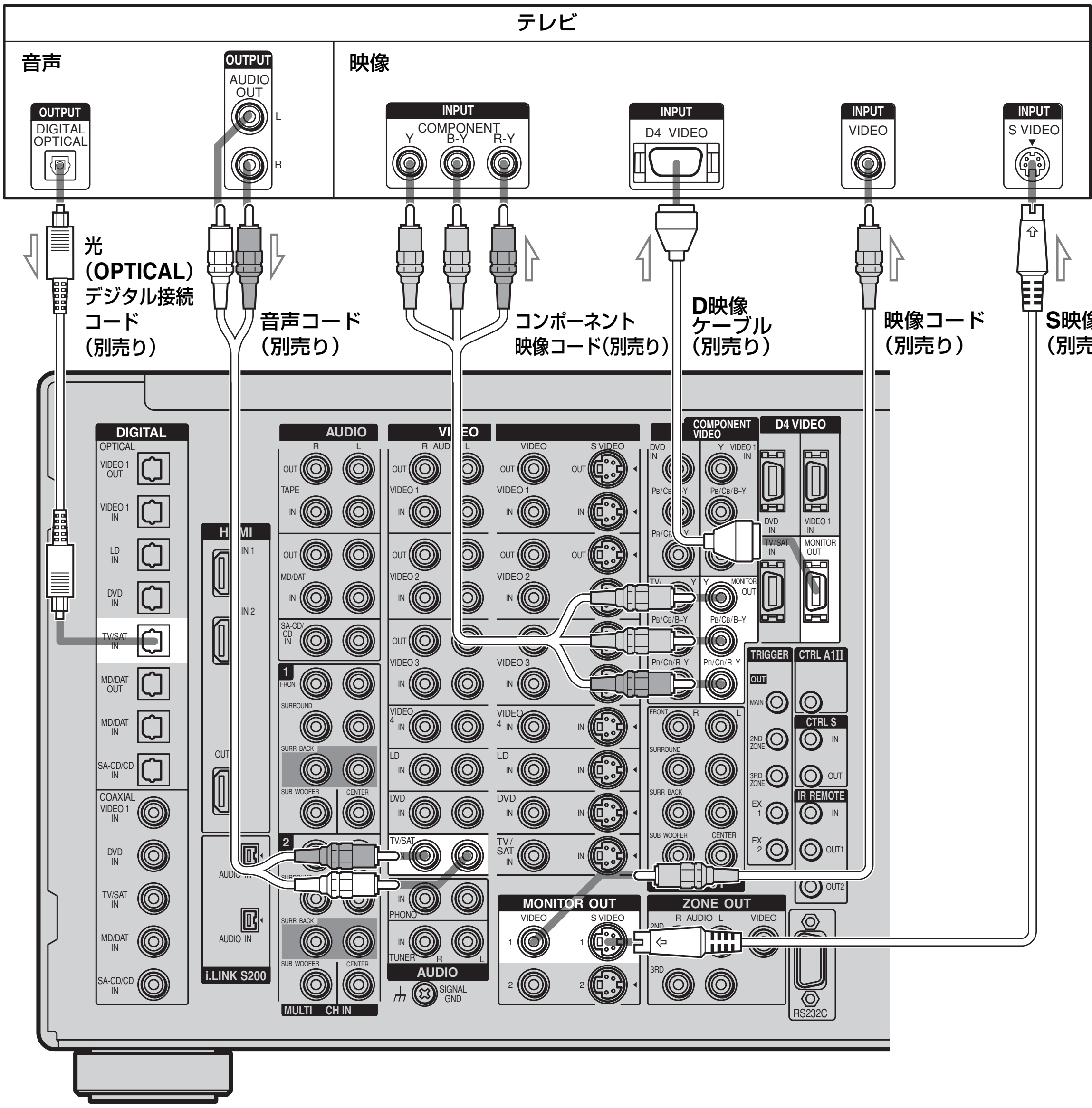
HDMI端子の接続のご注意

- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力、HDMI OUT端子、PRE OUT端子から出力されます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。VIDEO OUT端子、S VIDEO OUT端子とMONITOR OUT端子からは出力されません。
- 音声がテレビから出なかったり、マルチチャンネルで再生できないときは、「HDMI AUDIO」（80ページ）の設定を確認してください。テレビのスピーカーから音声を出すときは、CUSTOMIZEメニューの「HDMI AUDIO」を「TV+AMP」に設定してください。
- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 接続機器が著作権保護技術に対応していないために、本機のHDMI出力の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- HDMI接続の96kHzマルチチャンネル音声を出力する場合は、再生機器の映像の解像度を720p、1080iまたは1080pに設定してください。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、HDMI VIDEO ASSIGNの設定を行ってください（75ページ）。

つづく

テレビを接続する

本機につないだ映像機器の映像や、本機のメニューの設定画面を見ることができます。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



ご注意

- MONITOR OUT 端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- 再生機器の映像と音声が本機からテレビに出力されている場合は、本機の電源を入れてください。本機の電源が入っていないと、映像も音声も送信されません。
- テレビのアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。

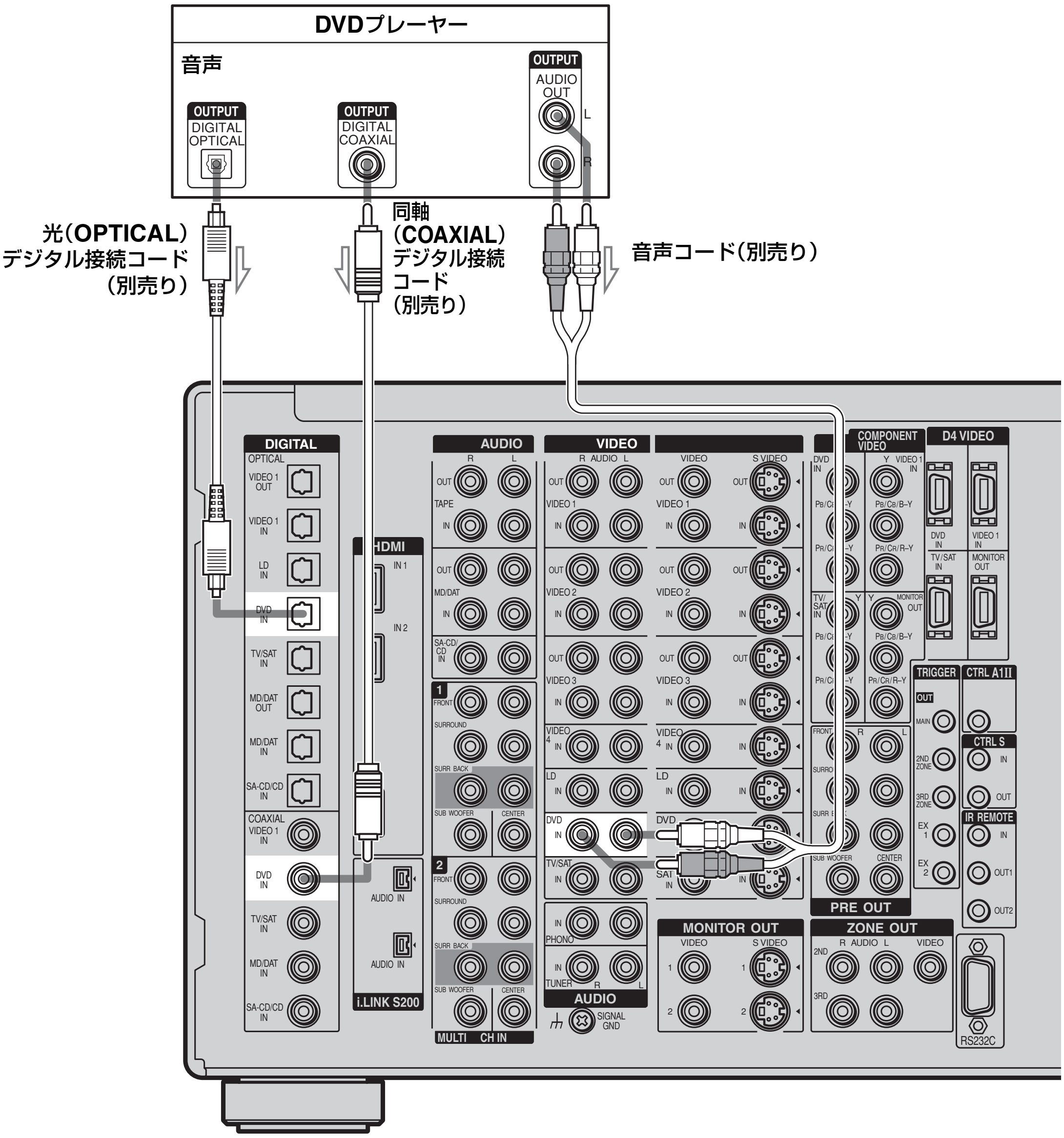
ちょっと一言

- 本機は映像機器の変換機能を持っています。詳しくは、「映像信号の変換機能について」（31 ページ）をご覧ください。
- COMPONENT VIDEO IN 端子または D4 VIDEO IN 端子につないだ機器の映像は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子と D4 VIDEO MONITOR OUT 端子の両方から同時に出力してます。
（例）DVD COMPONENT VIDEO IN 端子に入力した DVD プレーヤーの映像は、D4 VIDEO MONITOR OUT 端子につないだテレビと、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子につないだプロジェクターの両方で見ることができます。このとき本機の入力は「DVD」を選びます。
- テレビに MONITOR OUT 端子をつなぐと、選択された入力映像を見ることができます。さらに、ON SCREEN を押すと、メニュー設定やサウンドフィールドを表示することができます（70 ページ）。
- テレビの音声出力端子を本機の TV/SAT AUDIO IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機で聞けます。このとき、テレビの音声出力端子が可変 / 固定切り換えの場合には、固定にします。別売りの BS チューナーなどをつなぐ場合は、音声・映像端子ともに本機につないでください（29 ページ）。

DVDプレーヤーを接続する

DVDプレーヤーの接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

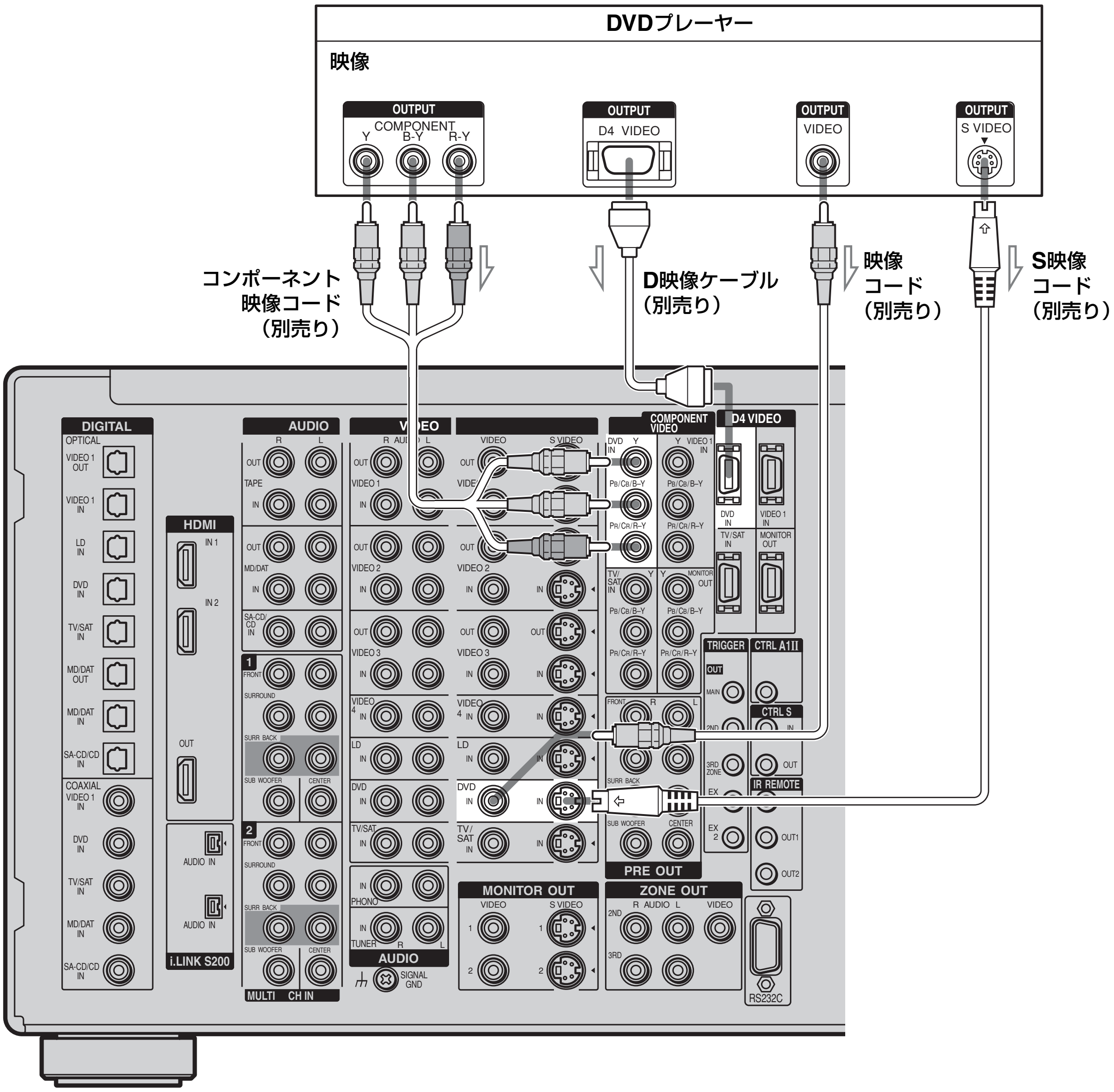
① 音声を接続する



マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVDプレーヤー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

つづく

② 映像を接続する

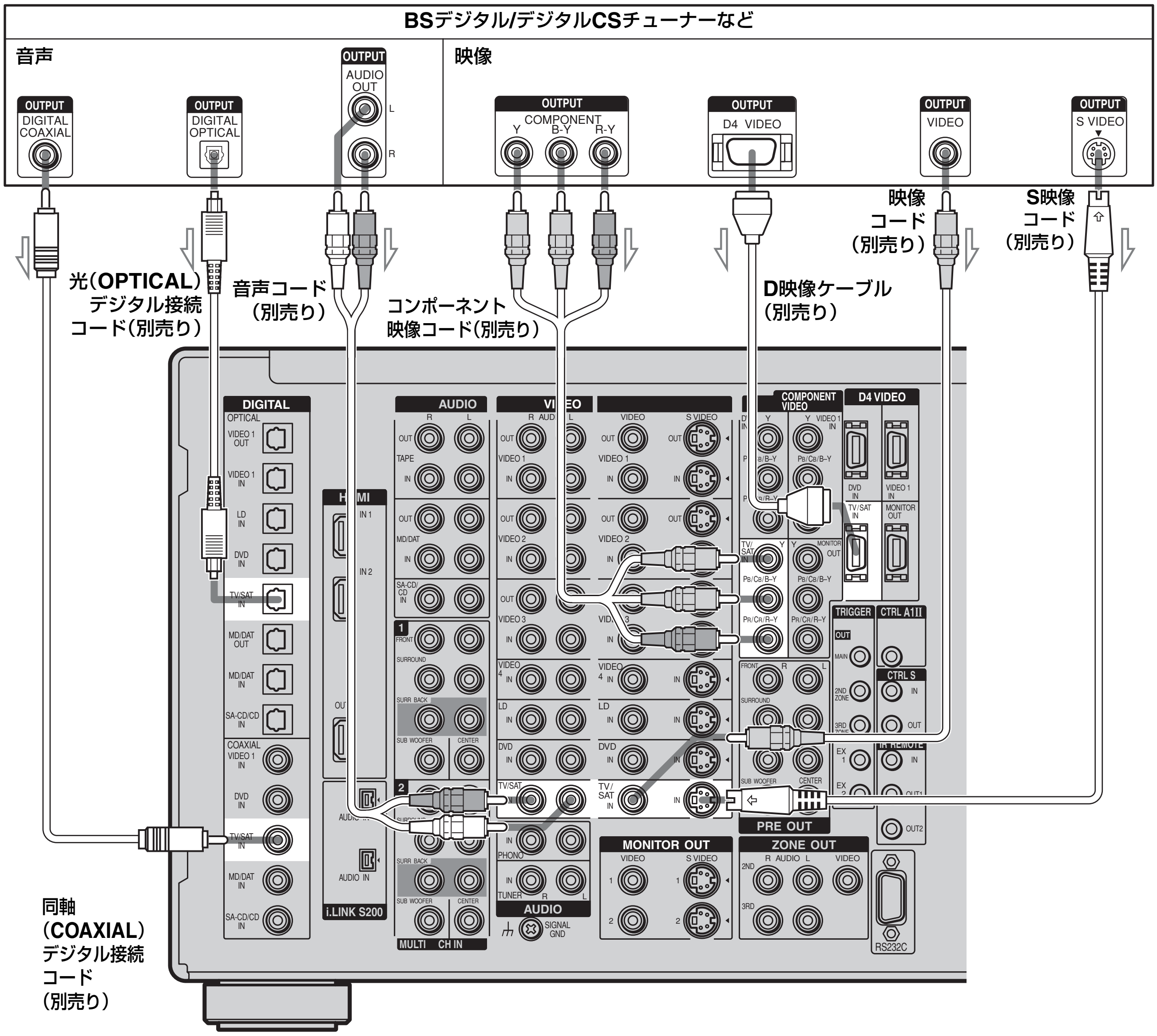


ご注意

同じ入力名の COMPONENT VIDEO IN 端子と D4 VIDEO IN 端子に同時につながないでください。

BSデジタル/デジタルCSチューナーを接続する

BSデジタル/デジタルＣＳチューナーの接続例です。すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



ご注意

- 同じ入力名の COMPONENT VIDEO IN 端子と D4 VIDEO IN 端子に同時につながないでください。

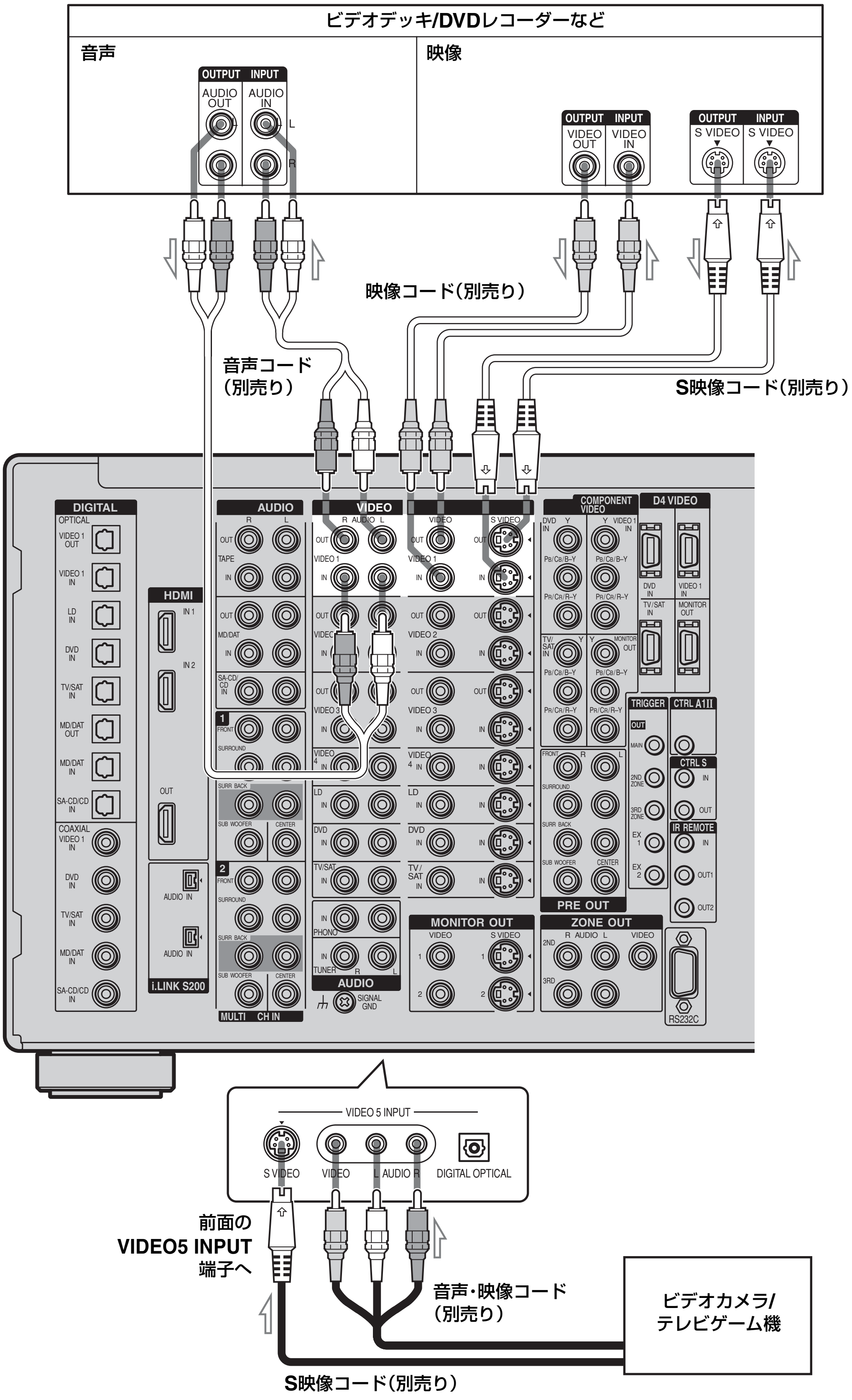
ちょっと一言

- BS デジタルチューナーを D4 VIDEO TV/SAT IN 端子につないだときは、D4 VIDEO MONITOR OUT 端子に D4 映像信号対応のテレビなどをつなぐことをおすすめします。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子につないだときは、プログレッシブ / インターレースなどの画面に関する設定はテレビ側で行ってください。
- BS デジタル放送の MPEG-2 AAC（5.1 チャンネル放送など）を聞くためには、BS デジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。設定項目が「PCM」か「AUTO」のみのときは「AUTO」に設定します。

つづく

アナログ映像/音声出力端子のある機器

ビデオデッキなどアナログ端子のある機器の接続例です。



映像信号の変換機能について

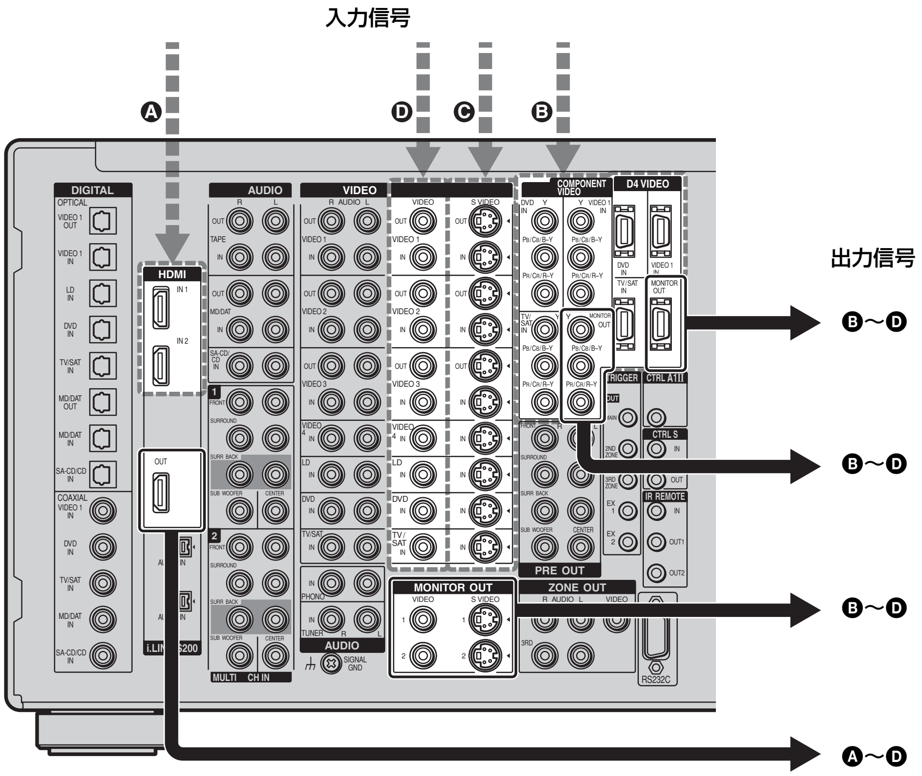
本機は、テレビなどの映像機器の入力端子に合わせて1種類の信号をつなぐだけで、さまざまな再生機器の映像を楽しむことができます。
本機は、次ページの「本機の映像の入出力信号の関係について」の図のように、再生機器からの信号を内部で変換して、MONITOR OUT端子から出力します。

- 通常の映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号、S映像信号に変換できます。
- S映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号、通常の映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、S映像信号、通常の映像信号に変換できます。
- HDMI映像信号は変換できません。

映像の変換（ビデオコンバータ）機能のご注意

- ビデオデッキからの映像信号またはS映像信号を、本機で変換してテレビへ出力する場合、映像信号の状態によっては、テレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- VIDEO OUT端子とS VIDEO OUT端子からの出力にはビデオコンバータ機能はありません（33ページ）。

本機の映像の入出力信号の関係について



出力端子 入力信号（つなぐ端子）	HDMI OUT	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT	D4 VIDEO MONITOR OUT	S VIDEO MONITOR OUT	VIDEO MONITOR OUT
HDMI映像（HDMI IN 1/2）Ⓐ	◎	×	×	×	×
コンポーネント映像（COMPONENT VIDEO INまたはD4 VIDEO IN）Ⓑ	○	◎	◎	○（入力信号は480iまで対応）	○（入力信号は480iまで対応）
S映像信号（S VIDEO IN）Ⓒ	○	○	○	○/◎*	○
通常の映像信号（VIDEO IN）Ⓓ	○	○	○	○	○/◎*

◎：入力と同じ信号が出力される。
○：映像は変換されて、ビデオコンバータを通して出力される。
×：映像は変換されず、出力されない。

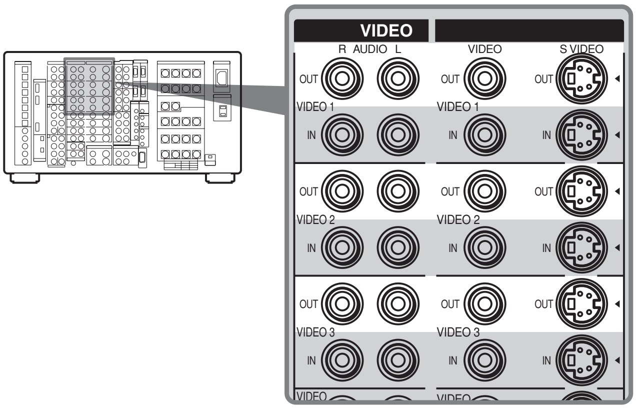
＊ CUSTOMIZE メニューで「VIDEO CONVERT」を「OFF」に設定すると出力されます。

ご注意

- 変換された映像信号は MONITOR OUT 端子以外（VIDEO OUT 端子、S VIDEO OUT 端子、2ND ZONE VIDEO OUT 端子）からは出力されません。
- ビデオデッキからの通常の映像信号または S 映像信号を変換したものをテレビにつないでいる場合、映像信号の状態によってはテレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- S 映像信号に含まれる S2 情報（画像のアスペクト情報）は、S 映像入力信号を S VIDEO MONITOR OUT 端子から出力する場合のみ有効です。通常の映像信号、コンポーネント映像信号から変換したものを S VIDEO MONITOR OUT 端子から出力すると、映像のアスペクト比が正しく表示されない場合があります。
- 画質向上回路（TBC など）を搭載したビデオデッキなどを再生するとき、映像が乱れたり出なくなることがあります。
  この場合、ビデオデッキなどの画質向上回路（TBC など）をオフにしてお使いください。

録画機器をつなぐには

録画する場合は、録画機器を本機のREC OUT（VIDEO OUT端子やS VIDEO OUT端子）につないでください。REC OUTには映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。



メニューの設定による映像信号の入出力の関係

映像の変換機能はON/OFFを設定できます。CUSTOMIZEメニューの「VIDEO CONVERT」と「PROGRESSIVE OUT」の設定による映像信号の入出力の関係は、以下の表のようになります。

メニューの設定	出力端子 / 入力信号	HDMI OUT	COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO MONITOR OUT	S VIDEO MONITOR OUT	VIDEO MONITOR OUT
VIDEO CONVERT: ON（初期設定）/ PROGRESSIVE OUT: OFF（初期設定）	通常の映像信号	○	○（480i）	○	○
	S映像信号	○	○（480i）	○	○
	コンポーネント/D4映像信号（480i）	○*	◎	○*	○*
	コンポーネント/D4映像信号（480i以外）	○**	◎	×	×
VIDEO CONVERT: ON（初期設定）/ PROGRESSIVE OUT: ON	通常の映像信号	○	○（480p）	○	○
	S映像信号	○	○（480p）	○	○
	コンポーネント/D4映像信号（480i）	○*	○（480p）*	○*	○*
	コンポーネント/D4映像信号（480i以外）	○**	×	×	×
VIDEO CONVERT: OFF/ PROGRESSIVE OUT:（ダークアウト）	通常の映像信号	×	×	×	◎
	S映像信号	×	×	◎	×
	コンポーネント/D4映像信号（480i）	×	◎	×	×
	コンポーネント/D4映像信号（480i以外）	×	◎	×	×

◎：映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
○：映像は変換されます。MONITOR OUT端子の出力映像に対して、CUSTOMIZEメニューの「BRIGHTNESS」、「COLOR」、「HUE」の設定を調節できます。
　＊「HUE」は調節できません。
　**「BRIGHTNESS」、「COLOR」、「HUE」は調節できません。
×：映像を出力しません。

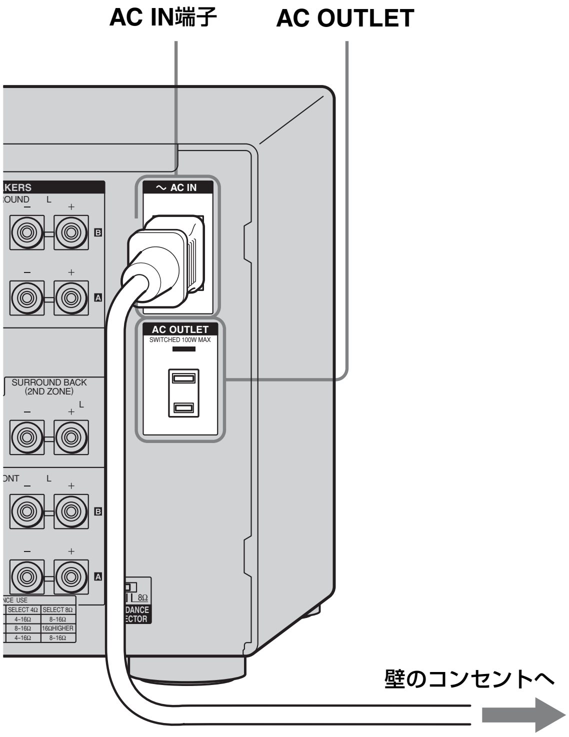
ご注意

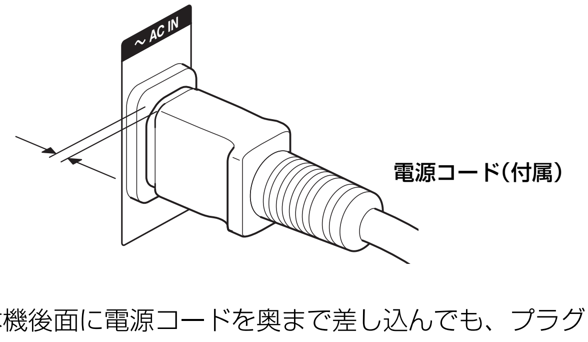
- MONITOR OUT 端子からの出力信号は、正しく録画できない場合があります。
- 本機は NTSC 方式の映像信号のみ対応します。

準備 4:本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

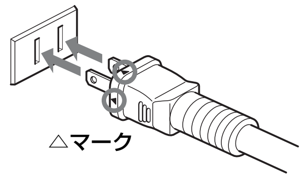
付属の電源コードを本機後面のAC IN （100V）端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。
また、お手持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）につなぐことができます。





本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

電源コードについて



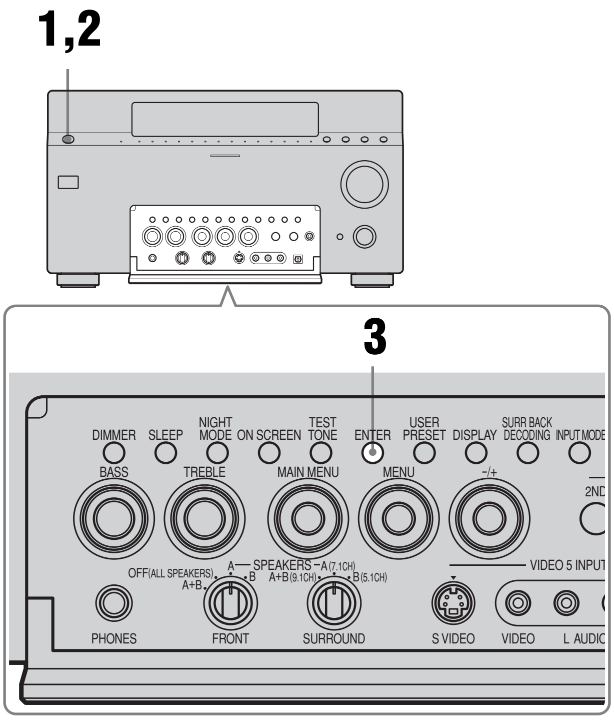
付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。長短がない場合は、極性がわかる市販の検電ドライバーで調べます。

ご注意

- お手持ちの機器の電源コードに極性がある（白線または刻印が付いている）ときは、白線のある側を本機の AC OUTLET の白線のある側（アース側）へ差し込みます。
- 本機後面の電源コンセントは連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、つないだ機器に電源を供給できます。
- つなぐ機器の消費電力の合計が 100W を越えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因になります。

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



1 **I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を切る。**

2 **I/⏻（電源スイッチ）を 5 秒間押し続ける。**

本体の表示窓に「ENTER to Clear All」と約10秒間表示されます。

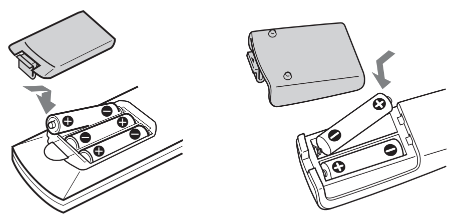
3 **「ENTER to Clear All」が表示されている間に ENTER を押す。**

表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示された後、「MEMORY CLEARED!」と表示されます。下記がお買い上げ時の状態に戻ります。

- LEVEL、SURROUND SET UP、EQUALIZER、AUTO CALIBRATION、SPEAKER SET UP、CUSTOMIZE、CISの各メニューで設定した内容
- 入力ごとに記憶したサウンドフィールド
- 入力に付けた名前

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、AVリモコンには単3形アルカリ乾電池（付属）3個を、簡単リモコンには単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。



AVリモコン　**簡単リモコン**

コマンドモードについて

本機（アンプ）のコマンドモードとリモコンのコマンドモードが一致していないと通信ができず、リモコンで操作できません。本機とリモコンの両方がお買い上げ時のコマンドモードのままならば、設定し直す必要はありません。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部Ⓡに直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言

- 乾電池の寿命は約 3 か月です。ただし、操作する条件により寿命は変わります。残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。
- AV リモコンの表示が消えているときに、SOUND FIELD または INPUT SELECTOR を押すと、COMMAND MODE が表示窓の一番上に表示されます。

つづく

コマンドモードを切り換える

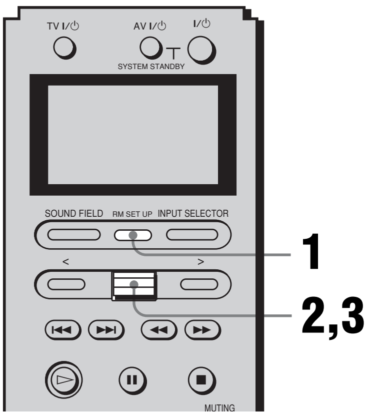
アンプとリモコンのコマンドモードを切り換えることができます（AV SYSTEM1またはAV SYSTEM2）。本機のコマンドモードの初期設定はAV SYSTEM2です。本機のリモコンでお手持ちのソニー製機器も動作する場合は、本機とリモコンのコマンドモードをAV SYSTEM1に変えると、他のソニー製機器は動作しなくなります。

本体のコマンドモードを切り換えるには

2CH を押しながら電源を入れる。

表示窓に「COMMAND MODE [AV1]」と表示され、AV SYSTEM1に設定されます。
もう一度同じ操作をすると、AV SYSTEM1からAV SYSTEM2に設定が変わります。

AVリモコンのコマンドモードを切り換えるには



1 RM SET UP を押す。

設定項目が表示されます。

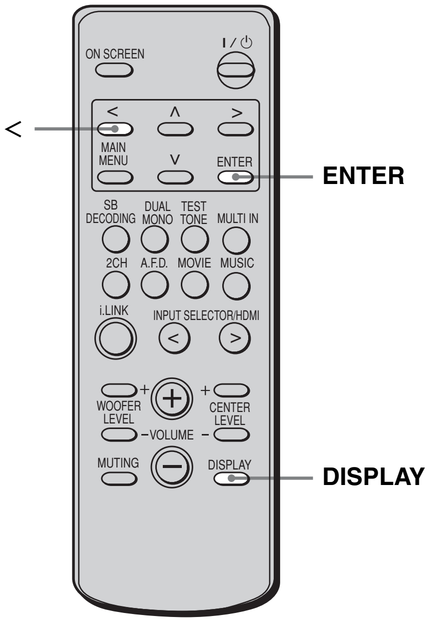
2 イージースクロールキーで「COMMAND MODE」を選び、押して決定する。

コマンドモード項目が表示されます。

3 本機用のコマンドモードを選びます。

イージースクロールキーで「MAIN」を選び、押して決定します。
MAINリストが表示されます。
イージースクロールキーで「AV SYSTEM1」または、「AV SYSTEM2」（本体と同じコマンドモード）を選び、押して決定します。

簡単リモコンのコマンドモードを切り換えるには



< と DISPLAY を押しながら、ENTER を押す。

AV SYSTEM2からAV SYSTEM1に設定が変わります。
もう一度同じ操作をすると、AV SYSTEM1からAV SYSTEM2に設定が変わります。
本機用の設定になっているかは、VOLUMEを押すなどして、本機の操作ができることをご確認ください。

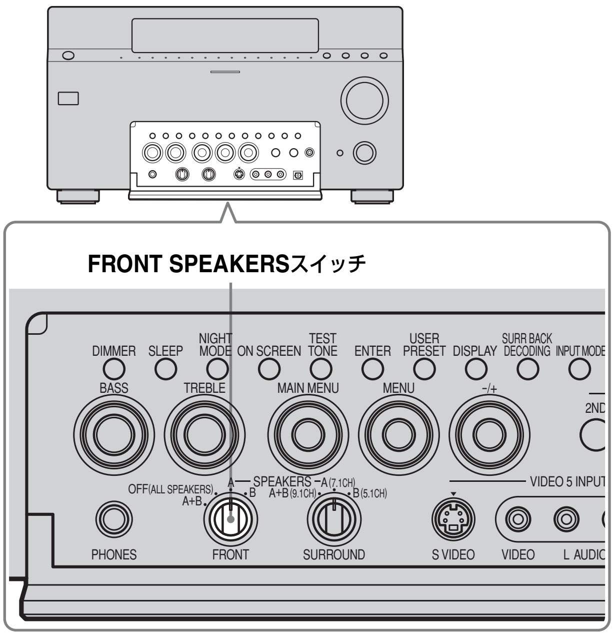
準備 5:使用するフロントスピーカーとサラウンドスピーカーを選ぶ

（SPEAKERS スイッチ）

本機は、前面にフロントスピーカー A、B、A+B（パラレル接続）の切り換えとサラウンドチャンネルのA（7.1CH)、B（5.1CH)、A+B（9.1CH）切り換えを持っています。後面のフロントスピーカー端子、サラウンドスピーカー端子はAとBがあります。

フロントスピーカーを選ぶ

本機前面のFRONT SPEAKERSスイッチを、使用するスピーカーシステムに合わせます。



合わせる位置	使うスピーカーシステム
A	FRONT SPEAKERS A端子につないだスピーカー
B	FRONT SPEAKERS B端子につないだスピーカー
A＋B*	FRONT SPEAKERS AとB端子につないだスピーカー（パラレル接続）
OFF	すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません

＊ フロントスピーカーを「A+B」で使う場合、8Ω またはそれ以上のインピーダンスのスピーカーをつないでください。
- A、B どちらも 16Ω またはそれ以上のスピーカーをつなぐ場合
  IMPEDANCE SELECTOR スイッチを 8Ω にしてください。
- それ以外の場合
  IMPEDANCE SELECTOR スイッチを 4Ω にしてください。

サラウンドスピーカー端子の使いかた

A端子の使いかた

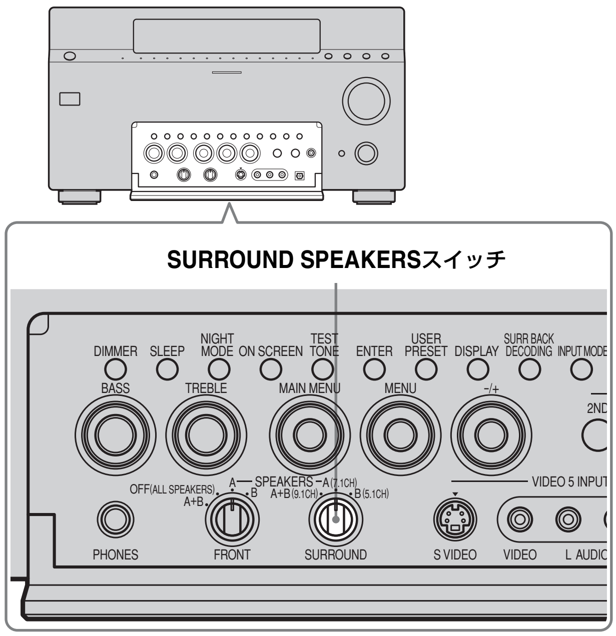
7.1チャンネルまでの操作では、サラウンドスピーカーはA端子につなぎます。このつなぎかたは、映画鑑賞にもスーパーオーディオCDを聞くときにも使える標準的な使いかたです。

B端子の使いかた

B端子は、7.1チャンネルとは別に5.1チャンネル用のサラウンドスピーカーを使う場合や、7.1チャンネルにさらに2本のサラウンドスピーカーを加えて、9.1チャンネルにするときに使います。B端子を使うと、映画用のシステム（7.1チャンネル）とスーパーオーディオCD音楽再生用のシステム（5.1チャンネル）を使い分けることができます。
映画用のサラウンドL/Rをサラウンドスピーカー A端子に、音楽用のサラウンドL/Rをサラウンドスピーカー B端子につないで使います。

サラウンドスピーカーを選ぶ

本機前面のSURROUND SPEAKERSスイッチを、使用するスピーカーシステムに合わせます。



つづく

合わせる位置	使うスピーカーシステム
A（7.1CH）	SURROUND SPEAKERS A端子につないだスピーカー（7.1チャンネル）
B（5.1CH）	SURROUND SPEAKERS B端子につないだスピーカー（5.1チャンネル） サラウンドバックスピーカーからは音は出力されません。
A＋B （9.1CH）＊	SURROUND SPEAKERS AとB端子につないだスピーカー（9.1チャンネル） このとき、SPEAKER SET UPで設定したパラメータは、サラウンドスピーカー Aとサラウンドスピーカー Bのそれぞれの最適な設定値が反映されます。

＊ サラウンドスピーカーを「A＋B」で使う場合、8Ωまたはそれ以上のインピーダンスのスピーカーをつないでください。
- A、B どちらも 16Ω またはそれ以上のスピーカーをつなぐ場合
  IMPEDANCE SELECTOR スイッチを 8Ω にしてください。
- それ以外の場合
  IMPEDANCE SELECTOR スイッチを 4Ω にしてください。

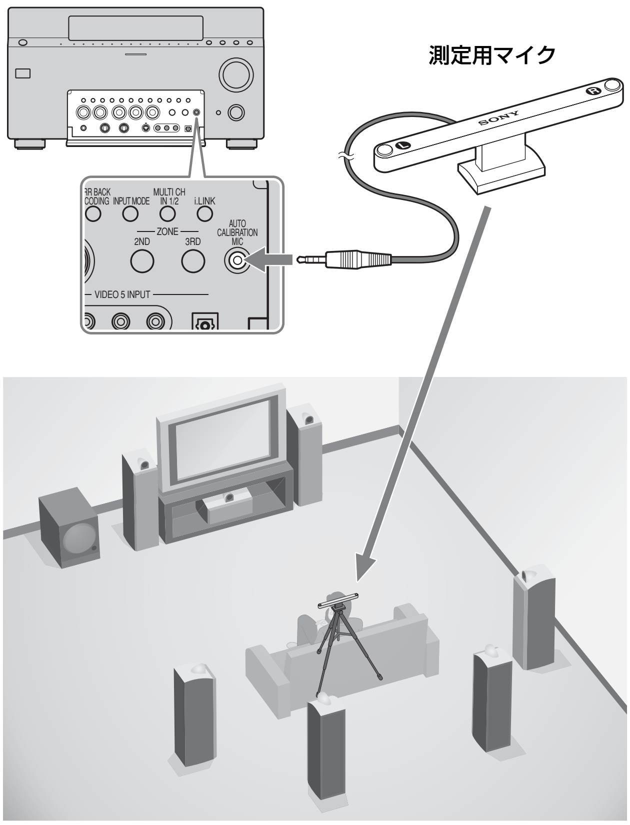
準備 6:自動でスピーカーを設定する（自動音場補正機能）

スピーカーのサイズや距離などの測定と設定を自動的に行います。操作については、付属の「**接続・設定ガイド**」もご覧ください。

測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（14、16ページ）。
測定の前に、以下についてご注意ください。

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。
- バイアンプ接続をしているときは、測定前にサラウンドバックスピーカーの設定をバイアンプにしてください（62ページ）。



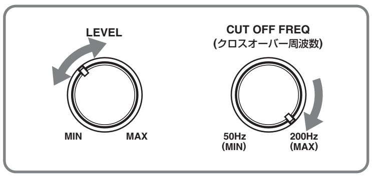
1 測定用のマイク（付属）を本機前面のAUTO CALIBRATION MIC 端子につなぐ。

2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。マイクのLをフロントスピーカー Lに、マイクのRをフロントスピーカー Rに合わせてください。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。
  音量はボリュームつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。



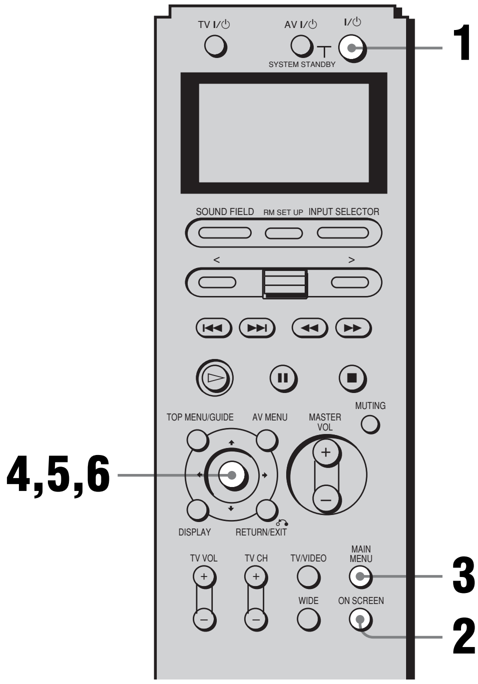
本機をプリアンプとして使う場合は

本機をプリアンプとして使う場合も、自動音場補正機能を使うことができます。
この場合、スピーカーの距離として表示される数値は、実際の距離と異なる場合がありますが、そのまま使って問題ありません。

測定する

自動音場補正機能は以下の項目を測定します。

- スピーカーの有無
- スピーカーの極性
- スピーカーの距離
- スピーカーの角度
- スピーカーのサイズ
- スピーカーのレベル
- 周波数特性

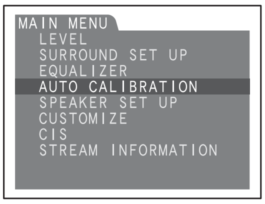


1 本機とテレビの電源を入れる。

2 ON SCREEN を押し、本機のメニューをテレビに表示させる。

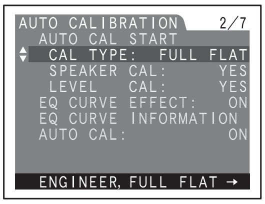
このときテレビの入力を本機のメニュー画面に切り換えてください。

3 MAIN MENU をくり返し押して、「AUTO CALIBRATION」を選び、ENTER を押す。



4 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「CAL TYPE」を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回して「CAL TYPE」を選びます。



ご注意

- AUTO CALIBRATION MIC 端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- お使いになるサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。
- サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの高さ情報は測定できません。SPEAKER SET UP メニューの「SP-A POSI.」、「SP-B POSI.」で設定してください（64 ページ）。

つづく

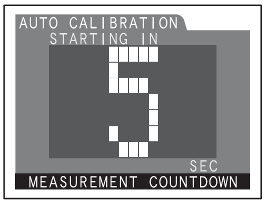
5 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、測定タイプを選ぶ。

または本体の+/−を回して測定タイプを選びます。

測定タイプ	説明
ENGINEER	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
FULL FLAT	各スピーカーの周波数測定を平らにします。
FRONT REF	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。

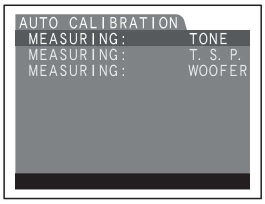
6 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「AUTO CAL START」を選び、押して決定する。

または本体のMENUつまみを回して「AUTO CAL START?」を選び、ENTERを押します。
5秒後に測定を開始します。5秒から1秒までカウントダウンが表示されます。
この間に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。



7 測定が始まる。

測定時間は約30秒です。測定が終了するまでお待ちください。



測定を中止するには

ボリューム操作、ファンクション切り換え、本体のスピーカースイッチの切り換えで中止されます。

測定結果を確認/保存する

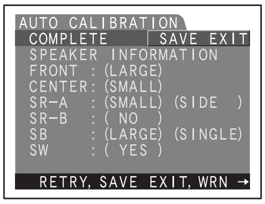
1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果	表示	説明
正常に測定が終了したとき	COMPLETE	手順2へ進んでください。
正常に測定できなかったとき	ERROR	「エラーが出たときは」（41ページ）をご覧ください。

2 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして項目を選び、押して決定する。

または本体のMENUつまみを回して項目を選び、ENTERを押します。



項目	説明
RETRY	再測定します。
SAVE EXIT	測定した設定を保存し、終了します。
WRN CHECK	測定結果の注意事項を表示します。「「WRN CHECK」を選んだときは」（41ページ）をご覧ください。
PHASE INFO	測定結果の詳しい情報を表示します。「「PHASE INFO」を選んだときは」（41ページ）をご覧ください。
DIST. INFO	スピーカーの距離の測定結果を表示します。
LEVEL INFO	スピーカーのレベルの測定結果を表示します。
EXIT	測定した設定を保存しないで終了します。

ちょっと一言

- 測定中に有効な操作は電源の ON/OFF と ON SCREEN の ON/OFF 操作のみです。そのほかの操作は無効です。
- 以下の場合は正しく測定できない、または自動音場測定機能は使えません。
  – ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないことがあります。
  – マルチゾーン機能を使う場合、2nd ゾーン、3rd ゾーンでは測定できません。
- スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、設定を変更することもできます（61 ページ）。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

エラーが出たときは

エラー原因の対策をして、再測定してください。

エラーの種類	原因と対策
CODE 30	ヘッドホンジャックが挿入されています。 ヘッドホンをはずして再測定してください。
CODE 31	スピーカースイッチがOFFになっています。 スピーカースイッチを音の出る状態にして、再測定してください。
CODE 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用のマイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。接続されている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
CODE 33	フロントスピーカーが接続されていない、またはサラウンドスピーカーが1本しか接続されていません。
CODE 34	スピーカーが正しい位置に設置されていません。左右が逆になっているなどが考えられます。「準備１：スピーカーを設置する」（14ページ）を参考にしてスピーカーの位置を確認してください。

- **CODE 30、31**

  コントロールボタンを押し、「測定する」の手順１から再測定します。
  または本体の ENTER を押します。

- **CODE 32、33、34**

  1 **コントロールボタンを押すと「RETRY？」と表示されます。**
  または本体の ENTER を押します。
  2 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かし「YES」を選び、押して決定します。**
  または本体の＋ / －つまみを回し、ENTER を押します。
  3 **「測定する」の手順２から再測定します。**

「WRN CHECK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

コントロールボタンを押し、「測定結果を確認 / 保存する」の手順１に戻ります。

または本体のENTERを押します。

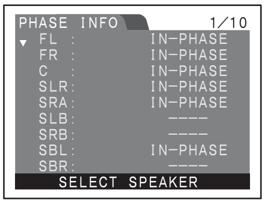
WARNINGの種類	説明
WARNING 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
WARNING 41	測定用マイクからの入力が過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARNING 42	アンプのボリュームが過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARNING 43	ウーファーの距離・位相が測定できませんでした。または、スピーカーの設置角度が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
WARNING 44	測定は終了しましたが、スピーカーの位置関係がおかしい場合があります。「準備１：スピーカーを設置する」（14ページ）を参考にしてスピーカーの位置を確認してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。

「PHASE INFO」を選んだときは

各スピーカーの位相（正相、逆相）を確認できます。

⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かしてスピーカーを選び、押して「測定結果を確認 / 保存する」の手順１に戻ります。

または本体のMENUつまみを回し、ENTERを押します。



表示	説明
IN-PHASE	正相です。
OUT-OF-PHASE	逆相です。スピーカーの+/−端子が逆に接続されている可能性があります。 スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。
- - - -	スピーカーが接続されていません。

ちょっと一言
サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

つづく

自動音場補正機能（AUTO CALIBRATION）の設定項目

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■AUTO CAL START?

自動音場補正の測定を開始します。

- MEASUREMENT COUNTDOWN
  測定前5秒から１秒までカウントダウン表示されます。
- MEASURING TONE
  TONE測定中です。
- MEASURING T.S.P.
  TSP測定中です。
- MEASURING WOOFER
  WOOFER測定中です。
- COMPLETE　■■■■■■■■■■■
  測定が正常に終了したときに表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（40ページ）をご覧ください。
- WARNING CODE　■■■:4■
  測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報が表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（40ページ）をご覧ください。
- NO WARNING
  WARNING情報がなかった場合に表示されます。
- ERROR CODE　■■■:3■
  測定が正常に終了しなかった場合に表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（40ページ）をご覧ください。
- RETRY？　■■■■
  測定の結果エラーだった場合、再測定するか、再測定せずに終了するかを確認します。
- CANCEL
  測定を中断した場合に表示されます。

■CAL TYPE
（測定タイプ）

- ENGINEER
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
- FULL FLAT
  各スピーカーの周波数測定を平らにします。
- FRONT REF
  すべてのスピーカー特性をフロントスピーカーの特性に整えます。

■SPEAKER CAL
（測定結果の保持）

- YES
  次回の測定時に、スピーカーの有無、距離、角度、サイズの測定結果を保存します。
- NO
  次回の測定時に、スピーカーの有無、距離、角度、サイズの測定結果を保存しません。前回保存した測定結果を保持します。

■LEVEL CAL
（測定結果の保持）

- YES
  次回の測定時に、スピーカーのレベルの測定結果を保存します。
- NO
  次回の測定時に、スピーカーのレベルの測定結果を保存しません。前回保存した測定結果を保持します。

■EQ CURVE EFFECT
（測定したEQカーブの有効、無効）

- OFF
  測定したEQカーブを無効にします。
- ON
  測定したEQカーブを有効にします。測定終了後に自動的にONに設定されます。

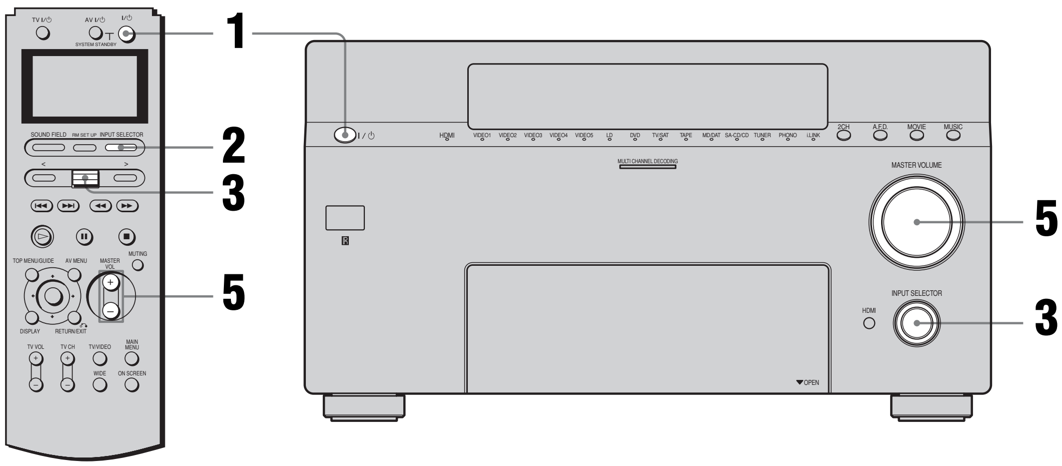
■EQ CURVE INFORMATION
（測定したEQカーブ情報の表示）

「EQ CURVE EFFECT」がONに設定されているときに有効です。
詳しくは「自動音場補正機能の測定結果を確認する」（66ページ）をご覧ください。

■AUTO CAL
（自動音場補正機能の有効・無効）

- ALL OFF
  自動音場補正機能をすべて無効にします。
- ON
  自動音場補正機能を有効にします。測定終了後に自動的にONに設定されます。

アンプの入力を選ぶ
（INPUT SELECTOR）



!

- 「MULTI CH IN」を選ぶと、サウンドフィールド（48 ～ 52 ページ）などのサラウンド効果は働きません。
- 他の入力から i.LINK に変更すると、i.LINK 回路の接続をします。このとき「i.LINK CONNECTING」の表示が消えてから、i.LINK 機器を操作してください。

ヒント

音を一時的に消したいときはリモコンの MUTING を押します。
解除するには、MUTING をもう一度押します。またはボリュームを調節して音量を上げます。消音中に本体の電源を切っても、再度電源を入れたときは消音機能が働いています。

1 **アンプ（本機）と、アンプにつないだ機器の電源を入れる。**

2 **リモコンの INPUT SELECTOR を押す。**

3 **イージースクロールキーでアンプの入力を選び、押して決定する。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。i.LINK端子やHDMI端子、MULTI CH IN端子につないでいる機器を選ぶ場合は、端子と同じ名前のボタンを押してください。
選んだ入力が本機の表示窓に表示されます。

INPUT SELECTORの項目	再生する機器
VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3またはVIDEO 4	VIDEO 1またはVIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4端子につないだビデオデッキなど
VIDEO 5	VIDEO 5端子につないだビデオカメラ、テレビゲームなど
LD	LD端子につないだLDプレーヤーなど
DVD	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
TV/SAT	TV/SAT端子につないだBS/CSチューナーなど
TAPE	TAPE端子につないだカセットデッキなど
MD/DAT	MD/DAT端子につないだMDデッキなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
TUNER	TUNER端子につないだラジオチューナーなど
PHONO	PHONO端子につないだレコードプレーヤーなど
i.LINK＊	i.LINK端子につないだi.LINK機器
HDMI 1または2	HDMI端子につないだHDMI機器など
MULTI CH IN 1または2	MULTI CH IN端子につないだ機器

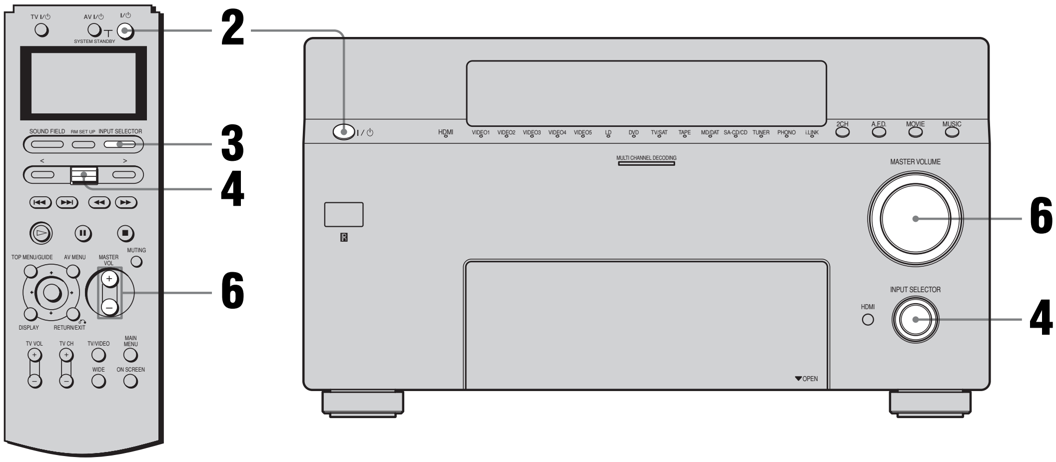
＊i.LINK を選ぶと、つないでいる機器名（例：SCD-XA9000ES など）が表示されます。このとき、プレーヤーは電源が入っていて、i.LINK の設定がされている必要があります。プレーヤーの操作についてはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 **機器を再生する。**

5 **MASTER VOL ＋ / －を押して、音量を調節する。**

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。
音量の初期値は最小（消音）になっています。

スーパーオーディオ CD/CD を聞く



1 **スーパーオーディオCDプレーヤー/CDプレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。**

2 **アンプ(本機)の電源を入れる。**

3 **リモコンの INPUT SELECTOR を押す。**

4 **イージースクロールキーで SA-CD/CD を選び、押してアンプの入力を SA-CD/CD プレーヤーに切り換える。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してSA-CD/CDを選びます。

表示例)



5 **ディスクを再生する。**

6 **ボリュームを適当な音量に調節する。**

7 **使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。**

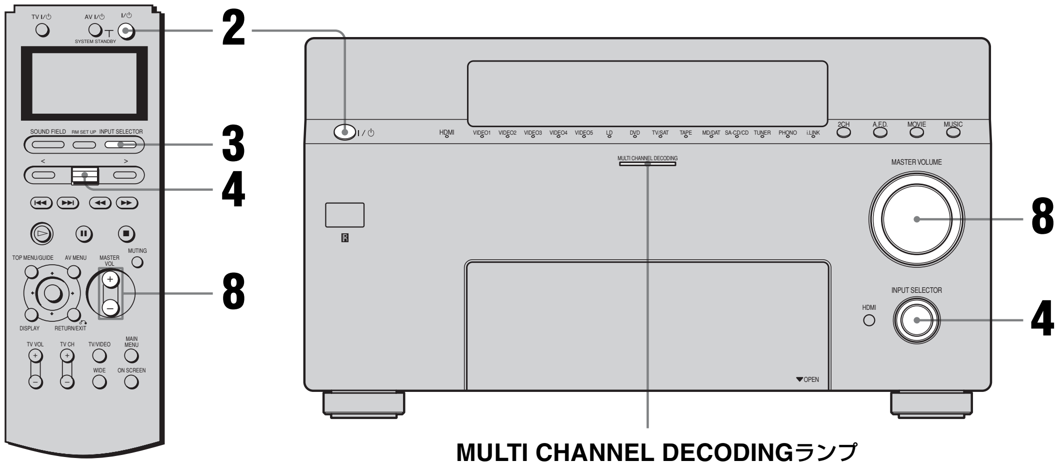
!

- 本ページの操作はソニーのスーパーオーディオ CD プレーヤーの場合です。
- スーパーオーディオ CD プレーヤー、CD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の簡単リモコンでも操作できます。

ヒント

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます(詳しくは 51 ページをお読みください)。
おすすめの音場プログラム
クラシック：D.CONCERT HALL
ジャズ：JAZZ CLUB
ライブコンサート：
LIVE CONCERT、STADIUM

DVD を見る



!

- テレビ、DVD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の簡単リモコンでも操作できます。

ヒント

必要に応じて再生するディスクのサウンドフォーマットを選んでください。

ヒント

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます(詳しくは 51 ページをお読みください)。
おすすめの音場プログラム
映画：CINEMA STUDIO EX
ライブ映像：LIVE CONCERT
スポーツ：SPORTS

!

マルチチャンネルで音声が聞けない場合は、以下についてご確認ください。

- ソフトがマルチチャンネルに対応しているか（再生時に前面の MULTI CHANNEL DECODING ランプが点灯しているか）。
- 本機と DVD プレーヤーがデジタル接続されているか。
- DVD プレーヤー側の音声デジタル出力が設定されているか。

1 テレビ､DVD プレーヤーの電源を入れる。

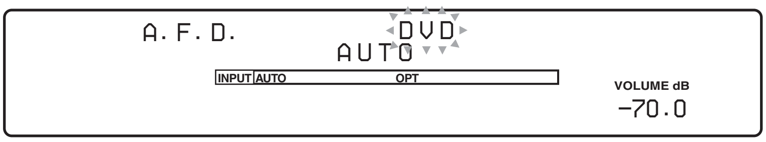
2 アンプ(本機)の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR を押す。

4 イージースクロールキーで DVD を選び､押してアンプの入力を DVD プレーヤーに切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してDVDを選びます。

表示例）



5 テレビの入力を DVD プレーヤーの映像が映るように切り換える。

6 DVD プレーヤーの設定をする。

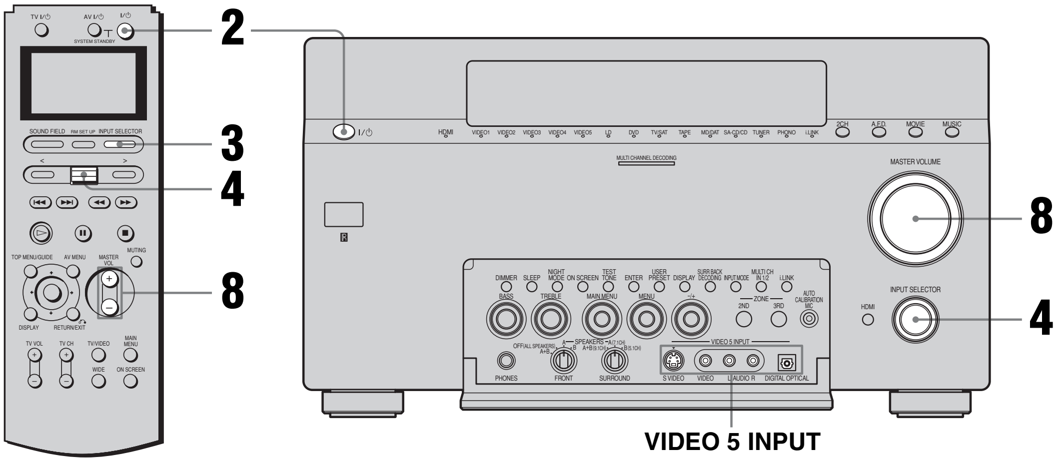
詳しくは、付属の「接続・設定ガイド」をご覧ください。

7 ディスクを DVD プレーヤーにセットし､再生する。

8 ボリュームを適当な音量に調節する。

9 使い終わったらディスクを取り出し､各機器の電源を切って終了する。

ゲームを楽しむ



!

- テレビ、テレビゲーム機の操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の簡単リモコンでも操作できます。

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 48 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム：GAME

1 テレビ、テレビゲーム機の電源を入れる。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR を押す。

4 イージースクロールキーで VIDEO5* を選び、押してアンプの入力をテレビゲーム機に切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO5*を選びます。

＊テレビゲーム機を本体前面の VIDEO 5 INPUT 端子につないでいる場合です。

表示例）



5 テレビの入力をテレビゲーム機の映像が映るように切り換える。

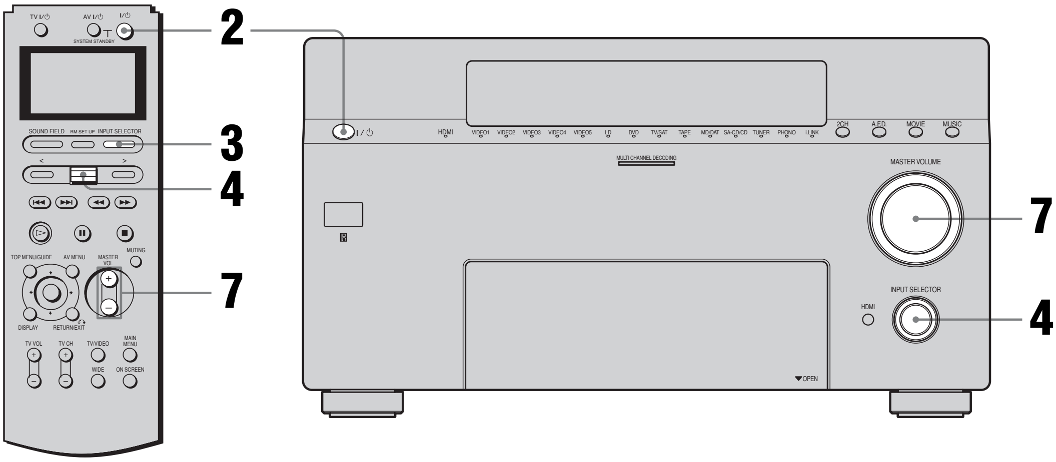
6 テレビゲーム機の設定をする。

7 ディスクをテレビゲーム機にセットし、再生する。

8 ボリュームを適当な音量に調節する。

9 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切る。

ビデオを見る



!

- テレビ、ビデオデッキの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の簡単リモコンでも操作できます。

1 ビデオデッキの電源を入れる。

2 アンプ(本機)の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR を押す。

4 イージースクロールキーで VIDEO1* を選び、押してアンプの入力をビデオデッキに切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO1*を選びます。

＊ビデオデッキを VIDEO1 端子につないでいる場合です。

表示例）



5 テレビの入力をビデオデッキの映像が映るように切り換える。

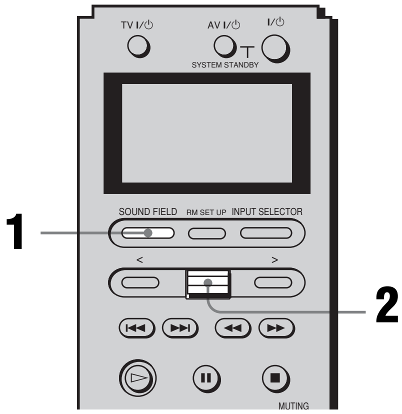
6 ビデオテープを再生する。

7 ボリュームを適当な音量に調節する。

8 使い終わったらビデオテープを取り出し、各機器の電源を切る。

ドルビーデジタルや DTS のサラウンド効果を楽しむ

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。



1 SOUND FIELD を押す。

サウンドフィールド項目が表示されます。

2 イージースクロールキーで A.F.D モードの種類を選び、押して決定する。

または本体のA.F.D.ボタンをくり返し押します。詳しくは、以下の「A.F.D.モードの種類」をご覧ください。

ちょっと一言

通常は「A.F.D. AUTO」をおすすめしますが、入力信号に応じてサラウンドバックデコーディング機能（54 ページ）を使ったほうがよい場合があります。

A.F.D.モードの種類

デコーディングモード	A.F.D.モード 「表示」	デコード後の マルチチャンネル音声	効果
（自動判別）	A.F.D. AUTO 「AUTO」	（自動判別）	入力された音声信号（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、適切な処理をします。このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。
ドルビープロロジック	A.F.D. PRO LOGIC 「PRO LOGIC」	4チャンネル	ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音声を4チャンネルにデコードして再生します。
ドルビープロロジックII	A.F.D. PRO LOGIC II MOVIE 「PRO LOGIC II MOVIE」	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
	A.F.D. PRO LOGIC II MUSIC 「PRO LOGIC II MUSIC」	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
	A.F.D. PRO LOGIC II GAME 「PRO LOGIC II GAME」	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのゲームモード処理を行います。
ドルビープロロジックIIx （サラウンドバックスピーカーがないときは選べません。）	A.F.D. PRO LOGIC IIx MOVIE 「PRO LOGIC IIx MOVIE」	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
	A.F.D. PRO LOGIC IIx MUSIC 「PRO LOGIC IIx MUSIC」	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
	A.F.D. PRO LOGIC IIx GAME 「PRO LOGIC IIx GAME」	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのゲームモード処理を行います。
DTS Neo:6	A.F.D. Neo:6 Cinema 「Neo:6 Cinema」	6チャンネル	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。
	A.F.D. Neo:6 Music 「Neo:6 Music」	6チャンネル	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。
（マルチステレオ）	A.F.D. MULTI STEREO 「MULTI STEREO」	（マルチステレオ）	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

ご注意
- 以下の場合は機能しません。
  – MULTI CH IN 1 または 2 を選んでいる。
  – i.LINK で DSD 信号を受信している。
- DTS 2CH の音声に対しては DTS Neo:6 は働かず、2 チャンネルで再生します。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48kHz で再生されます。

ちょっと一言
マルチチャンネル信号が入力されているときは、ドルビープロロジック IIx デコーディングのみ有効です（このとき、CUSTOMIZE メニューで設定した SB DECODING/SB DEC MODE の設定は無効になります）。ドルビープロロジック IIx 以外のデコーディングモードを選んでいるときは、エンコードされたままのマルチチャンネルの音声が出力されます。

つづく

サブウーファーを接続したときは

サブウーファーから出力される低域効果音であるL.F.E.信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」、「Neo:6 Music」では生成されません。

ちょっと一言

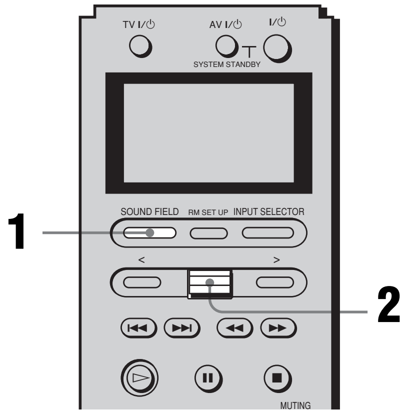
- 2CH STEREO モードでは、サブウーファーからは音が出ませんが、サブウーファーも使って 2 チャンネルステレオ音声を再生することもできます。A.F.D. モードを「A.F.D. AUTO」にし、SURROUND SET UP メニューの「A.F.D. 2CH SW」を「CREATE」にしてください（57 ページ）。
  2 チャンネル信号に対して、サブウーファーから出力される低域効果音である L.F.E. 信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成して出力します。

DVD ソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。

- ：ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
- ：ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
- ：DTS デジタルサラウンドでエンコードされているソフト
- ドルビーデジタルや DTS について詳しくは、「用語集」（111 ページ）をご覧ください。

ソニーのサラウンド効果（DCS）を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。



映画用のサウンドフィールドを選ぶ

1 SOUND FIELD を押す。

サウンドフィールド項目が表示されます。

2 **イージースクロールキーでサウンドフィールドの種類を選び、押して決定する。**

または、本体のMOVIEボタンをくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選びます。
詳しくは、以下の「サウンドフィールド（DCS）の種類」をご覧ください。

音楽用のサウンドフィールドを選ぶ

1 SOUND FIELD を押す。

サウンドフィールド項目が表示されます。

2 **イージースクロールキーでサウンドフィールドの種類を選び、押して決定する。**

または、本体のMUSICボタンをくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選びます。
詳しくは、以下の「サウンドフィールド（DCS）の種類」をご覧ください。

映画用/音楽用のサウンドフィールドを解除するには

「2CH STEREO」、または「A.F.D. AUTO」を選びます。
または本体の2CH、またはA.F.D.を押します。

つづく

サウンドフィールド（DCS）の種類

	サウンドフィールド 「表示」	効果
映画用	CINEMA STUDIO EX A DCS	ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。
	CINEMA STUDIO EX B DCS	ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
	CINEMA STUDIO EX C DCS	ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
	VERTUAL MULTI DIMENSION DCS「V.MULTI DIMENSION」	1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
音楽用	DIGITAL CONCERT HALL A 「D.CONCERT HALL A」	3D立体音像処理により、反射によって大きなサウンドステージをつくることが特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。
	DIGITAL CONCERT HALL B 「D.CONCERT HALL B」	3D立体音像処理により、ホールの残響が特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。
	CHURCH	石造りの教会の音響を再現します。
	JAZZ CLUB	ジャズクラブの音響を再現します。
	LIVE CONCERT	300席あるライブハウスの音響を再現します。
	STADIUM	屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。
	SPORTS	スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。
ヘッドホン使用時*	HEADPHONE （2CH）	2CHまたはA.F.D.を押す。2チャンネル（ステレオ）で音を出します。デジタル入力のマルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
	HEADPHONE（MULTI 1またはMULTI 2）	MULTI INを押す。MULTI CHANNEL INPUT端子に入力されたアナログ音声を2チャンネルにダウンミックスして出力します。
	HEADPHONE THEATER DCS	MOVIEまたはMUSICを押す。映画館にいるような雰囲気をヘッドホンで再現します。

＊ヘッドホンを使用したときに選べるサウンドフィールドです。

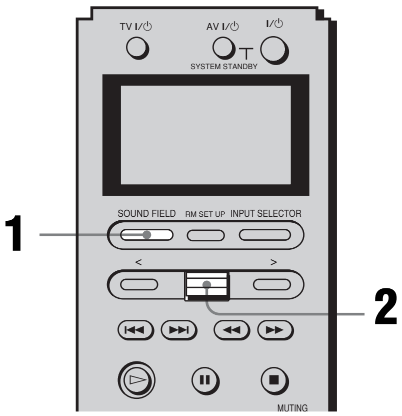
ご注意
- 映画用と音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  – MULTI CH IN 1 または 2 を選んでいる。
  – i.LINK で DSD 信号を受信している。
  – サンプリング周波数が 48kHz より高い信号を受けている。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48kHz で再生します。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。
- 音楽用のサウンドフィールドを選んでいるときは、サラウンドバックデコーディング（54 ページ）は機能しません。

ちょっと一言
- DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS 技術を利用しています。DCS について詳しくは、「技術解説」（113 ページ）をご覧ください。
- DCS マークの付いたサウンドフィールドが選ばれているとき、Digital Cinema Sound ランプが点灯します。

サブウーファーを使わずフロントスピーカーのみから音を出す

（2CH STEREO）

フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。サブウーファーからは、音が出ません。
標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。



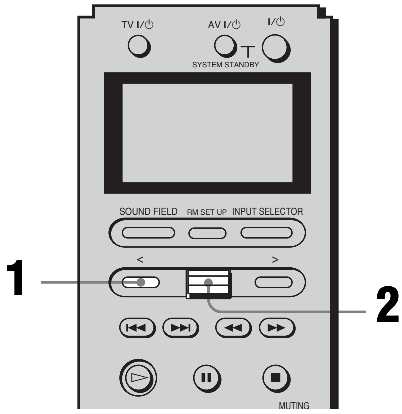
1 **SOUND FIELD を押す。**
サウンドフィールド項目が表示されます。

2 **イージースクロールキーで「2CH STEREO」を選び、押して決定する。**
または本体の2CHボタンを押す。

小音量でサラウンド効果を楽しむ

（NIGHT MODE）

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。



1 **< をくり返し押して、AV AMPLIFIER メニューを表示させる。**

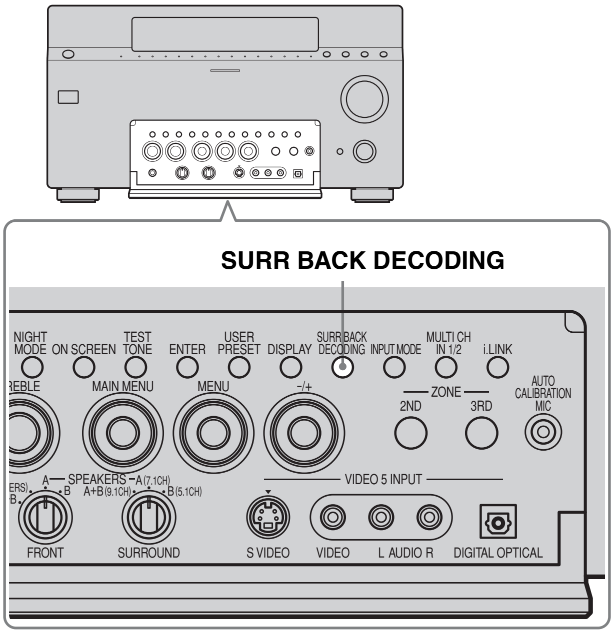
2 **イージースクロールキーで「NIGHT MODE」を選び、押して決定する。**
NIGHT MODE機能が働きます。
NIGHT MODEをオフにするには、手順1と2をくり返します。

ちょっと一言

- 2CH STEREO モードでは、サブウーファーからは音が出ませんが、サブウーファーも使って 2 チャンネルステレオ音声を再生することもできます。A.F.D. モードを「A.F.D. AUTO」にし（49 ページ）、SURROUND SET UP メニューの「A.F.D. 2CH SW」を「CREATE」にしてください（57 ページ）。
2 チャンネル信号に対して、サブウーファーから出力される低域効果音である L.F.E. 信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成して出力します。
- NIGHT MODE 機能を働かせると、BASS、TREBLE、EFFECT のレベルが上がり、「D.RANGE.COMP.」が「MAX」になります（59 ページ）。

ドルビーデジタルや DTS のサラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる

「ドルビーデジタルEX」や「DTS-ESマトリックス6.1」、「DTS-ESディスクリート6.1」などで記録された映画のDVDソフトなどを再生するとき、サラウンドバック信号をデコードします。これにより、映画製作者が意図したサラウンド音声を楽しむことができます。



SURR BACK DECODING をくり返し押して、サラウンドバックデコーディング機能を選ぶ。

サラウンドバック信号がデコードされているときは、SB DECランプが点灯します。

サラウンドバックデコーディング機能の種類を選ぶ（SB DECODING）

■「AUTO」

入力ストリームに6.1チャンネルを示すフラグ[a]があるとき、以下のデコード処理をします。

入力ストリーム	出力チャンネル	サラウンドバックデコード処理
ドルビーデジタル5.1	5.1	—
ドルビーデジタルEX[b]	6.1[e]	SB DEC MODEで設定（55ページ）されたデコードモードによるデコード処理
DTS 5.1	5.1	—
DTS-ESマトリックス6.1[c]	6.1[e]	DTSマトリックスデコード処理
DTS-ESディスクリート6.1[d]	6.1[e]	DTSディスクリートデコード処理

a) DVD などのソフトに書き込まれている情報です。
b) サラウンド EX フラグが書き込まれている、ドルビーデジタルの DVD です。ドルビー社のホームページなどで、サラウンド EX 映画を判別することができます。
c) 5.1 チャンネルの信号とともに、DTS-ES マトリックス信号であることを示すフラグが書き込まれています。
d) 5.1 チャンネルの信号とともに、これをディスクリート 6.1 チャンネルに戻すための拡張ストリームが記録されています。ディスクリート 6.1 チャンネル信号は、映画館では使用されない DVD 専用の信号です。
e) サラウンドバックスピーカーを 2 本つないでいるときは、7.1 チャンネルになります。

■「ON」

入力ストリーム5.1チャンネル、6.1チャンネルの信号に対してSB DEC MODEで設定（55ページ）されたデコード処理を行います。

■「OFF」

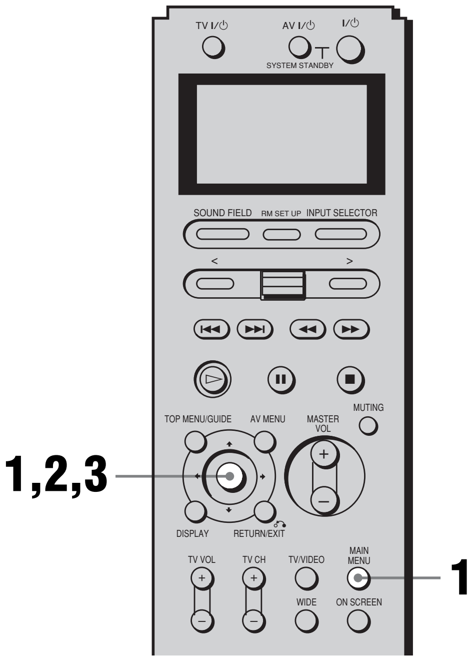
サラウンドバック信号はデコードされません。

ご注意

- 以下の場合は機能しません。
  - MULTI CH IN 1 または 2 を選んでいる。
  - i.LINK 入力で DSD 信号を受信している。
  - DTS 96/24 信号を受信して、96kHz でデコードしている。
  - 音楽用サウンドフィールドモードが選ばれている。
- パッケージにドルビーデジタルサラウンド EX のロゴが記載されていても、フラグが書き込まれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、「ON」を選んでください。
- A.F.D. モードで「PLIIx」を選んでいるときは、SB DEC MODE の設定に関わらず、PLIIx デコード処理されます。

サラウンドバックデコーディングモードを選ぶ（SB DEC MODE）

サラウンドバックデコーディング機能で「AUTO」または「ON」を選ぶと、さらに下記のサラウンドバックデコーディングモード（SB DEC MODE）を選べます。



1 **MAIN MENU を押して、本体の表示窓で「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。**
または本体のMAIN MENUつまみを回して「CUSTOMIZE」を選びます。

2 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「SB DEC MODE」を選ぶ。**
または本体のMENUつまみを回します。

3 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かしてお好みの項目または設定値を選ぶ。**
または本体の＋/－つまみを回します。

4 **他の項目を設定するときは、手順2 と3 をくり返す。**

サウンドバックデコーディングモード（SB DEC MODE）	スピーカー設定	サラウンドバックデコード処理
「DDEX」	7.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MV」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MS」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理
	6.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理

入力ストリームとデコード状態を表示で確認する

A.F.D.モードを選んでいるとき、サラウンドバックデコーディング機能が働いていれば、現在入力しているストリーム表示後に現在のデコード状態を表すPROCESSING表示が出ます。

■ ドルビーデジタルEXデコードのとき

入力ストリーム	数秒後	PROCESSING表示
DOLBY DIGITAL[3/2.1]	⇒	DOLBY D EX[3/2.1]
DOLBY D EX[3/2.1]	⇒	DOLBY D EX[3/2.1]
DTS[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX
DTS-ES Matrix[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX
DTS-ES Discrete[3/3.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX*
MPEG-2 AAC[3/2.1]	⇒	AAC[3/2.1]＋DOLBY EX

* DTS-ES Discrete[3/3.1] 信号に対して、ドルビーデジタルEX デコード処理によりサラウンドバックデコーディングを行う場合は、DTS[3/2.1] の信号に対してデコード処理を行います。

ご注意
映画用のサウンドフィールドが選ばれているときは、SB DEC MODE の設定に関わらず、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われます。

つづく

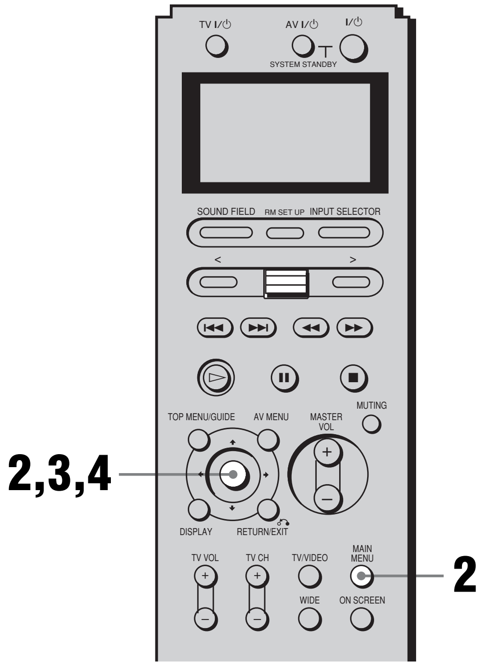
■ ドルビープロロジックIIxデコードのとき

入力ストリーム	数秒後	PROCESSING表示
DOLBY DIGITAL[3/2.1]	⇒	DOLBY D[3/2.1]＋PLIIx
DOLBY D EX[3/2.1]	⇒	DOLBY D[3/2.1]＋PLIIx
DTS[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx
DTS-ES Matrix[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx
DTS-ES Discrete[3/3.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx*
MPEG-2 AAC[3/2.1]	⇒	AAC[3/2.1]＋PLIIx

＊DTS-ES Discrete[3/3.1] 信号に対して、ドルビープロロジック IIx デコードによりサラウンドバックデコーディングを行う場合は、DTS[3/2.1] に対して行います。

サラウンド効果を調節する

調節した内容は、サウンドフィールドごとに記憶されます。



1 **マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVD など）を再生する。**

2 **MAIN MENU をくり返し押して「SURROUND SET UP」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、以下の「SURROUND SET UPメニューの設定項目」をご覧ください。

4 **音を聞きながら ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節 / 設定する。**

または本体の＋/−つまみを回します。

ご注意

- PLIIx MS モードを選んでも、下記の場合は、通常時とデコード処理が異なります。スピーカー設定が 6.1ch のときは、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われ、スピーカー設定が 7.1ch のときは、ドルビープロロジック IIx ムービー処理が行われます。
  − ドルビーデジタルサラウンド EX 信号が入力されている。
  − SB DECODING が「AUTO」に設定されている。
- サウンドフィールドによって、調節できる設定項目は異なります。暗く表示されている設定項目は調節できません。

5 他の項目を調節/設定するときは、手順3と4をくり返す。

SURROUND SET UPメニューの設定項目

■EFFECT LEVEL _ _ _ %（エフェクトレベル）

お買い上げ時の設定：100%
値を上げるほど、サラウンド効果が大きくなります。
20〜120%の範囲で、5%単位で調節できます。

より細かくサラウンド効果を調節するには（SURROUND SET UPメニューの拡張設定項目）

CUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすると（79ページ）、以下のすべての項目を表示・設定できるようになります。
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■C.WIDTH L__C__R（センター音像イメージ幅コントロール）

お買い上げ時の設定：(3)
ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（49ページ）場合のみ設定できます。
ドルビープロロジックIIで生成したセンターチャンネルの音声を、フロントL/Rスピーカーに振り分ける調節ができます。

■DIMENSION F__ __S（ディメンションコントロール）

お買い上げ時の設定：センター（0）
ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（49ページ）場合のみ設定できます。
フロントチャンネルとサラウンドチャンネルのレベル差を調節できます。

■PANORAMA MODE（パノラマモード）

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（49ページ）場合のみ設定できます。

• ON

フロントの音場を左右に大きく回りこませて、サラウンドにつながるような音場モード（パノラマモード）を楽しむことができます。

• OFF

パノラマモードは働きません。

■FRONT REVERB（フロントリバーブ）

D.CONCERT HALL A/Bのサウンドフィールド（52ページ）専用の設定です。音源に含まれている残響によって、フロント信号にどれくらい残響を加えるかを設定します。

• STD

通常は「STD」を選びます。

• WET

残響を加えたいときに選びます。

■SCREEN DEPTH（スクリーンの奥行き）

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド（52ページ）専用の設定です。
映画館のように、フロントスピーカーの音がスクリーンの中から出てくるような感覚を、リスニングルームにつくり出します。

• ON

非常に大きなスクリーンから音が出てくるような奥行き感をつくり出します。

• OFF

この機能は働きません。

■VIR.SPEAKERS（仮想スピーカー）

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド（52ページ）専用の設定です。

• ON

仮想スピーカーを生成します。

• OFF

仮想スピーカーを生成しません。

■A.F.D. 2CH SW

A.F.D.モードを「AUTO」に設定している場合のみ設定できます。

• CREATE

サブウーファー信号を生成します。

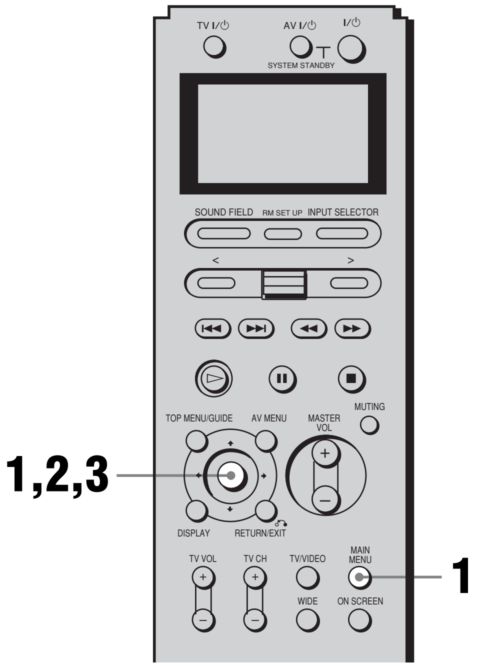
• OFF

サブウーファー信号を生成しません。

つづく

各スピーカーのレベルやバランスを調節する

調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。



1 **MAIN MENU をくり返し押して「LEVEL」を選び、コントロールボタンを押す。**
または本体のMAIN MENUつまみを回します。

2 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。**
または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、以下の「LEVELメニューの設定項目」をご覧ください。

3 **音を聞きながら ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節 / 設定する。**
または本体の＋/−つまみを回します。

4 **他の項目を調節/設定するときは、手順2と3をくり返す。**

LEVELメニューの設定項目

■TEST TONE（テストトーン）

それぞれのスピーカーから順番にテストトーンを出します。
お買い上げ時の設定：OFF
- 「AUTO」
テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。
- 「FIX」
テストトーンを出すスピーカーを選ぶことができます。

■FRONT L__ __R
（フロントスピーカーバランス）

お買い上げ時の設定：センター（0）
フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。
±8 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■CENTER ■■■.■ dB
（センタースピーカーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-A L ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー A（左）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-A R ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー A（右）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-B L ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー B（左）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-B R ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー B（右）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURR BACK ■■■.■ dB
（サラウンドバックスピーカーレベル）＊

お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

ちょっと一言
SURROUND SPEAKERS スイッチが 9.1 に設定されている場合、サラウンドスピーカー A とサラウンドスピーカー B のそれぞれの最適な設定値が反映されます。

■SURR BACK L ■■■.■ dB
（サラウンドバックスピーカー（左）レベル）**
お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURR BACK R ■■■.■ dB
（サラウンドバックスピーカー（右）レベル）**
お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SUB WOOFER ■■■.■ dB
（サブウーファーレベル）
お買い上げ時の設定：0 dB
−20 dB〜＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■MULTI CH 1 SW
（マルチチャンネル1サブウーファーレベル）

■MULTI CH 2 SW
（マルチチャンネル2サブウーファーレベル）
お買い上げ時の設定：0 dB
MULTI CH IN 1端子/MULTI CH IN 2端子のサブウーファーのレベルを10 dB上げることができます。DVDプレーヤーのサブウーファーレベルはスーパーオーディオCDよりも10 dB低いため、DVDプレーヤーをMULTI CH IN 1端子/MULTI CH IN 2端子につないだときは、この設定項目で10dB上げると効果的な場合があります。

＊　サラウンドバックスピーカーの設定が「SINGLE」に設定されているときのみ設定できます（62 ページ）。
＊＊サラウンドバックスピーカーの設定が「DUAL」に設定されているときのみ設定できます（62 ページ）。

より細かくレベルやバランスを調節するには
（LEVELメニューの拡張設定項目）

CUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすると（79ページ）、以下のすべての項目を表示・設定できるようになります。
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■PHASE NOISE
（フェーズノイズ）
• ON
となりあった2つずつのスピーカーから順番にテストトーンを出します。
• OFF

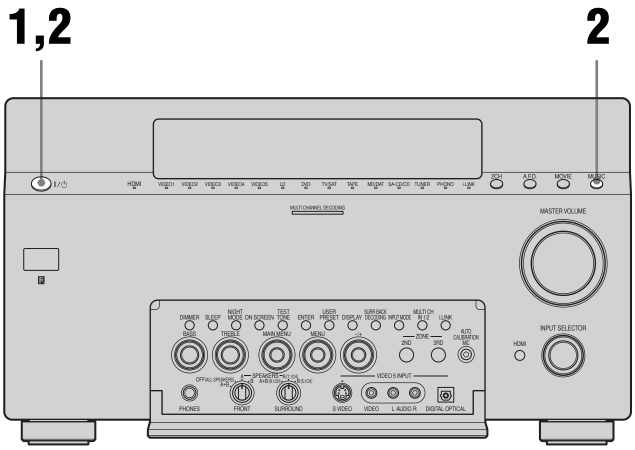
■PHASE AUDIO
（フェーズオーディオ）
• ON
となりあった2つずつのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出します。
• OFF

■D.RANGE.COMP.
（ダイナミックレンジの圧縮）
サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。
• OFF
ダイナミックレンジの圧縮は行われません。
• STD
レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
• MAX
ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ご注意
以下のサウンドフィールドで SPEAKER SET UP メニューのすべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号にL.F.E. 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているときは、サブウーファーから音が出ます。
• D.CONCERT HALL A
• D.CONCERT HALL B
• CHURCH
• JAZZ CLUB
• LIVE CONCERT
• STADIUM
• SPORTS

ちょっと一言
「D.RANGE.COMP.」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す



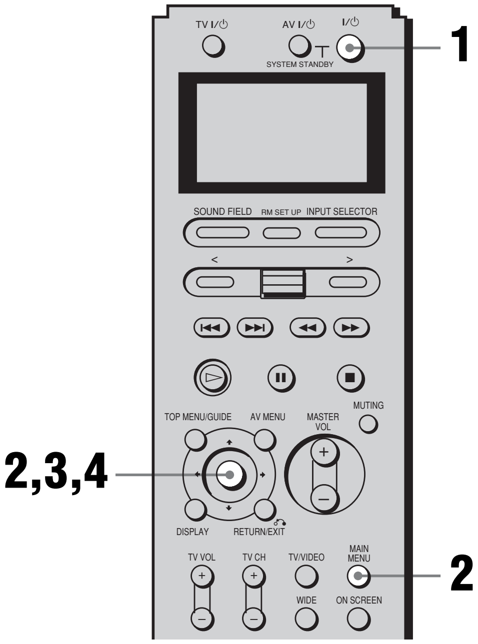
1 **I/⏻（電源スイッチ）を押して電源を切る。**

2 **MUSIC を押しながら、I/⏻（電源スイッチ）を押す。**

表示窓に「S.F. Initialize」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

メニューを使ってスピーカーを設定する

SPEAKER SET UPメニューを使って、本機につないで使用するスピーカーと、その大きさ、距離などを設定できます。



1 **I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を入れる。**

2 **MAIN MENU をくり返し押して「SPEAKER SET UP」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定したい項目を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、以下の「SPEAKER SET UPメニューの設定項目」をご覧ください。

4 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、パラメーターを選ぶ。**

または本体の＋/－つまみを回します。

5 **手順３と４をくり返し、すべての項目を設定する。**

SPEAKER SET UPメニューの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■SUB WOOFER（サブウーファー）

- YES（下線）
  サブウーファーをつないだ場合に選びます。
- NO
  サブウーファーをつながない場合に選びます。低域変換機能が働き、L.F.E.（重低音効果）信号が他のスピーカーから再生されます。
- MIX
  サブウーファーをつながない場合に選びます。サブウーファーの音質を劣化させずに他のスピーカーから出力することができます。LEVELメニューの「SUB WOOFER」の設定で他のスピーカーに振り分けるL.F.E.成分の調節ができます（トリム機能）（59ページ）。

■FRONT SP（フロントスピーカー）

- LARGE（下線）
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。サブウーファーが「NO」に設定されていると、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。フロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーから再生されます。「SMALL」を選ぶと、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの設定も自動的に「SMALL」になります（「NO」に設定されている場合を除く）。
  サブウーファーを「NO」に設定しているときは選べません。

ちょっと一言
ドルビーデジタルの低域変換機能を充分にお楽しみいただくために、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高く設定することをおすすめします。

つづく

■CENTER SP
（センタースピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。センタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーから再生されます。
- NO
  センタースピーカーをつながない場合に選びます。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます。
- MIX
  センタースピーカーをつながない場合に選びます。センタースピーカーの音質を劣化させずにフロントスピーカーから出力することができます。LEVELメニューの「CENTER」の設定で左右のフロントスピーカーに振り分けるセンター成分の調節ができます（トリム機能）（58ページ）。

■SURROUND SP-A
（サラウンドスピーカー A）

■SURROUND SP-B
（サラウンドスピーカー B）

サラウンドバックスピーカーも自動的に同じ設定になります。

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。
  サラウンドスピーカーの低域成分は、サブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。
- NO
  サラウンドスピーカーをつながない場合に選びます。

■SURR BACK SP
（サラウンドバックスピーカー）

サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーも自動的に「NO」になり、設定を変えることはできません。

- DUAL
  サラウンドバックスピーカーを2台つないだ場合に選びます。音声を最大7.1チャンネルで出力します。
- SINGLE
  サラウンドバックスピーカーを1台だけつないだ場合に選びます。音声を最大6.1チャンネルで出力します。
- NO
  サラウンドバックスピーカーをつながない場合に選びます。
- 2ND ZONE
  サラウンドバックスピーカーを2ndゾーンで使用する場合、「2ND ZONE」を選びます。「2ND ZONE」に設定している場合、MULTI CH INのSURR BACK端子への入力は無効です。
- BI-AMP
  フロントスピーカーのバイアンプ接続をするときに選びます（90ページ）。

ご注意

サラウンドスピーカーの設定をする前に、使うスピーカーシステムを選んでください（37 ページ）。

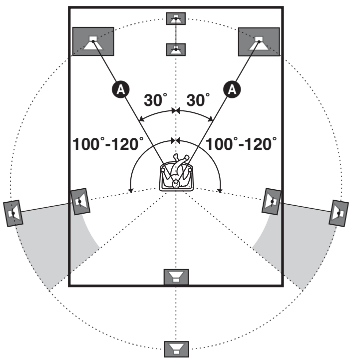
ちょっと一言

- SURROUND SPEAKERS スイッチが 9.1 に設定されている場合、サラウンドスピーカー A とサラウンドスピーカー B のそれぞれの最適な設定値が反映されます。
- 各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。
  しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
  全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については 67 ページをご覧ください。

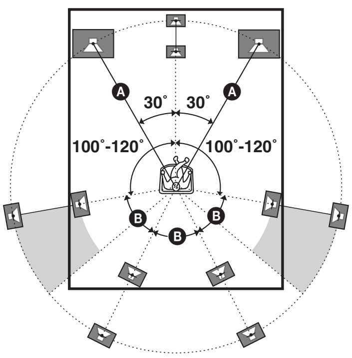
■FRONT ■.■ meter
（フロントスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離（Ⓐ）を設定します。1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

サラウンドバックスピーカーを1つだけ設置した場合



サラウンドバックスピーカーを2つ設置した場合（Ⓑの角度は同じにする）



■CENTER ■.■ meter
（センタースピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

■SURROUND-A ■.■ meter
（サラウンドスピーカー Aまでの距離）

■SURROUND-B ■.■ meter
（サラウンドスピーカー Bまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。
1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■SURR BACK ■.■ meter
（サラウンドバックスピーカーまでの距離）

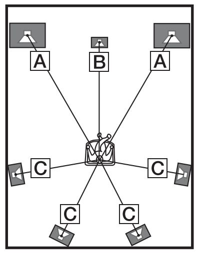
お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のサラウンドバックスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■SUB WOOFER ■.■ meter
（サブウーファーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションからサブウーファーまでの距離を設定します。
1.0～7.0 mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

ちょっと一言

- 自動音場補正機能でスピーカー設定すると、スピーカーの距離を 1 cm 単位で調節できるようになります。
- SURROUND SPEAKERS スイッチが 9.1 に設定されている場合、サラウンドスピーカー A とサラウンドスピーカー B のそれぞれの最適な設定値が反映されます。
- リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離 B は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも1.5 mより近くに設定できません。以下の図の A − B が 1.5 m 以下になるように設置してください。
  例：A が 6 m のとき、B の距離は 4.5 m 以上にしてください。
  リスニングポジションからサラウンドスピーカーやサラウンドバックスピーカーまでの距離 C は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも 4.5 m より近くに設定できません。以下の図の A − C が 4.5 m 以下になるように設置してください。
  例：A が 6 m のとき、C の距離は 1.5 m 以上にしてください。
  これらは、スピーカーの配置を適切に行い、よりよい音で楽しんでいただくために設けた制限です。
  使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。



より細かいスピーカー設定をするには（SPEAKER SET UPメニューの拡張設定項目）

本機のCUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすると（79ページ）、サラウンドスピーカーの位置や高さなど、より細かい設定ができるようになります。
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■DISTANCE UNIT
（距離の単位）

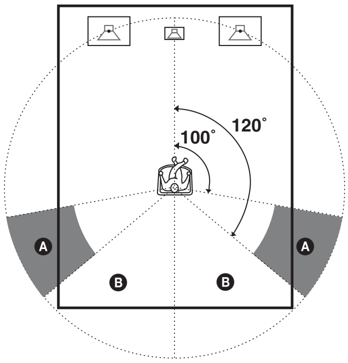
スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

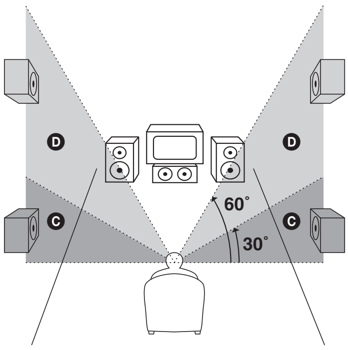
- meter
  メートル表示に切り換えます。
- feet
  フィート表示に切り換えます。

■SP-A POSI.
（サラウンドスピーカー Aの位置）

■SP-B POSI.
（サラウンドスピーカー Bの位置）

シネマスタジオEXモード（52ページ）によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置を設定します。
サラウンドスピーカーの設定が「NO」のとき（62ページ）は設定できません。





- SIDE/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒶかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- SIDE/HIGH
  サラウンドスピーカの位置がⒶかつⒹの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/HIGH
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒹの範囲にあるときに選びます。

■SP CROSSOVER ＞ __ __ __ Hz
（スピーカークロスオーバー周波数）

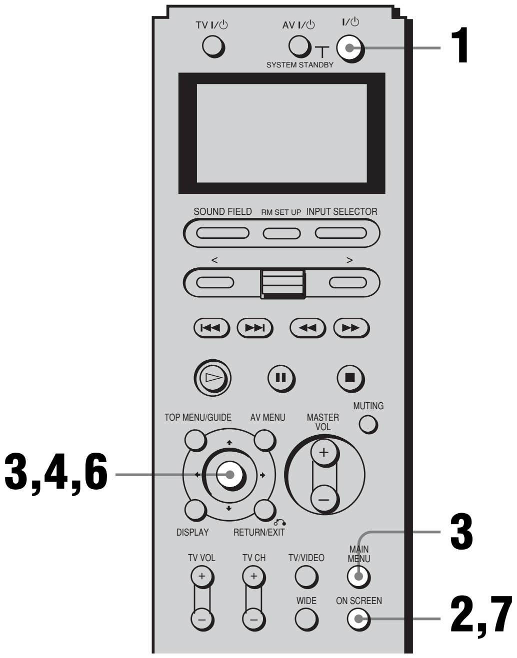
お買い上げ時の設定：100 Hz
SPEAKER SET UPメニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。40 Hz～200 Hzの範囲で、10 Hzごとに調節できます。

ちょっと一言
サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオ EX モード専用の設定です。
通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなるため、「SIDE」を用意しました。
ただし、リスニング環境には壁の反射も含まれるため、スピーカーの位置が高いときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横にあっても「BEHD」に設定したほうがよい場合があります。
実際に設定し、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりのよいほうを選んでください。迷ったら「BEHD」に設定し、距離や音量を調節してよりよい広がり感になるようにしてください。

スピーカーのレベルとバランスを調節する

（TEST TONE）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節してください。付属のリモコンをお使いください。



1 **本機とテレビの電源を入れる。**

2 **ON SCREEN を押す。**
本機に接続したテレビに設定画面が表示されるように、テレビの入力を切り換えます。

3 **リスニングポジションに座り、MAIN MENU をくり返し押して LEVEL メニューを選び、コントロールボタンを押して決定する。**

4 **⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、「AUTO」を選ぶ。**
各スピーカーから順番にテストトーン（ザーッという音）が出力されます。
さらに⇨方向にコントロールボタンを動かすと、選んだスピーカーのみからテストトーンを出す「FIX」パターンになります。

5 **すべてのスピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように、LEVEL メニューを使って各スピーカーのレベルとバランスを調節する。**
詳しくは「LEVELメニューの設定項目」（58ページ）をご覧ください。

6 **調節が終わったら、コントロールボタンを⇧/⇩ 方向に動かして「TEST TONE」を選び、⇨ 方向にコントロールボタンを動かして「OFF」を選ぶ。**
テストトーンが消えます。

7 **リモコンの ON SCREEN を押す。**
テレビの設定画面が消えます。

テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように、確実につないでください。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。別紙のスピーカー接続のご注意をご覧ください。

テストトーンが表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーから出るときは

- 接続したスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

さらに細かい調節を行うには

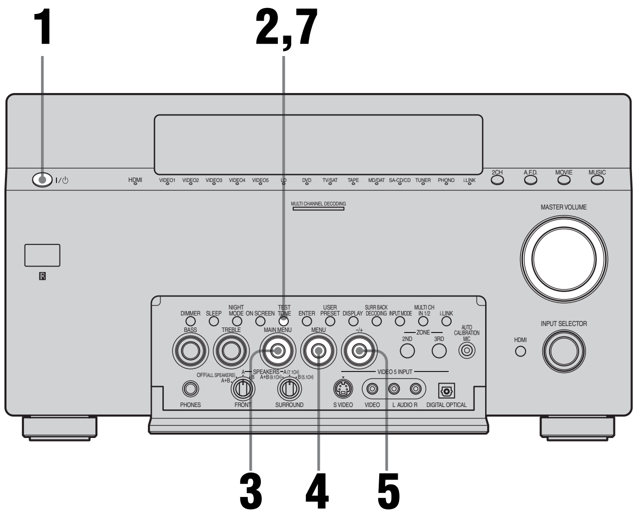
隣り合う2個のスピーカーからテストトーンや音源を出力して、バランスやレベルを調節できます。CUSTOMIZEメニューで、「MENU EXPAND」を「ON」に設定し（79ページ）、続けてLEVELメニューの「PHASE NOISE」または「PHASE AUDIO」で、調節したい2個のスピーカーを選びます。

ご注意
表示窓の設定項目が暗く表示されているものは、サウンドフィールド（48 ～ 52 ページ）や他のスピーカーの設定状態などによって、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

ちょっと一言
- 本機は中心周波数 800Hz のテストトーンを採用しています。
- すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンの MASTER VOL ＋ / －または本体の MASTER VOLUME つまみで調節します。

本体で操作を行うには

本体で操作をする場合は、以下の手順を行ってください。



1 本機の電源を入れます。

2 TEST TONEを押します。

3 MAIN MENUつまみを回して「LEVEL」を選びます。

4 MENUつまみを回して、調節したいスピーカーの設定項目を選びます。

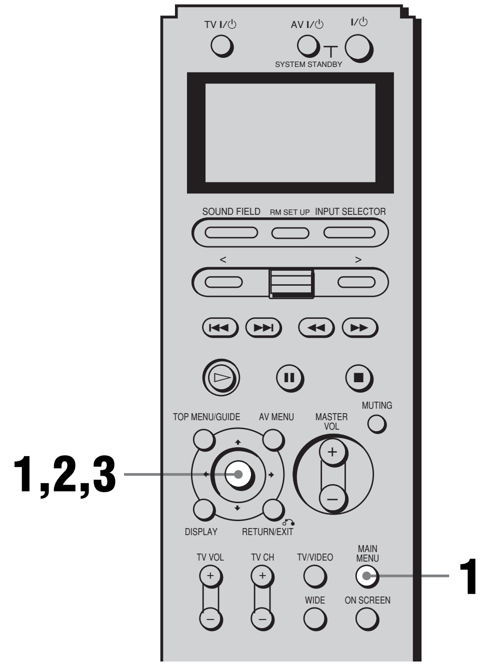
5 +/–つまみを回して、テストトーンが他のスピーカーと同じ音量に聞こえるようにレベル(音量)を調節します。

6 手順4、5の操作をくり返して、すべてのスピーカーの音量を調節します。

7 TEST TONEをもう一度押して終了します。

自動音場補正機能の測定結果を確認する

自動音場補正機能で測定したEQ特性をEQ CURVE INFORMATIONメニューで確認できます。

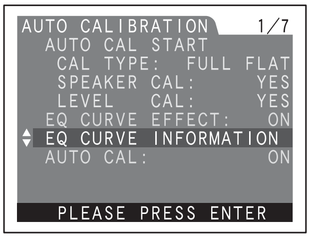


1 **MAIN MENU をくり返し押して「AUTO CALIBRATION」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のMAIN MENUつまみを回して「AUTO CALIBRATION」を選びます。

2 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「EQ CURVE INFORMATION」を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。
確認できる項目については、以下の「EQ CURVE INFORMATIONメニューの項目」をご覧ください。



3 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かしてお好みの周波数を選ぶ。**

または本体の+/–つまみを回します。

4 他の項目を確認するときは、手順2と3をくり返す。

EQ CURVE INFORMATIONメニューの項目

■FL　■■■■■Hz、■■■■dB

■FR　■■■■■Hz、■■■■dB

フロントスピーカーの自動音声補正結果のEQを表示します。

■C　■■■■■Hz、■■■■dB

センタースピーカーの自動音声補正結果のEQを表示します。

■SL-A　■■■■■Hz、■■■■dB

■SR-A　■■■■■Hz、■■■■dB

サラウンドスピーカー Aの自動音声補正結果のEQを表示します。

■SL-B　■■■■■Hz、■■■■dB

■SR-B　■■■■■Hz、■■■■dB

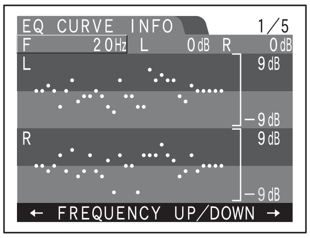
サラウンドスピーカー Bの自動音声補正結果のEQを表示します。

■SB　■■■■■Hz、■■■■dB

■SBL　■■■■■Hz、■■■■dB

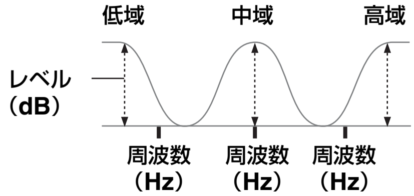
■SBR　■■■■■Hz、■■■■dB

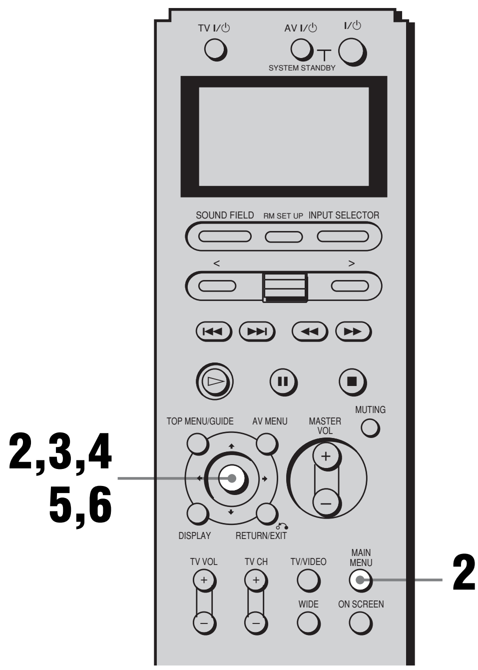
サラウンドバックスピーカーの自動音声補正結果のEQを表示します。
サラウンドバックスピーカーを1台つないでいるとき（SINGLE設定）は「SB」、2台つないでいるとき（DUAL設定）は「SBL」と「SBR」が表示されます。



イコライザー（低域/中域/高域のレベル）を調節する

本機のイコライザープリセットに5通りの設定（EQ PRESET［1］～［5］）を登録して、いつでも呼び出すことができます。





1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVDなど）を再生する。

2 MAIN MENUを押して「EQUALIZER」を選び、コントロールボタンを押す。
または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして「EQ PRESET」を選ぶ。
または本体のMENUつまみを回します。

4 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節したいイコライザー（EQ PRESET［1］～［5］）を選ぶ。
または本体の+/−つまみを回します。

5 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、以下の「EQUALIZERメニューの設定項目」をご覧ください。

6 音を聞きながら ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節する。

または本体の＋/－つまみを回します。

7 他の項目を調節するときは、手順５と６をくり返す。

EQUALIZERメニューの設定項目

■EQ PRESET
（イコライザープリセットの選択）

イコライザープリセット（[1]～[5]）を選びます。
「OFF」にするとイコライザー効果がオフになります。

■FRONT BASS ■■■ dB
（フロントスピーカーの低域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■FRONT BASS ■■■ Hz
（フロントスピーカーの低域周波数）

お買い上げ時の設定：500Hz
250Hzか500Hzが選べます。

■FRONT TREBLE ■■■ dB
（フロントスピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■FRONT TREBLE ■■■ Hz
（フロントスピーカーの高域周波数）

お買い上げ時の設定：2.2kHz
2.2kHzか4.3kHzが選べます。

■CENTER BASS ■■■ dB
（センタースピーカーの低域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■CENTER BASS ■■■ Hz
（センタースピーカーの低域周波数）

お買い上げ時の設定：500Hz
250Hzか500Hzが選べます。

■CENTER MID ■■■ dB
（センタースピーカーの中域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■CENTER MID ■■■ Hz
（センタースピーカーの中域カットオフ周波数）

お買い上げ時の設定：1.0 kHz
100Hz～10kHzの間で、5段階に設定できます。

■CENTER TREBLE ■■■ dB
（センタースピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■CENTER TREBLE ■■■ Hz
（センタースピーカーの高域周波数）

お買い上げ時の設定：2.2kHz
2.2kHzか4.3kHzが選べます。

■SURR/SB BASS ■■■ dB
（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの低域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■SURR/SB BASS ■■■ Hz
（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの低域周波数）

お買い上げ時の設定：500Hz
250Hzか500Hzが選べます。

■SURR/SB TRE. ■■■ dB
（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■SURR/SB TRE. ■■■ Hz
（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの高域周波数）

お買い上げ時の設定：2.2kHz
2.2kHzか4.3kHzが選べます。

■PRESET ■ CLEAR
（イコライザープリセットクリア）

調節したイコライザープリセットの設定を、お買い上げ時の設定に戻します。詳しくは、以下の「イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには」をご覧ください。

ちょっと一言
フロントスピーカーの低域レベルと高域レベルは、本体の BASS つまみ、TREBLE つまみでも調節できます。

登録したイコライザーを呼び出すには

1 「イコライザー(低域 / 中域 / 高域のレベル)を調節する」(67 ページ)の手順 1 ~ 3 を行う。

2 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、「EQ PRESET [1] ~ [5]」から選ぶ。
または本体の+/−つまみを回します。

イコライザー効果をオフにするには

「イコライザー(低域/中域/高域のレベル)を調節する」(67ページ)の手順4で、EQ PRESETから「EQ PRESET[OFF]」を選びます。

イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには

1 「イコライザー(低域 / 中域 / 高域のレベル)を調節する」(67 ページ)の手順 1 ~ 3 を行う。

2 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、お買い上げ時の設定に戻したいイコライザー(EQ PRESET [1] ~ [5])を選ぶ。
または本体の+/−つまみを回します。

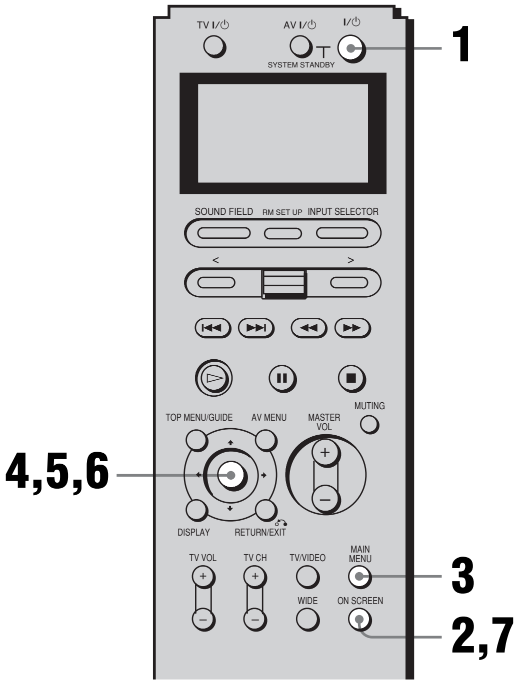
3 ⇧/⇩方向にコントロールボタンを動かして、「PRESET ■ CLEAR」を選ぶ。
または本体のMENUつまみを回します。
■には、選んだイコライザープリセットの番号が入ります。

4 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、「YES」を選び、ENTERを押す。
または本体の+/−つまみを回します。
「Are you sure?」と表示されます。

5 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、「YES」を選び、ENTERを押す。
または本体の+/−つまみを回します。
「PRESET ■ CLEARED !」と表示され、選んだイコライザーがお買い上げ時の設定に戻ります。

本機のメニューをテレビに表示して操作する

ON SCREENを押し、本機につないだテレビに設定画面を表示させると、より分かりやすくメニューを設定できます。



1 **本機とテレビの電源を入れます。**

2 **ON SCREEN を押します。**

本機につないだテレビに設定画面が表示されるように、テレビの入力を切り換えます。

3 **MAIN MENU をくり返し押して、設定したいメニューを選びます。**

テレビの画面には次のメニューが表示されます。
LEVEL
SURROUND SET UP
EQUALIZER
AUTO CALIBRATION
SPEAKER SET UP
CUSTOMIZE
CIS
STREAM INFORMATION

4 **コントロールボタンを押して、設定したいメニューを決定します。**

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

5 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定したい項目を選びます。**

または本体のMENUつまみを回します。

6 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、お好みのパラメータを選びます。**

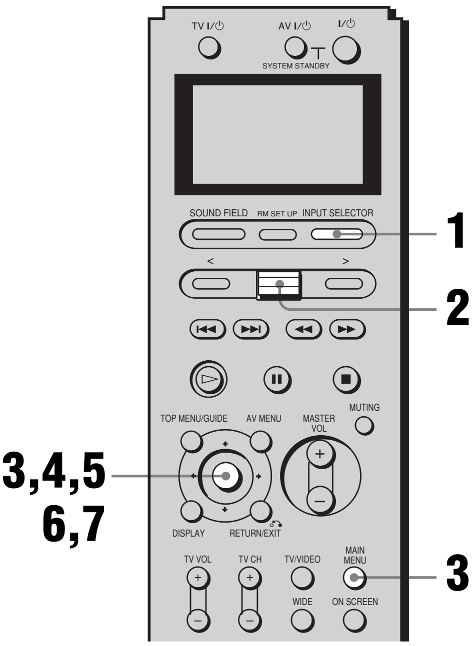
または本体の＋/－つまみを回します。

7 **ON SCREEN を押して終了します。**

メニュー設定画面が消えます。

入力に名前を付ける

入力に8文字までの名前を付けて、本機の表示窓に表示できます。
機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。



1 INPUT SELECTOR を押す。

2 イージースクロールキーで名前を付けたい入力を選び、押して決定する。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。HDMIを選ぶときは、HDMIボタンを押します。

3 MAIN MENU をくり返し押して、本体の表示窓で「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

4 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「NAME IN?」を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

5 コントロールボタンを押す。

または本体の＋/－つまみを回します。
入力名が点滅し、文字を選べる状態になります。

6 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして名前を付ける。

本体の＋/－つまみで文字を選び、MENUつまみでカーソルを次のポジションへ動かします。

スペースを入れるには

文字を入力せずに ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かします。入力した文字をスペースに変更したい場合は、表示窓にスペースが表示されるまで本体の＋/－つまみを回します。

間違えて入力したときは

⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして変更したい文字を点滅させ、本体の＋/－つまみを回して、正しい文字を選びます。

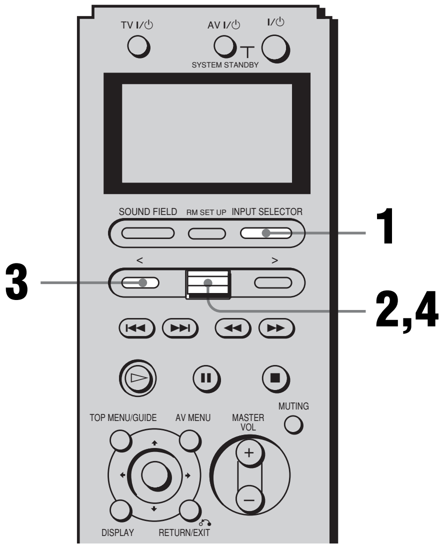
7 コントロールボタンを押す。

または本体のENTERを押します。
名前が確定します。

8 別の入力に名前を付けるときは、手順１から７をくり返す。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。
例：スーパーオーディオCDプレーヤーのデジタル音声でCDを聞いたり、アナログ音声でスーパーオーディオCDを聞く場合、どちらかに固定したり、切り換えられます。



1 INPUT SELECTOR を押す。

2 イージースクロールキーで音声入力を選び、押して決定する。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

3 < をくり返し押して、AV AMPLIFIER MENU を表示させます。

4 イージースクロールキーで「INPUT MODE」を選び、押して決定する。

表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。
または本体のINPUT MODEボタンを押します。

音声入力モード

- AUTO 2CH
  デジタル音声入力がない場合は、AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が選ばれます。
- COAXIAL FIXED
  DIGITAL COAXIAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- OPTICAL FIXED
  DIGITAL OPTICAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- ANALOG 2CH FIXED
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- DIGITAL ASSIGN 機能（73 ページ）で他の入力に割り当てているデジタル音声入力は選ぶことができません。
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- i.LINK 入力と HDMI 入力を選んでいるときは、「i.LINK FIXED」「HDMI FIXED」と表示され、他の項目は選べません。i.LINK と HDMI 以外の入力を選んでください。

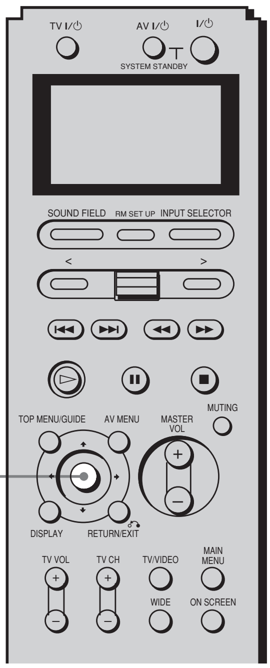
選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる

OPTICALやCOAXIALのデジタル音声入力端子を持っている入力（VIDEO 1 IN、LD IN、DVD IN、TV/SAT IN、MD/DAT IN、SA-CD/CD IN）を使っていないときに、他の入力（VIDEO 2など）に割り当てることができます。

例：複数のデジタル機器（DVDプレーヤー）をつなぎたいときに、入力が足りない場合

- 1台目のDVDプレーヤー
  DVD OPTICAL IN端子につなぎます。入力で「DVD」を選ぶと、音声はOPTICALで聞くことができます。
- 2台目のDVDプレーヤー
  DVD COAXIAL IN端子につなぎ、VIDEO 2に割り当てます。入力で「VIDEO2」（２台目のDVDプレイヤー）を選ぶと、デジタルCOAXIALの音声で聞くことができるようになります。

1,2,3



1 **CUSTOMIZE メニューの「DIGITAL ASSIGN?」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のENTERを押します。
CUSTOMIZEメニューに入る操作は「各種設定を変える（CUSTOMIZEメニュー）」（78ページ）をお読みください。

2 **コントロールボタンを ⇧/⇩ 方向に動かして、空いているデジタル音声入力を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。

3 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして音声を割り当てる入力を選ぶ。**

または本体の＋/−つまみを回します。
割り当てる入力を表示させたら設定完了です。

デジタル音声入力に割り当てできる入力

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

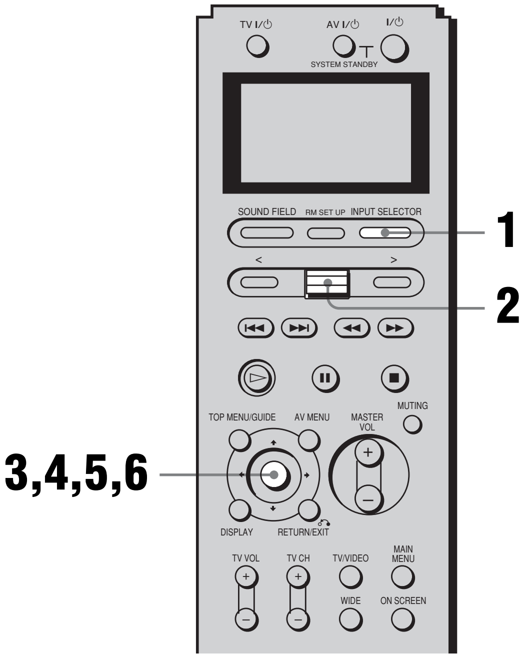
デジタル音声入力	割り当てできる入力
VIDEO1 COAX VIDEO1 OPT	VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、TAPE、TUNER
VIDEO5 OPT	VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、VIDEO 5、TAPE、TUNER
DVD COAX DVD OPT	VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、DVD、TAPE、TUNER
LD OPT	VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、LD、TAPE、TUNER
TV/SAT COAX TV/SAT OPT	VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、TV/SAT、TAPE、TUNER
MD/DAT COAX MD/DAT OPT	VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、MD/DAT、TAPE、TUNER
SA-CD/CD COAX SA-CD/CD OPT	VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、SA-CD、TAPE、TUNER

ご注意

- 同じ入力に複数のデジタル音声を同時に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたデジタル音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE（72 ページ）の設定が変わることがあります。

i.LINK 音声に映像を組み合わせる

本機のi.LINK端子は音声入力のみに対応しています。i.LINKを選んだときに、i.LINK端子につないだ機器の音声に他の映像入力を組み合わせることができます。



1 INPUT SELECTOR を押す。

2 イージースクロールキーで i.LINK 機器を選び、押して決定する。

i.LINK機器がつながっていないときは、選べません。

3 CUSTOMIZEメニューの「i.LINK VIDEO ASSIGN」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のENTERを押します。
CUSTOMIZEメニューに入る操作は「各種設定を変える （CUSTOMIZEメニュー）」（78ページ）をお読みください。

4 コントロールボタンを ⇧/⇩ 方向に動かして、i.LINK 機器名を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

5 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、映像を組み合わせる i.LINK 機器のメモリー([1] ～ [5])を選び、押して決定する。

または本体の+/－つまみを回し、ENTERを押します。

6 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、i.LINK 機器と組み合わせる映像機器の入力を選ぶ。

または本体の+/－つまみを回します。
映像機器の入力を表示させたら設定完了です。
「NONE」を選ぶと、i.LINKを選んだときに映像を出力しません。

i.LINK VIDEO ASSIGNの設定項目

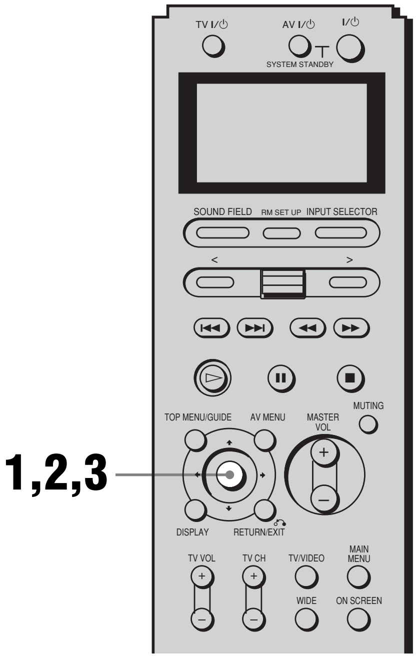
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

i.LINK機器	組み合わせる映像機器の入力
i.LINK [1]～[5]	<u>NONE</u>、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、DVD、TV/SAT、HDMI1、HDMI2

ご注意
同じ i.LINK 機器に複数の映像を同時に割り当てることはできません。

選んだ入力に HDMI 端子を割り当てる

HDMI映像を、他の入力を選んだときも楽しむことができます。
例：SA-CD/CDの入力を選んだときに、SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCDの音を聞きながら、HDMI映像を楽しむことができます。



1 CUSTOMIZE メニューの「HDMI VIDEO ASSIGN?」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のENTERを押します。
CUSTOMIZEメニューに入る操作は「各種設定を変える（CUSTOMIZEメニュー）」（78ページ）をお読みください。

2 コントロールボタンを ⇧/⇩ 方向に動かして、割り当てる HDMI 映像を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

3 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、HDMI 映像を割り当てる入力を選ぶ。

または本体の+/－つまみを回します。
割り当てる入力を表示させたら設定完了です。
「NONE」を選ぶと、映像は初期設定されている入力（HDMI1/2）に割り当てられます。

HDMI VIDEO ASSIGNの設定項目

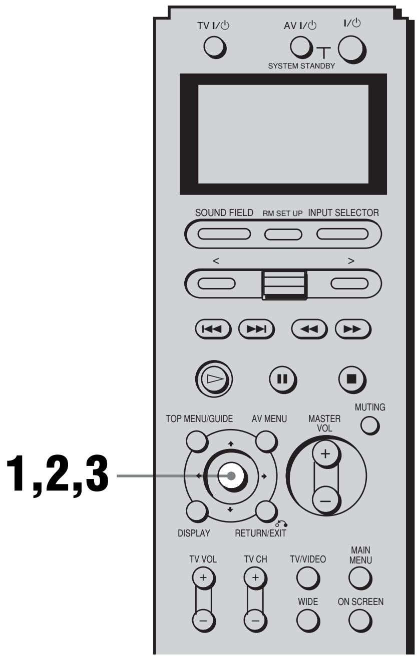
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

映像（入力端子）	HDMI映像を割り当てる入力
HDMI 1（HDMI IN1）	<u>NONE</u>、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
HDMI 2（HDMI IN2）	<u>NONE</u>、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER

ご注意
同じ入力に「HDMI 1」と「HDMI 2」を同時に割り当てることはできません。

選んだ入力にコンポーネント /D4 映像端子を割り当てる

コンポーネント映像を、他の入力を選んだときも楽しむことができます。
例：SA-CD/CDを選んだときに、SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCDの音を聞きながら、コンポーネント映像を楽しむことができます。



1 CUSTOMIZE メニューの「COMP/D-VIDEO ASSIGN?」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のENTERを押します。
CUSTOMIZEメニューに入る操作は「各種設定を変える （CUSTOMIZEメニュー）」（78ページ）をお読みください。

2 コントロールボタンを ⇧/⇩ 方向に動かして、割り当てるコンポーネント映像を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

3 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、コンポーネント映像を割り当てる入力を選ぶ。

または本体の+/－つまみを回します。
割り当てる入力を表示させたら設定完了です。
「NONE」を選ぶと、映像は初期設定されている入力に割り当てられます。

COMP/D-VIDEO ASSIGNの設定項目

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

映像（入力端子）	コンポーネント映像を割り当てる入力
DVD （COMPONENT/D4 VIDEO DVD IN）	NONE、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、<u>DVD</u>、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
TV/SAT （COMPONENT/D4 VIDEO TV/SAT IN）	NONE、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、<u>TV/SAT</u>、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
VIDEO1 （COMPONENT/D4 VIDEO VIDEO1 IN）	NONE、<u>VIDEO1</u>、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER

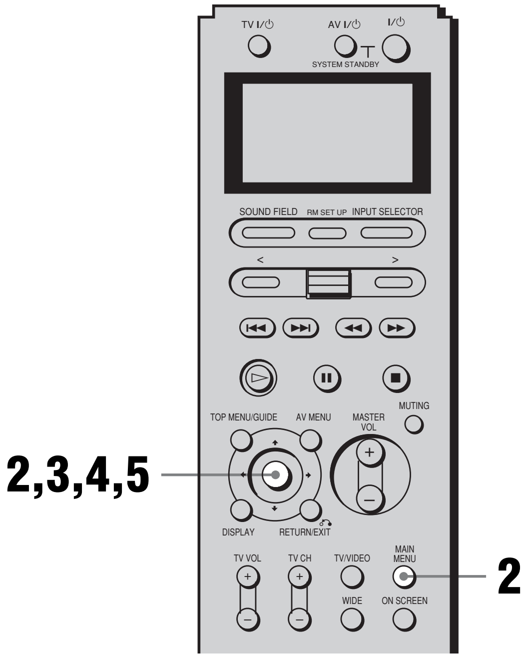
ご注意

- 同じ入力に「DVD」、「TV/SAT」、「VIDEO 1」を同時に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたコンポーネント映像は、もとの入力で使うことはできません。
- コンポーネント映像端子と D4 映像端子には同じ映像が割り当てられます。別の映像を割り当てることはできません。

設定した内容を登録する

（USER PRESET）

調節したサウンドフィールドなどの設定を、USER PRESETに3つまで登録し、簡単に呼び出すことができます。



USER PRESETを登録する

1 **サウンドフィールドなど、登録したい項目を調節する。**

USER PRESETに登録できる項目

- 選んだ入力（43ページ）
- INPUT MODEの設定（72ページ）
- 選んだサウンドフィールド（48、51ページ）
- NIGHT MODEの設定（53ページ）
- EFFECT LEVELの設定（57ページ）
- C.WIDTHの設定（57ページ）
- DIMENSIONの設定（57ページ）
- PANORAMA MODEの設定（57ページ）
- FRONT REVERBの設定（57ページ）
- SCREEN DEPTHの設定（57ページ）
- VIR.SPEAKERSの設定（57ページ）

2 **MAIN MENU をくり返し押して、本体の表示窓で「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のMAIN MENUつまみを回して、「CUSTOMIZE」を選びます。

3 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして「USER PRESET MEM.?」を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。

4 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、登録したい番号を選ぶ。**

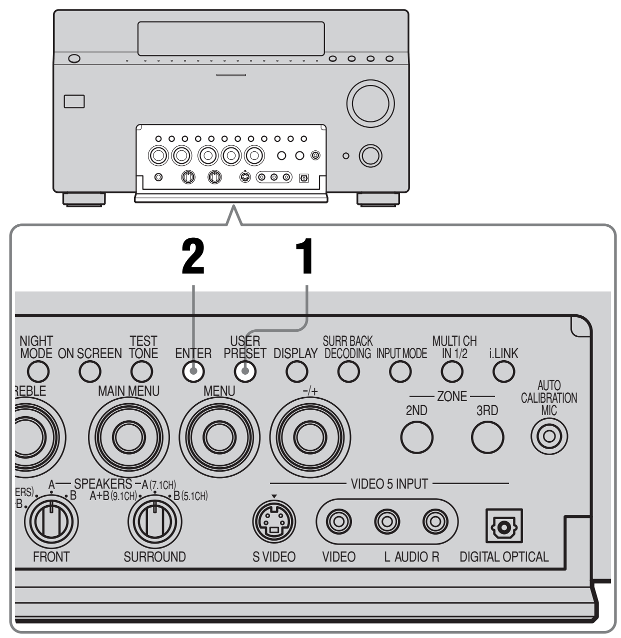
または本体の＋/−つまみを回します。

5 **コントロールボタンを押す。**

または本体のENTERを押します。

6 **他の設定を登録するときは、手順１から５をくり返す。**

登録したUSER PRESETを使う

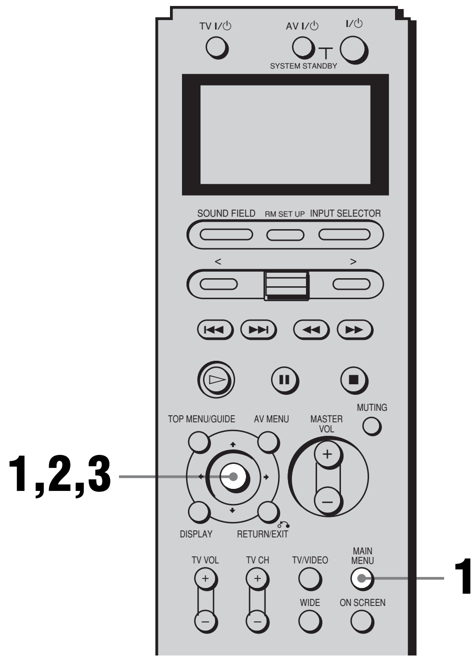


1 USER PRESET をくり返し押して、お好みの USER PRESET 番号を選ぶ。

2 ENTER を押す。

各種設定を変える

（CUSTOMIZE メニュー）



1 MAIN MENU をくり返し押して、本体の表示窓で「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回して「CUSTOMIZE」を選びます。

2 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。
詳しくは、以下の「CUSTOMIZEメニューの設定項目」（79ページ）をご覧ください。

3 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かしてお好みの項目または設定値を選ぶ。

または本体の＋/－つまみを回します。

4 他の項目を設定するときは、手順２と３をくり返す。

ちょっと一言

USER PRESET への登録後に DIGITAL ASSIGN（73 ページ）の設定を変えたため、登録した INPUT MODE の設定が使えないときは、選べる INPUT MODE が自動的に適用されます。
例）
1 DIGITAL ASSIGN で「DVD OPT」を「TAPE」に割り当て直す。
2 「TAPE」の INPUT MODE を「AUTO 2CH」または「OPTICAL FIXED」にし、USER PRESET に登録する。
3 DIGITAL ASSIGN で「DVD OPT」を「TAPE」から「DVD」に割り当て直す。
4 2 で登録した USER PRESET を選ぶ。
TAPE の INPUT MODE は自動的に「ANALOG 2CH FIXED」になります。「AUTO 2CH」と「OPTICAL FIXED」は選べません。

CUSTOMIZEメニューの設定項目

お買い上げ時は、下線のように設定されています。

設定項目	設定値	説明
MENU EXPAND （メニュー項目拡張）	ON	表示窓にSURROUND SET UP、LEVEL、SPEAKER SET UPの各メニューの拡張設定項目が表示されて、設定できるようになります。各メニューの設定項目について詳しくは、57、59、64ページをご覧ください。
	OFF	各メニューの拡張設定項目は表示されません。
SB DECODING （サラウンドバックデコーディング）	AUTO ON OFF	サラウンドバックデコーディング機能を設定できます。 詳しくは、「サラウンドバックデコーディング機能の種類を選ぶ（SB DECODING）」（54ページ）をご覧ください。
SB DEC MODE[a)] （サラウンドバックデコーディングモード）	DDEX PLII x MV PLII x MS	サラウンドバックのデコーディングモードを設定します。 各モードについて詳しくは、「サラウンドバックデコーディングモードを選ぶ（SB DEC MODE）」（55ページ）をご覧ください。
DEC. PRIORITY （デジタル音声入力デコードプライオリティ）		DIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。
	AUTO	ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。
	PCM	PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。「AUTO」に設定してCDなどのデジタル音声を入力したときに、再生を始めると音が途切れる場合は「PCM」にしてください。なお、PCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「AUTO」に設定してください。
DUAL MONO （二重音声モード）		BSデジタル放送のMPEG-2 AAC/ドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。リモコンのDUAL MONOでも設定できます。
	MAIN/SUB	左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
	MAIN	主音声のみを再生します。
	SUB	副音声のみを再生します。
	MAIN+SUB	主音声と副音声が合成された音声を再生します。
A/V SYNC	0 ms	入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。 0 ms～200 msの範囲で10 msごとに調節できます。 ただし、i.LINK入力でDSD信号を受けている場合は機能しません。
MULTI IN 5.1 → 7.1	YES	マルチチャンネル入力時にサラウンドバックに入力された信号を無効にします。サラウンド入力の信号を、サラウンドバックにコピーして、7.1ch出力します。
	NO	サラウンドバックへの入力を有効にします。

a) SB DECODING/SB DEC MODE の設定は、A.F.D. モードでドルビープロロジック IIx を選んでいるときは無効になり、自動的に最適なデコードモードが設定されます。

設定項目	設定値	説明
DC P. LINEARIZER （(DC PHASE Linearizer）低域の増強）		低域の位相特性を伝統的なアナログアンプの特性に近づけます。
	OFF	位相補正を行いません。
	LOW-A、 STD-A、 HIGH-A、 LOW-B、 STD-B、 HIGH-B	「LOW」、「STD」、「HIGH」の順に補正が行われる帯域が広がります。「-B」のつくB特性は、より低音感が豊かな位相特性を与えます。
i.POWER （i.LINK回路の電源）	AUTO	不要なi.LINK回路の電源を自動的に切ります。i.LINK回路の影響を受けない高音質の音声をお楽しみいただけます。「AUTO」にすると、音が出るまでに少し時間がかかります。「AUTO」に設定して入力を切り換えるときは、43ページのご注意（!）をご覧ください。
	EVER ON	i.LINK回路の電源を常に入れたままにします。「AUTO」に設定して、音が出るまでに時間がかかることが気になる場合などに選びます。つなぐ機器によっては効果がない場合もあります。
H.A.T.S.[b)] （H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能）	ON	i.LINKから入力されたデジタル音声信号を一時的に蓄え、精度の高いタイミングで信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタル音声信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けず、音質がよくなります。この機能を使わないときは「OFF」にします。
	OFF	H.A.T.S.機能は働きません。
i.LINK VIDEO ASSIGN （i.LINK映像入力割り当て）		i.LINK機器に映像入力を割り当てることができます。 詳しくは、「i.LINK音声に映像を組み合わせる」（74ページ）をご覧ください。
DIGITAL ASSIGN ? （デジタル音声入力の割り当て）		特定の入力のデジタル音声入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（73ページ）をご覧ください。
COMP/D-VIDEO ASSIGN? （コンポーネントビデオ入力の割り当て）		DVDとTV/SATのコンポーネントビデオ入力を他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にコンポーネント/D4映像端子を割り当てる」（76ページ）をご覧ください。
HDMI VIDEO ASSIGN? （HDMI入力の割り当て）		HDMI 1とHDMI 2の入力を他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にHDMI端子を割り当てる」（75ページ）をご覧ください。
HDMI AUDIO		本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。
	AMP	再生機の音声は、本機につないだスピーカーとPRE OUTから出力されます。マルチチャンネルの音声はそのまま再生可能です。 **ご注意** テレビのスピーカーから音は出ません。
	TV+AMP	再生機の音声は、本機と、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生されます。 **ご注意** • 本機で再生する音声はテレビの性能に依存します。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声はテレビと同じステレオ（2ch）になります。 • 本機を音声出力機能がない映像機器（プロジェクターなど）につないだ場合、本機から音声が出力されないことがあります。この場合は「AMP」に設定してください。

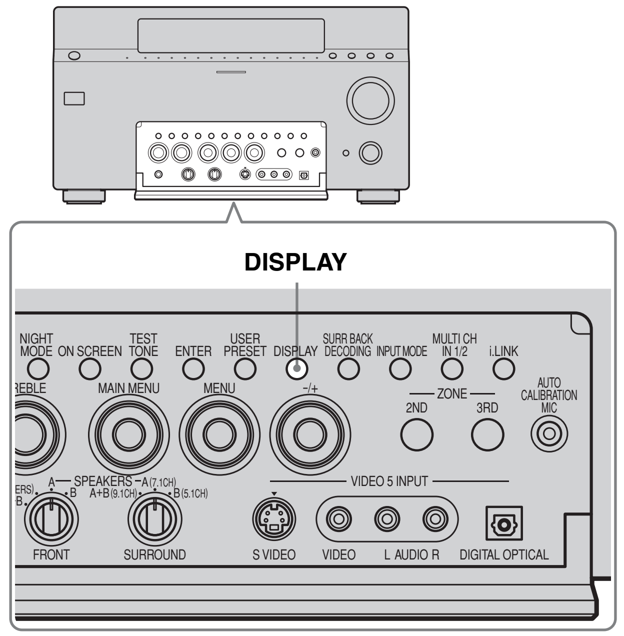
b) H.A.T.S. 機能の性質により、再生機の操作（例：再生ボタンを押す、停止ボタンを押す、一時停止ボタンを押す、など）をしてから音が出るまで少し時間がかかることがあります。
また、音源によってもかかる時間は異なります。
また、つないでいる機器や音源によっては、「ON」に設定している場合でも機能しないことがあります。

設定項目	設定値	説明
HDMI POWER	<u>AUTO</u>	不必要なHDMI回路の電源を自動的に切ります。HDMI周りの電源を落とすことで、高品質なデジタルまたはアナログサウンドをお楽しみいただけます。「AUTO」に設定する場合、音がでるまでにある程度の時間がかかります。
	EVER ON	HDMI回路の電源を常に入れたままにします。「AUTO」に設定して、音が出るまでに時間がかかることが気になる場合などに選びます。つなぐ機器によっては効果がない場合もあります。
VIDEO CONVERT[c)]	<u>ON</u>	映像信号を変換します。
	OFF	VIDEO CONVERT機能は働きません。
PROGRESSIVE OUT[c)]	ON	映像信号がコンポーネント信号として出力されたときに、480ｐに変換された映像信号を出力します。
	<u>OFF</u>	PROGRESSIVE OUT機能は働きません。
VIDEO BRIGHTNESS[c)] （明るさの調整）	<u>4</u>	1～7の範囲で設定できます。「VIDEO CONVERT」が「OFF」に設定されていると、「VIDEO BRIGHTNESS」は調節できません。
VIDEO COLOR[c)] （色の濃さの調整）	<u>4</u>	1～7の範囲で設定できます。「VIDEO CONVERT」が「OFF」に設定されていると、「VIDEO COLOR」は調節できません。
VIDEO HUE[c)] （色あいの調節）	<u>4</u>	1～7の範囲で設定できます。「VIDEO CONVERT」が「OFF」に設定されていると、「VIDEO HUE」は調節できません。
REC OUT （音声/映像出力）		録音するソースを選べます（アナログソースのみ可能です）。
	<u>MAIN SOURCE</u>	メインゾーンで選んでいる入力のアナログ音声信号と映像信号が出力されます。
	2ND SOURCE	2ndゾーンで選んでいる入力のアナログ音声信号と映像信号が出力されます（PHONO以外）。
OSD H.POSITION （オンスクリーン画面位置（水平方向））	<u>4</u>	オンスクリーン画面の水平方向の位置を設定します。0～64の範囲で設定できます。
OSD V.POSITION （オンスクリーン画面位置（垂直方向））	<u>4</u>	オンスクリーン画面の垂直方向の位置を設定します。0～32の範囲で設定できます。
DIMMER （表示窓の明るさ）	<u>0% DOWN</u> 60% DOWN 100% DOWN	3段階に表示窓の明るさを調節できます。表示窓を全消灯すると、MULTI CHANNEL DECODINGランプも消灯します。 100% DOWNを選んでいるときは、「100% DOWN」という文字は表示されません。
USER PRESET MEM.? （ユーザープリセットメモリー）	調節したサウンドフィールドなどの設定を登録します。詳しくは、「設定した内容を登録する （USER PRESET)」（77ページ）をご覧ください。	
NAME IN? （名前設定）	入力の名前を付けることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（71ページ）をご覧ください。	

c) 各ビデオ設定値は INPUT SELECTOR ごとに独立して調節できます。調節した値は、本機のメモリーがクリアされるまで保持されます。電源を切ったり、電源コードを抜いても調節した値は記憶されています。

表示窓の表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドの情報などを確認できます。



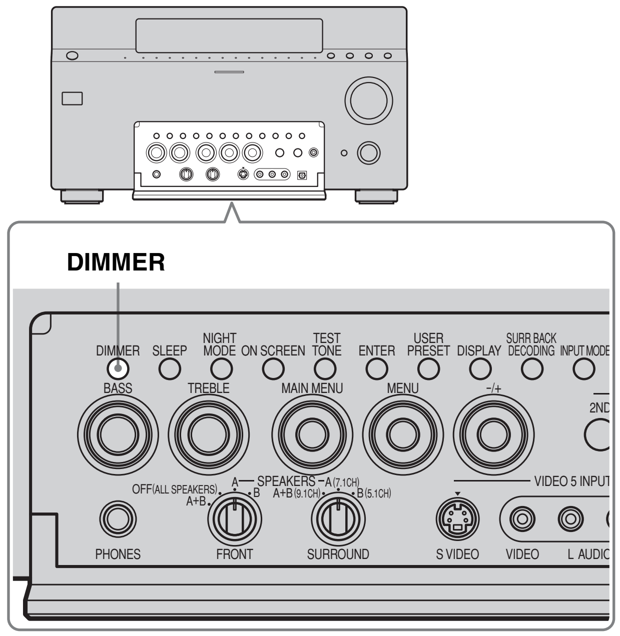
本体の DISPLAY をくり返し押す。

DISPLAYを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

登録した名前*とサウンドフィールド名
↕
入力端子名とサウンドフィールド名

＊入力に名前を付けているときのみ表示されます。
すべてスペースが入力されていたり、入力名と同じ名前が付けられている場合は名前は表示されません。

表示窓の明るさを切り換える



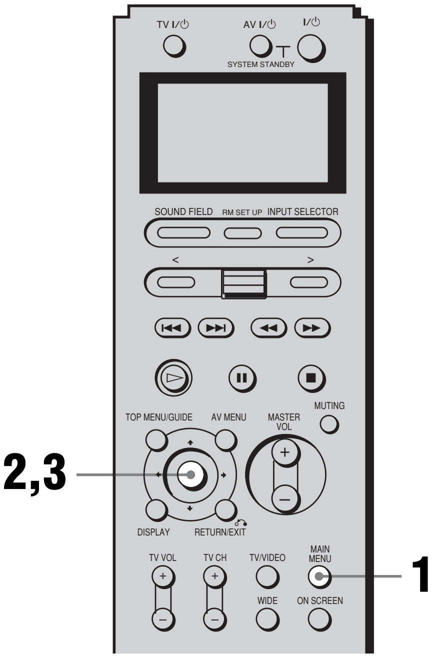
DIMMER をくり返し押す。

表示窓の明るさが3段階（0% DOWN、60% DOWN、100% DOWN*）で切り換わります。

＊100%DOWN を選んでいるときは、「100%DOWN」という文字は表示されません。

入力ストリームの情報を見る

デジタルで入力された信号のストリーム情報（フォーマット情報、チャンネル情報）を確認できます。入力ストリーム情報は、入力されるデジタル信号に変化があったときにも自動的に4秒間表示されます。



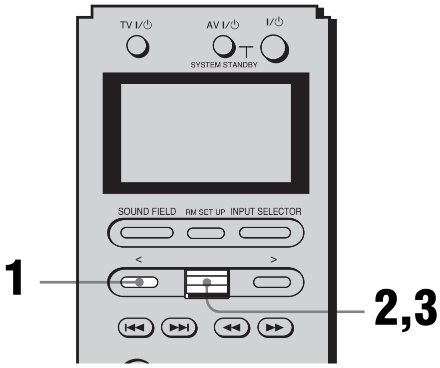
1 **MAIN MENU をくり返し押して、「STREAM INFO」を選ぶ。**
または本体のMAIN MENUつまみを回します。

2 **コントロールボタンを押す。**
または本体のMENUつまみを回します。
入力ストリーム情報が表示されます。

3 **さらに情報を見るときは、⇦/⇨ 方向にコントロールボタンをくり返し動かす。**
または本体の+/−つまみを回します。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。



1 **< をくり返し押して AV AMPLIFIER メニューを表示させる。**

2 **イージースクロールキーで「SLEEP」を選ぶ。**
または本体のSLEEPを押します。

3 **イージースクロールキーをくり返し押す。**
または本体のSLEEPをくり返し押します。
SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

→2:00:00→1:30:00→1:00:00→0:30:00→OFF

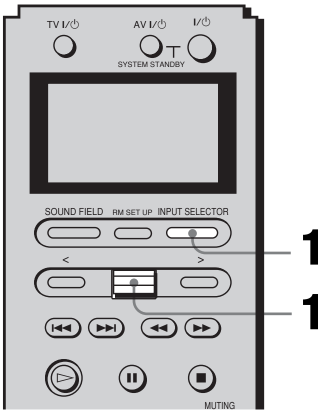
スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

ちょっと一言
スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEP を押します。表示窓に残り時間が表示されます。

他機を使って録音 / 録画する

カセットテープやミニディスクに録音する

本機を使ってカセットテープまたはミニディスクに録音できます。お手持ちのカセットデッキまたはMDデッキの取扱説明書もご覧ください。



1 **INPUT SELECTOR を押してから、イージースクロールキーで再生機器を接続した入力を選ぶ。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 **再生機器を準備する。**

例：CDプレーヤーにCDを入れる。

3 **録音機器を準備する。**

カセットテープまたはミニディスクを入れ、録音レベルを調節する。

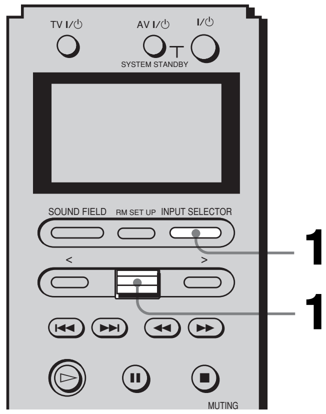
4 **録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。**

デジタル音声を録音するには

再生機器をデジタル音声入力（OPTICAL IN）端子につなぎ、録音機器をOPTICAL MD/DAT OUT端子につないでください。

録画する

本機を使って映像機器からビデオテープなどに録画できます。お手持ちの録画機器の取扱説明書もご覧ください。



1 **INPUT SELECTOR を押してから、イージースクロールキーで再生機器を接続した入力を選ぶ。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 **再生機器の準備をする。**

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

3 **録画機器の準備をする。**

（VIDEO 1またはVIDEO 2につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

4 **録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。**

ご注意

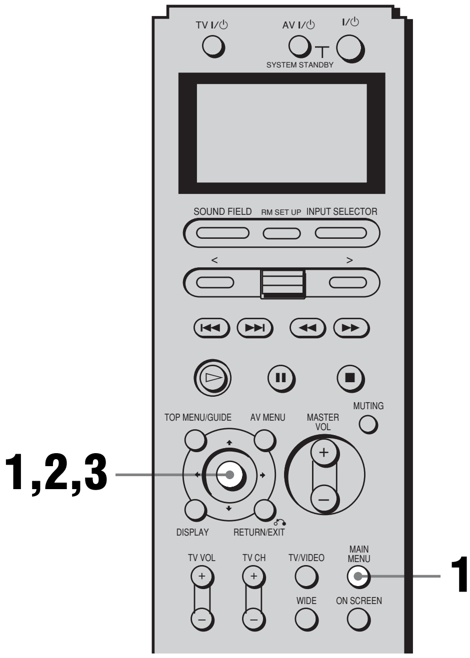
- TAPE OUT 端子または MD/DAT OUT 端子から出力される信号に対して、音の調節は効きません。
- MULTI CH IN 端子に入力された音声信号は、FRONT の L/R 音声のみ出力されます。
- 録画防止機能のあるソースは録画できません。

ちょっと一言

録音、録画機器の接続については「準備 3a：オーディオ機器を接続する」（18 ページ）、「準備 3b：映像機器を接続する」（23 ページ）もご覧ください。

本機から他機を操作する

本機にはカスタムインストール機能があります。
この機能をどのようにお使いいただくかによって、追加で機器をお買い求めいただいたり、お使いいただく環境を変更していただくことがあります。



1 MAIN MENU をくり返し押して、「CIS」を選び、コントロールボタンを押します。

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

2 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、メニュー項目を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。
詳しくは「CISメニューの設定項目」をご覧ください。

3 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして設定値を選ぶ。

または本体の＋/－つまみを回します。

4 手順の 2、3 をくり返して他の項目を設定する。

CISメニューの設定項目

■2ND ZONE（2ndゾーンに割り当てる入力）

■3RD ZONE（3rdゾーンに割り当てる入力）

2ndゾーン/3rdゾーンに出力したい入力を選びます。（PHONO、MULTI CH IN、i.LINK、HDMIは選べません）2ndゾーン用にアナログの音声/映像信号、3rdゾーン用にアナログ音声信号を出力します。
「SOURCE」を設定している場合は、メインゾーンで選ばれている機器の信号が出力されます。

■INSTALLER MODE（RS232Cによるコントロール）

通常はOFFにしてください。

- ON
RS232Cポートからコマンドを受け取ることができます。
- OFF
RS232Cポートからコマンドを受け取ることができません。

■12V TRIG. MAIN（メインゾーンの12Vトリガ設定）

- OFF
  12Vトリガを常時OFFにします。
- CTRL
  RS232Cコントロール機能やAVリモコンを使って12Vトリガの出力をマニュアル操作で切り換えます。
- ZONE
  選んだゾーンの電源の入/切に連動して、12Vトリガを入/切します。
- INPUT
  あらかじめ設定した入力が選ばれたときに、12Vトリガが入ります。

ご注意

- VIDEO 端子を使用して、2nd ゾーンにある機器と映像信号をつないでください。
- AUDIO L/R 端子を使用して、2nd ゾーン、または 3rd ゾーンにある機器と音声信号をつないでください。

ちょっと一言

- アナログ入力端子につないだ機器からの信号だけが、2ND ZONE OUT か 3RD ZONE OUT 端子から出力されます。デジタル入力端子だけにつないだ機器からの信号は出力されません。
- 「SOURCE」が選ばれていると、MULTI CH IN が選択されていても MULTI CH IN 端子への入力信号は 2ND ZONE OUT 端子または 3RD ZONE OUT 端子には出力されません。そのとき選ばれている機器のアナログ音声信号が出力されます。

つづく

■12V TRIG. 2ND
（2ndゾーンへの12Vトリガ設定）

■12V TRIG. 3RD
（3rdゾーンへの12Vトリガ設定）

- OFF
  12Vトリガを常時OFFにします。
- CTRL
  RS232Cコントロール機能を使って12Vトリガの出力をマニュアル操作で切り換えます。
- ZONE
  選んだゾーンの電源の入/切に連動して、12Vトリガを入/切します。
- MAIN
  2ndゾーン/3rdゾーンの12Vトリガに連動して、12Vトリガを入/切します。

■12V TRIG. EX1
（その他のゾーンへの12Vトリガ設定 1）

■12V TRIG. EX2
（その他のゾーンへの12Vトリガ設定 2）

- OFF
  12Vトリガを常時OFFにします。
- CTRL
  RS232Cコントロール機能を使って12Vトリガの出力をマニュアル操作で切り換えます
- MAIN
  2ndゾーン/3rdゾーンの12Vトリガに連動して、12Vトリガを入/切します。

各入力の12Vトリガの設定をする

TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER、PHONO 、i.LINK の初期設定は「OFF」です。
VIDEO 1-5、LD、DVD、TV/SATと HDMI 1 、2の初期設定は「ON」です。

1 「12V TRIG. MAIN」で「INPUT」を選ぶ。

2 ENTERを押す。

3 MENUつまみを回して入力を選ぶ。

4 +/−つまみを回して、12Vトリガを有効にするために「ON」を選ぶ、または無効にするために「OFF」を選ぶ。

5 ENTERを押す。

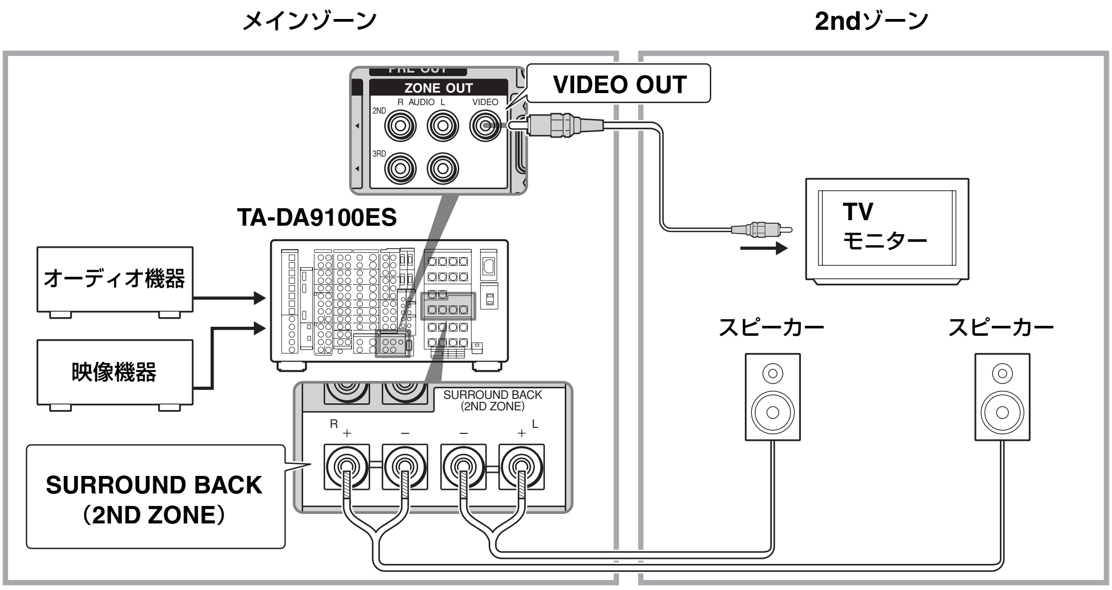
マルチゾーン機能を使う

本機を設置した場所（メインゾーン）とは別の場所（2nd（3rd）ゾーン）で、本機につないだ機器の映像や音声を楽しむことができます。例えば、メインゾーンでCDを聞き、2ndゾーンではDVDを見ることができます。

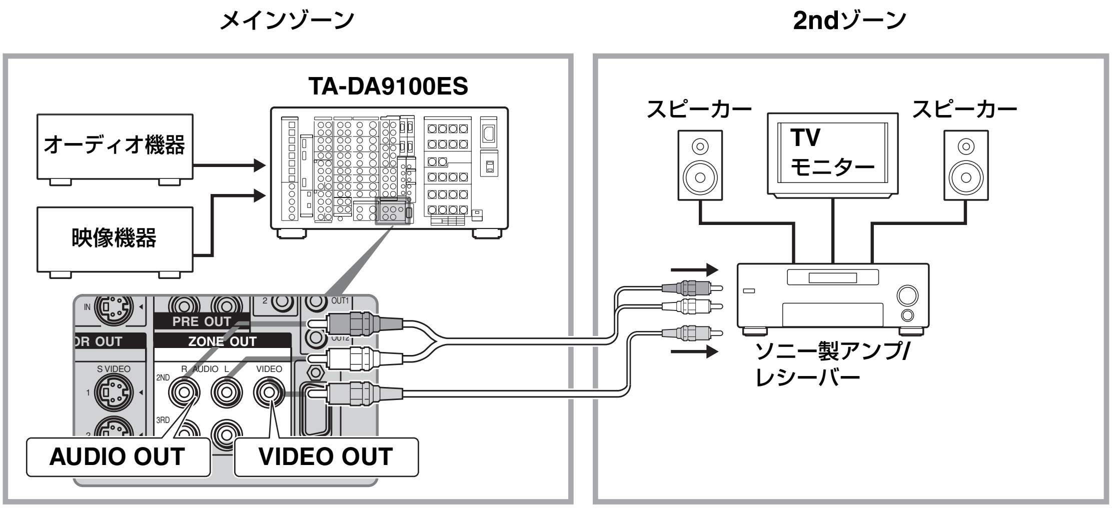
1:2ndゾーンの接続

① 本機のサラウンドバックスピーカー端子を使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力します。

このときSPEAKER SET UPメニューの「SURR BACK SP」を「2ND ZONE」に設定してください（62ページ）。



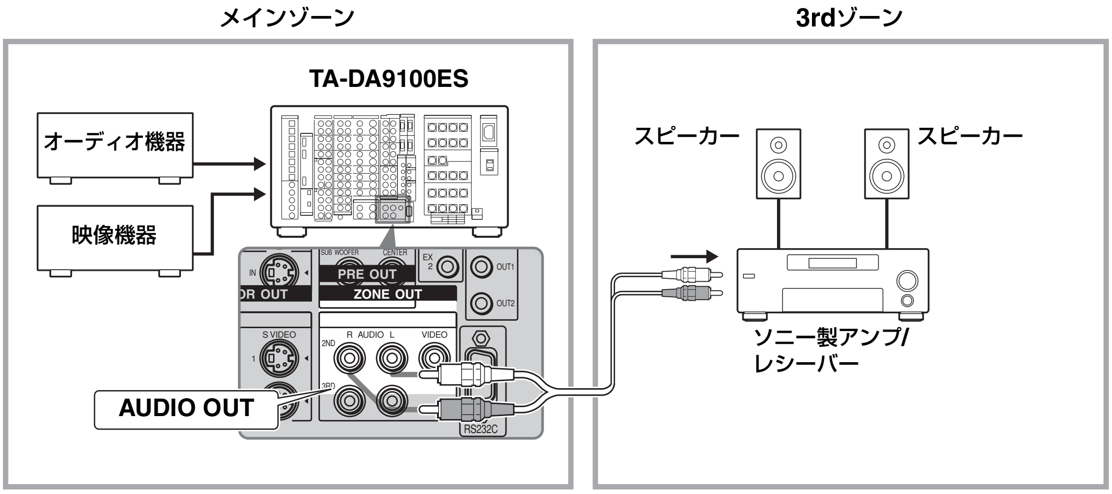
② 本機と、もう1台のアンプを使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力します。



つづく

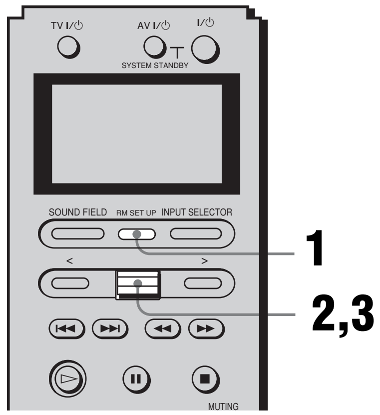
2:3rdゾーンの接続

本機と、もう1台のアンプを使用して、3rdゾーンにあるスピーカーから音声を出力します。



以下の操作はRM-AAE004リモコンを使ってマルチゾーン出力をする方法です。

リモコンのセットアップ



1 RM SET UP を押す。

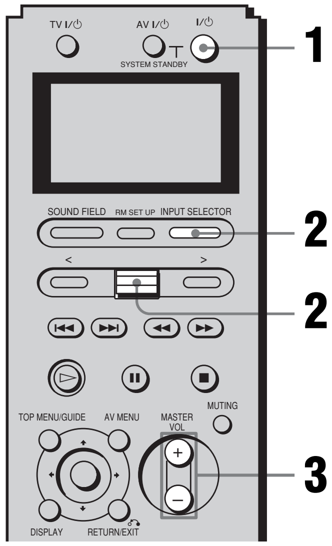
セットアップリストが表示されます。

2 イージースクロールキーで「COMMAND MODE」を選び、押して決定する。

COMMAND MODE(コマンドモード)リストが表示されます。

3 イージースクロールキーで「2ND ZONE」または「3RD ZONE」を選び、押して決定する。

マルチゾーン出力を操作する



1 **I/⏻ を押す。**

本機の2ndゾーンまたは3rdゾーン用電源が入ります。
1-②と2の接続方法の場合は、マルチゾーンのアンプの電源も入れてください。

2 **INPUT SELECTOR を押す。**

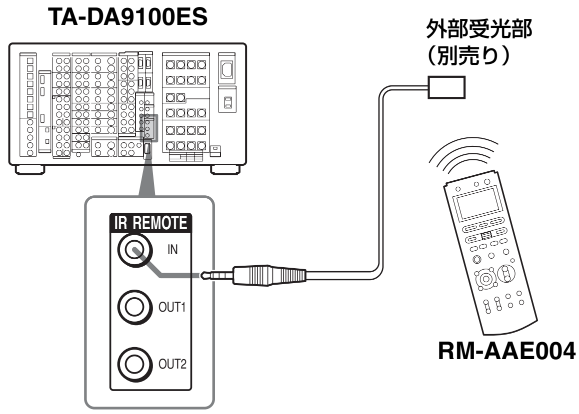
イージースクロールキーで出力したいソースを選び、押して決定します。
または本体の2ND ZONEか3RD ZONEスイッチを押します。
2ndゾーンにはアナログ映像信号とアナログ音声信号が出力されます。
「SOURCE」を選ぶと、そのときメインゾーンで選ばれている機器の信号が出力されます。

3 **MASTER VOL＋/－で、適当な音量に調節します。**

音量の初期設定は最小（消音）になっています。
1-②と2の接続方法の場合は、マルチゾーンのアンプで音量を調節します。

IR REMOTE端子について

IR REMOTE端子に外部受光部（別売り）をつなぐことにより、本機の受光部を使わずに操作することができます。
リモコンが届かない場所に本機を設置した場合などにご使用ください。



ご注意

- 本機から外部受光部への電源供給は行いません。

ちょっと一言

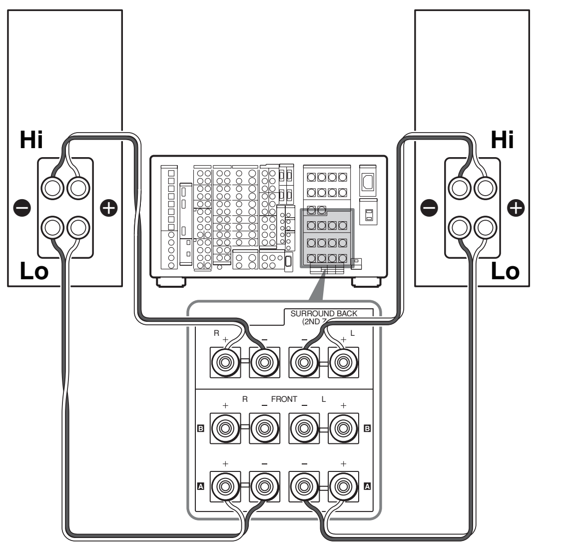
- メインゾーンの電源を切っても、マルチゾーン用電源は切れません。すべてのゾーン（本機）の電源を切るには、RM-AAE004 リモコンの I/⏻ と AV I/⏻（SYSTEM STAND BY）を同時に押してください。
- アナログ入力端子につないだ機器の信号だけが、2ND ZONE OUT 端子または 3RD ZONE OUT 端子から出力されます。デジタル入力端子のみにつないだ機器の信号は出力されません。
- 「SOURCE」が選ばれていると、MULTI CH IN が選択されていても MULTI CH IN 端子への入力信号は 2ND ZONE OUT 端子または 3RD ZONE OUT 端子には出力されません。そのとき選ばれている機器のアナログ音声信号が出力されます。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK SPEAKERS端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する

フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT SPEAKERS A端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK SPEAKERS端子につなぎます。
このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ず外してください。本機の故障の原因となります。



設定する

SPEAKER SET UPメニューの「SURR BACK SP」を「BI-AMP」に設定してください（62ページ）。
「BI-AMP」に設定することで、FRONT SPEAKERS A端子と同じ信号がSURR BACK端子からも出力されるようになります。

ソニー製機器を操作する

コントロールA1IIコントロールシステムについて

コントロールA1II（コントロールシステム）は、ソニー製のオーディオコンポ1台1台を1本のコードで接続し、コントロール信号を双方向でやりとりします。
各機器間の接続は一般的なモノラルミニプラグコード1本で簡単に行うことができます。CONTROL A1II端子を装備したソニー製のCDプレーヤー、アンプ（レシーバー）、カセット（MD）デッキでは、入力の自動切り換えが可能になります。

コントロールA1IIとコントロールA1との互換性

従来からのコントロールA1の機能をバージョンアップさせてソニー製の300枚CDチェンジャーなどに対応させた規格がコントロールA1II（コントロールシステム）です。
コントロールA1端子のある機器とコントロールA1II端子がある機器には互換性があり、混在してつなぐことが可能です。基本的に従来からのコントロールA1としての機能はほとんどコントロールA1IIでも対応しています。
ただし、コントロールA1端子のある機器とコントロールA1II端子がある機器をつないだ場合、一部の機能が機器によって制限される場合があります。詳しくは各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

COMMAND MODEセレクターのあるソニー製のCDチェンジャーをお持ちの場合は

お手持ちのCDチェンジャーのCOMMAND MODEセレクターがCD 1、CD 2、CD 3に設定できる場合、コマンドモードを「CD 1」に設定してから、本機のCD端子にCDチェンジャーをつないでください。
お手持ちのCDチェンジャーがビデオ出力端子を持っている場合、コマンドモードを「CD2」に設定し、本機のビデオ2端子にCDチェンジャーをつないでください。

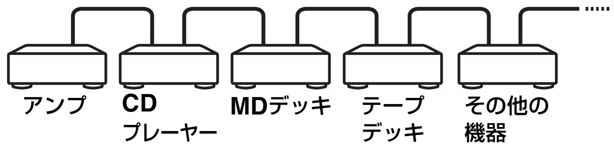
ご注意

- FRONT SPEAKERS B 端子を使ってバイアンプ接続することはできません。
- 自動音場補正機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーのレベル、バランス、EQ などの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- PRE OUT 端子から出力される信号はスピーカー端子と同じ設定になります。
- パソコン接続キット等を使用して CONTROL A1II 端子にパソコンをつなぎ、MD エディターなどのアプリケーションを動作させている場合は、アプリケーションで指示されている操作以外は行わないでください。アプリケーションが正常にはたらかない場合があります。

接続する

機器は合計10台まで、どんな順番でもつなぐことができます。ただし、アンプ、CDプレーヤーなど各機器は、1台ずつしかつなぐことができません。（CDプレーヤーの機種によっては、複数台をコントロールA1IIでつなぐことができます。詳しくはCDプレーヤーに付属の取扱説明書をご覧ください。）

接続例



コントロールA1はコントロール信号を双方向でやりとりしているため、CTRL A1II端子にはIN/OUTの区別がありません。したがって、CTRL A1II端子が2つある機器では、どちらの端子にコードをつないでもかまいません。また、それぞれの端子に違う機器をつなぐこともできます。つなぐ機器に接続コードが付属されている場合は付属のコードをお使いください。市販のコードをお買い求めの場合は、モノラル（2P）ミニプラグの接続コード（2メートル以下、抵抗なし）をお買い求めください。

基本機能

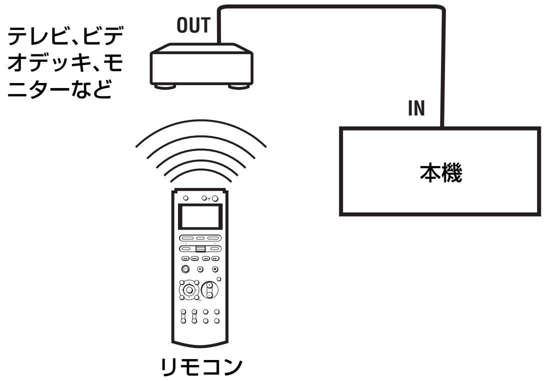
各機器の再生ボタンを押すだけで、本機の入力が自動的に再生する機器に切り換わります（オートファンクション）。
つないだすべての機器の電源が入っていなくても、動作させたい機器の電源のみが入っていれば、それらの機器間でコントロール A1IIの機能は働きます。

CONTROL Sを使って接続する

CONTROL S端子を装備したソニー製のテレビ、衛星放送チューナー、モニター、DVDプレーヤー、ビデオデッキなどをお持ちの場合は、CONTROL Sコード（別売り）を使ってつなぎます。CONTROL S IN端子（テレビ、衛星放送チューナー、モニター）と本機のCTRL S OUT端子、またはCONTROL S OUT端子（ビデオデッキなど）と本機のCTRL S IN端子をつなぎます。
詳しくはお手持ちの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

他機のCONTROL S OUT端子と本機のCTRL S IN端子を接続したときは

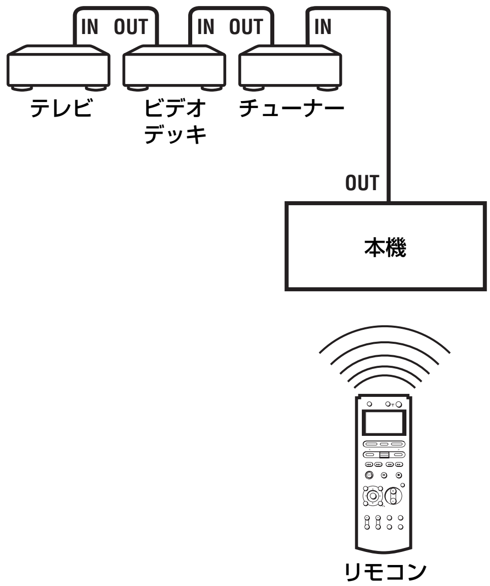
接続例



本機のリモコンをCONTROL S OUT端子を装備した機器に向けて操作できます。本機を棚などに設置したときに便利です。

他機のCONTROL S IN端子と本機のCTRL S OUT端子を接続したときは

接続例



CONTROL S IN端子を装備した機器のリモコンを本機に向けて操作できます。他機を本機からはなして設置したときに便利です。

ご注意

録音中に録音ソース以外の機器を再生しないでください。オートファンクションが働いてしまうことがあります。

リモコンメニュー一覧

（アンプ操作）

それぞれのリストの表示のしかたと使いかたについては、93ページからの説明をご覧ください。リストの中の項目によっては、＞ボタンを押すとSUBメニューが表示されるものもあります（95ページ）。

INPUT SELECTORを押す（93ページ）
- VIDEO 1
- VIDEO 2
- VIDEO 3
- VIDEO 4
- VIDEO 5
- LD
- DVD
- TV/SAT
- TAPE
- MD/DAT
- SA-CD/CD
- TUNER
- PHONO
- i.LINK
- HDMI 1
- HDMI 2
- MULTI CH IN
- USER1
- USER2
- MACRO1
- MACRO2
- 2ND ZONE
- 3RD ZONE

< を押す（AV AMPLIFIERメニュー）
- AUTO CAL
- TEST TONE
- SB DECODING
- NIGHT MODE
- DUAL MONO
- DIMMER
- INPUT MODE
- EQ
- SLEEP
- TRIGGER ON
- TRIGGER OFF

SOUND FIELDを押す（48､51ページ）
- サウンドフィールドリスト

RM SET UPを押す（98ページ）
- IR SET
  - IR SETリスト → Categoryリスト → Makerリスト
  - MACRO 1/2リスト → PROGRAMリスト → Categoryリスト
    - Common リスト
    - Buttonリスト
    - Makerリスト → Functionリスト
- LEARNING
  - LEARNINGリスト → Buttonリスト
- INPUT LIST
- AUTO POWER
  - TV INPUTリスト
- BACK LIGHT
- CONTRAST
- COMMAND MODE
- ALL CLEAR

使いたい機器を選ぶ

機器を選ぶときの基本操作

入力リストを表示して使う機器を選びます。

1 INPUT SELECTOR を押す。

入力リストが表示されます。表示される項目は、本体後面の端子名に対応しています。

```
 MD/DAT
→SA-CD/CD
 TUNER
 PHONO
```

2 イージースクロールキーでリストから機器を選び、押して決定する。

選んだ機器に関する情報が表示されます。

表示の例

```
 <SA-CD/CD>
    CD1
    Sony
```

1 行目：機器名（端子名）
2 行目：カテゴリー（操作する機器の種類）
3 行目：メーカー名

リモコンを設定して使う

ちょっと一言

- カテゴリーは変えることができます。本体後面の端子に実際につないでいる機器を操作するには、端子名と操作したい機器のカテゴリーを合わせておく必要があります。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（98 ページ）をご覧ください。
- 各機器の電源を自動的に入れることができます。入力リストで機器を選んだとき、選んだ機器の電源が自動的に入るように設定することができます。詳しくは、「オートパワー機能を使う」（105 ページ）をご覧ください。
- 使っていない入力をリストに表示させないようにすることができます（104 ページ）。

本機のリモコンで他機を操作する

お使いの機器に合わせて本機を設定すると、下表の●のついたボタンを使ってそれぞれの機器を操作できます。ただし、機器によってはボタンを押しても操作できないことがあります。

選ばれている機器 / ボタン	ビデオデッキ	テレビ	LD プレーヤー	DVD プレーヤー/レコーダー	ビデオCD プレーヤー	CD プレーヤー	MDデッキ	カセットデッキ（AとB）	DATデッキ	衛星放送チューナー	プロジェクター
AV I/⏻	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
▷	●		●	●	●	●	●	●	●		
II	●		●	●	●	●	●	●	●		
■	●		●	●	●	●	●	●	●		
⏮/⏭	●		●	●	●	●	●	●*	●		
◀◀/▶▶	●		●	●	●	●	●	●	●		
コントロールボタン	●			●						●	●
TOP MENU/GUIDE				●						●**	
AV MENU	●			●						●	●
DISPLAY	●	●	●	●	●	●	●			●	
EXIT										●**	
RETURN ↶			●	●	●						

＊デッキ B のみ
＊＊機器によっては操作できないものもあります。

SUBメニューの項目

＞ボタンを押すと、このリモコンには対応するボタンがない操作のリスト（SUBメニュー）が表示されます。リストの項目は、現在選ばれている機器によって異なります。リストに含まれる項目とそのはたらきは、下表の通りです。

機器	項目	はたらき
ビデオデッキ	CH +	プリセットチャンネルを選ぶ
	CH −	
	INPUT SELECT	ビデオデッキの入力モードを選ぶ
	AUDIO	音声を切り換える
	ANT TV/VIDEO	ビデオのアンテナ端子からの出力信号を選ぶ（テレビまたはビデオ信号）
	SP/LP	ビデオの録画/再生スピードを選ぶ
	REC	録音を始める
	COUNTER/REMAIN	再生/残り時間を表示する
テレビ	CH +	プリセットチャンネルを選ぶ
	CH −	
	MUTING	音を消す
	VOL +	ボリュームを上げる
	VOL −	ボリュームを下げる
	JUMP	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
	TV/VIDEO	テレビの入力モードを切り換える
	MPX/DUAL	音声の設定を切り換える
	WIDE	ワイド画面モードを選ぶ[a]
	P IN P	ピクチャーインピクチャー機能を使う[b]
	POSITION	小画面の位置を調節する[b]
	SWAP	大画面と小画面を入れ替える[b]
	SUB CH +	小画面のプリセット
	SUB CH −	チャンネルを選ぶ[b]
	SLEEP	スリープタイマーを働かせる
LD プレーヤー	SIDE A[c]	ディスクのA面を選ぶ
	SIDE B[c]	ディスクのB面を選ぶ
	PROGRAM	トラックをプログラムする
	REPEAT	再生中のトラックまたはプログラムされたトラックをリピート再生する
DVD プレーヤー / レコーダー	AUDIO	音声を切り換える
	ANGLE	アングルを切り換える
	SUBTITLE	字幕の言語を切り換える
	SUBTITLE ON OFF	字幕を表示させる/消す
	TIME	時間情報を切り換える
	SEARCH MODE	サーチモードを切り換える
	CLEAR	通常再生に戻すときなどに使う
	INDEX +	インデックスを選ぶ
	INDEX −	
	DISC SKIP +	ディスクを選ぶ
	DISC SKIP −	
	SET UP	セットアップメニューを表示させる
ビデオCD プレーヤー	DISC SKIP +	ディスクを選ぶ
	DISC SKIP −	
	TIME	時間情報を切り換える
	INDEX +	インデックスを選ぶ
	INDEX −	
	DISC	ディスクを選ぶ
CDプレーヤー	DISC	ディスクを選ぶ[d]
	TRACK	トラックを選ぶ
	CONTINUE	通常再生を選ぶ
	SHUFFLE	シャッフル再生を選ぶ
	PROGRAM	プログラム再生を選ぶ
	REPEAT	リピート再生を選ぶ
	TIME	時間情報を切り換える
	DISC SKIP +	ディスクを選ぶ[d]
	DISC SKIP −	

a) ワイド画面対応のソニー製テレビのみ
b) ピクチャーインピクチャー機能がついたソニー製テレビのみ
c) 他社製 LD プレーヤーの場合は、「DISC A/B」と表示されます。
d) ソニー製 CD チェンジャーのみ

つづく

機器	項目	はたらき
MD デッキ	DISC SKIP + DISC SKIP −	ディスクを選ぶ
	TIME	時間情報を切り換える
	CONTINUE	通常再生を選ぶ
	SHUFFLE	シャッフル再生を選ぶ
	PROGRAM	プログラム再生を選ぶ
	REPEAT	リピート再生を選ぶ
	MENU/NO	編集操作を選ぶまたは編集をキャンセルする
	YES	編集を行う
	CLEAR	プログラムから曲を消す、などに使う
	REC	録音待機状態にする
カセットデッキ	REVERSE PLAY	テープデッキの反対面を再生する
	A-REC	Aデッキを録音待機状態にする
	B-REC	Bデッキを録音待機状態にする
	PROGRAM/START	プログラム再生を選ぶ
DATデッキ	REPEAT	リピート再生を選ぶ
	CLEAR	プログラムから曲を消す、などに使う
	REC	トラックをプログラムする
チューナー	PRESET + PRESET −	登録した放送局を選ぶ
	DIRECT TUNING	放送局を手動受信する
	FM/AM	FMまたはAMバンドを切り換える
	SHIFT	メモリーページを切り換える
ソニー製BS チューナー (Sony BST)	CH + CH −	プリセットチャンネルを選ぶ
	-/--	11番目よりあとのチャンネルを選ぶ
	MAIN/SUB	主音声と副音声を切り換える
	TV/RADIO	テレビまたはラジオの入力を切り換える

機器	項目	はたらき
ソニー製 デジタルCS チューナー (Sony D.CS)	CH + CH −	プリセットチャンネルを選ぶ
	SAT CHANGE	衛星を切り換える
	JUMP	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
	CH-A	ダイレクト選局　A
	CH-B	ダイレクト選局　B
	CH-C	ダイレクト選局　C
	CH-D	ダイレクト選局　D
	RADIO	デジタルラジオ放送に切り換える
	EZ PANEL	EZパネルを表示する
	PRG INFO	番組説明を表示する
	FAVORITE	好み一覧を表示する
	EPG	現在番組表を表示する
	EPG (WEEK)	週間番組表を表示する
	DATE	日付を表示する
	GENRE	ジャンルを選ぶ
	BILINGUAL	二重音声を選ぶ
	PROMO	プロモ画面にする
	STILL	スチル画面にする
	SIGNAL SEL	信号を切り換える
ソニー製 BS デジタル チューナー (Sony BSD)	CH + CH −	プリセットチャンネルを選ぶ
	---	11番目よりあとのチャンネルを選ぶ
	JUMP	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
	EPG	番組表を表示する
	BILINGUAL	二重音声を選ぶ
	RADIO/DATA	ラジオ/データを選ぶ
	PRG INFO	番組説明を表示する
	SUBTITLE	字幕を表示する
	ANGLE	アングルを切り換える
	RETURN	戻る
	d	BSデータを見る
	BLUE	カラーボタン(青)
	RED	カラーボタン(赤)
	GREEN	カラーボタン(緑)
	YELLOW	カラーボタン(黄)

機器	項目	はたらき
プロジェクター	POWER ON	プロジェクターの電源を入れる
	POWER OFF	プロジェクターの電源を切る
	INPUT A	INPUT A端子からの入力に切り換える
	INPUT B	INPUT B端子からの入力に切り換える
	INPUT VIDEO	VIDEO端子からの入力に切り換える
	INPUT SELECT	VIDEO INまたは S VIDEO IN端子からの入力に切り換える
	MEMORY	調節したデータを登録する
	BRIGHT +	明るさを調節する
	BRIGHT −	
	CONTRAST +	コントラストを調節する
	CONTRAST −	
	ZOOM +	画像のズームを調節する
	ZOOM −	
	SHIFT +	画像のレンズシフトを調節する
	SHIFT −	
	FOCUS +	画像のフォーカスを調節する
	FOCUS −	

ご注意

他社製の機器を操作できるように設定したときは（98 ページ）
- 機器を選んで＞ボタンを押しても、上記すべての項目が表示されない場合があります。
- 表示された項目を選んでも動作しない場合があります。

ちょっと一言

- DVD プレーヤー / レコーダーや衛星放送チューナーのメニュー操作をするときは、以下の操作を行ってください。
  1 入力リストから DVD プレーヤーを選ぶ。
  2 ＞ボタンをくり返し押して、SUB メニューを表示させる。

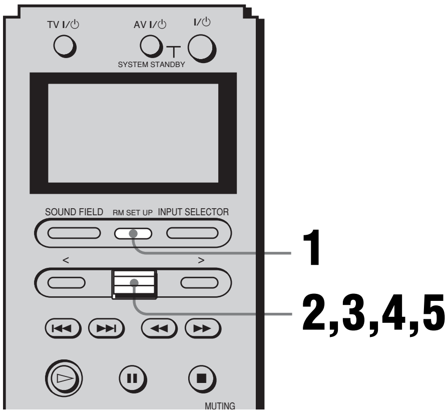
表示させるメニュー	操作
TOP MENU	TOP MENUを押す
DVD MENU	AV MENUを押す
SET UP	SUBメニューから「SET UP」を選ぶ

  3 コントロールボタンを使って、メニュー操作をする。CURSOR TYPE（カーソルタイプ）リストから「DVD」が選ばれているか確認してください。

  メニュー操作をやめるには、RETURN ↩/EXIT を押します。DVD メニューを表示させたいときは、AV MENU を押します。
- SUB1 から SUB5 には任意のコードを学習させることができます。学習させたコードを送信時に選択します。学習機能については「本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる」（102 ページ）をご覧ください。

お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する

このリモコンで、他社製のCDプレーヤーやMDデッキなどの機器を操作するように設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器も操作できます。
このリモコンで操作できるのは、赤外線コントロールを受け付ける機器のみです。
例：本体後面のVIDEO 2端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき
以下の操作をするときは、本機の電源を入れ、リモコンをリモコン受光部に向けてください。



1 RM SET UP を押す。

セットアップリストが表示されます。

```
→IR SET
 LEARNING
 INPUT LIST
 AUTO POWER
```

2 イージースクロールキーでセットアップリストから「IR SET」を選び、押して決定する。

IR SETリストが表示されます。

```
<IR SET>
 VIDEO 1
→VIDEO 2
 VIDEO 3
```

3 イージースクロールキーで IR SET リストから設定を変えたい入力名（＝本体後面の端子名）（例：VIDEO 2）を選び、押して決定する。

Category（カテゴリー）リストが表示されます。

```
Category?
→VCR
 T V
 L D
```

4 イージースクロールキーで Category（カテゴリー）リストからカテゴリー（手順 3 で選んだ端子に実際に接続されている機器。この例では「VCR」）を選び、押して決定する。

Maker（メーカー）リストが表示されます。

```
Maker?
→Sony VTR1
 Sony VTR2
 Sony VTR3
```

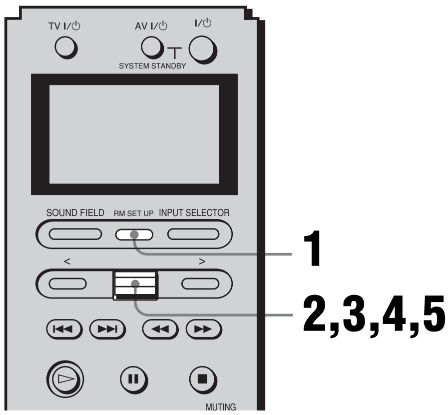
5 イージースクロールキーで Maker（メーカー）リストからメーカー名を選び、押して決定する。

ソニー製機器を操作したいときは

Maker（メーカー）リストから「Sony」を選びます。

設定の操作が完了します。

テレビ操作用ボタンの設定を変える



1 RM SET UP を押す。

セットアップリストが表示されます。

```
→IR SET
 LEARNING
 INPUT LIST
 AUTO POWER
```

2 イージースクロールキーでセットアップリストから「IR SET」を選び、押して決定する。

IR SETリストが表示されます。

```
<IR SET>
 USER2
→TV_KEY
 MACRO1
```

3 イージースクロールキーで IR SET リストから「TV_KEY」を選び、押して決定する。

Category（カテゴリー）リストが表示されます。

```
Category?
→T V
 Exit
```

4 イージースクロールキーで Category（カテゴリー）リストから「TV」を選び、押して決定する。

Maker（メーカー）リストが表示されます。

```
Maker?
→Sony
 Admiral     -1
 Admiral     -2
```

5 イージースクロールキーで Maker（メーカー）リストからメーカー名を選び、押して決定する。

ソニー製機器を操作したいときは

Maker（メーカー）リストから「Sony」を選びます。

設定の操作が完了します。

プログラム操作を途中でやめるときは

手順の途中でイージースクロールキーで「Exit」または「Cancel」を選び、押して決定します。

ちょっと一言

- IR SET リストの USER1 と USER2 にはお好きな機器を割り当てることができます
  1 「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」の手順 1 と 2 を行う。
  2 イージースクロールキーで IR SET リストから「USER1」または「USER2」を選び、押して決定する。
  3 「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」の手順 3 以降を行ってカテゴリーとメーカー名を設定する。

ご注意

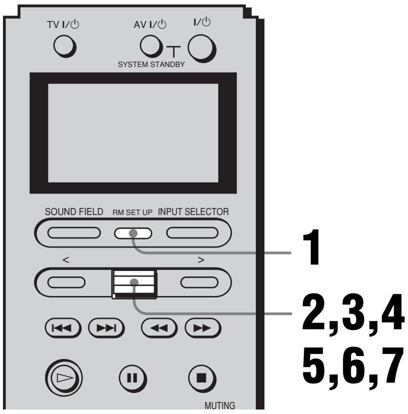
学習させたボタンのある入力に IR SET をしなおしたときには、学習させた内容は消えます。またこのボタンをマクロで使用しているときは、マクロの設定も消去されて NO SET に変わります。

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

マクロ機能を使って、いくつかのリモコンコードをまとめて連続送信できます。
マクロ操作は、2つ登録することができます（MACRO1、2）。1つのマクロ操作には、16個までリモコンコードを登録することができます。

リモコンコードの順番を設定する



1 RM SET UP を押す。

セットアップリストが表示されます。

```
→IR SET
 LEARNING
 INPUT LIST
 AUTO POWER
```

2 イージースクロールキーでセットアップリストから「IR SET」を選び、押して決定する。

IR SETリスト が表示されます。

```
<IR SET>
→MACRO1
 MACRO2
 Exit
```

3 イージースクロールキーで IR SET リストから「MACRO1」または「MACRO2」を選び、押して決定する。

プログラム番号リストが表示されます。

```
<MACRO1>
→ 1-NO SET
  2-NO SET
  3-NO SET
```

4 イージースクロールキーでプログラム番号リストからマクロ機能での順番（例：「1-NO SET」）を選び、押して決定する。

Category（カテゴリー）リストが表示されます。

```
Category?
→Common
 Button
 VCR
```

5 イージースクロールキーで Category（カテゴリー）リストから操作する機器のカテゴリー（例：「VCR」）を選び、押して決定する。

Maker（メーカー）リストが表示されます。

```
Maker?
→Sony VTR1
 Sony VTR2
 Sony VTR3
```

6 イージースクロールキーで Maker（メーカー）リストからメーカー名を選び、押して決定する。

Function（操作）リストが表示されます。

```
Function?
→*POWER
 *PREVIOUS
 *NEXT
```

7 イージースクロールキーでFunction（操作）リストから行いたい操作のリモコンコードを選び、押して決定する。

リモコンコードが登録され、プログラム番号リストが表示されます。

```
<MACRO1>
→ 1-POWER
  2-NO SET
  3-NO SET
```

8 手順４から７をくり返して最大16個までリモコンコードを設定する

リモコンコードを設定し終わったら、手順7で「Exit」を選びます。

学習させたコードをマクロ機能で使うには

1 手順５で、イージースクロールキーで「Button」を選び、押して決定する。

2 イージースクロールキーで学習させたボタンを選び、押して決定する。ボタンを選ぶときには、リストをスクロールするかわりに直接ボタンを押すと、該当するボタンにリストがジャンプする。イージースクロールキーを押して決定する。

テレビ操作用ボタンをマクロ機能で使うには

1 手順５で、イージースクロールキーで「Button」を選び、押して決定する。

2 イージースクロールキーで「TV_KEY」を選び、押して決定する。

3 イージースクロールキーで、使いたいテレビ操作用ボタンを選び、押して決定する。

リモコンコードを出力する時間を遅らせるには

1 手順５で、イージースクロールキーで「Common」を選び、押して決定する。

2 イージースクロールキーで「WAIT TIME」を選び、押して決定する。

3 イージースクロールキーで、リモコンコードを出力する前の待機時間を選び、押して決定する。1秒から10秒の間で待機時間を設定することができます（1秒単位）。

設定したリモコンコードを消すときには

1 手順５で、イージースクロールキーで「Common」を選び、押して決定する。

2 イージースクロールキーで「NO SET」を選び、押して決定する。

すべてのソニー製機器の電源を切るには（SYSTEM STANDBY）

1 手順５で、イージースクロールキーで「Common」を選び、押して決定する。

2 イージースクロールキーで「ALL OFF」を選び、押して決定する。ただし、ソニー製機器によっては働かない場合があります。

プログラムを途中でやめるときには

手順の途中でイージースクロールキーで「Exit」または「Cancel」を選び、押して決定します。

マクロ機能を使う

1 INPUT SELECTOR を押す。

FUNCTIONリストが表示されます。

```
 USER1
 USER2
→MACRO1
 MACRO2
```

2 イージースクロールキーで入力リストから「MACRO1」または「MACRO2」を選び、押して決定する。

プログラムされたリモコンコードが順番に表示され、送信されます。

ちょっと一言

- 手順７でリスト名の前に「*」または「■」が表示されていないものは、リモコンコードが登録されていないので、マクロ登録できません。
- 手順４と７で「NO SET」が表示されているプログラム番号は、マクロ登録されていないことを示しています。
- 手順５で「Button」を選んだ場合、次のようになります。
  - 手順７のリスト名の前に「■」表示があるものは、学習済みのボタンです。
  - 手順７のリストを選んでから、<または>ボタンを押すと、そのリストに登録されているリモコンコードを送信し、動作確認できます。

ご注意

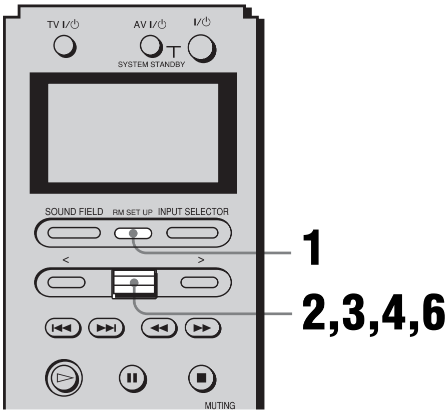
- 学習させたボタンをマクロ機能で使用したとき、学習させたボタンがある入力に IR SET を行うと、学習した内容が消えます。このため、マクロで使用したボタンの設定も消去されて、「NO SET」に変わります。
- マクロ操作中に以下のボタンを押すと、マクロ操作は途中でキャンセルされます。
  - AV I/⏻
  - I/⏻
  - SYSTEM STANDBY
  - SOUND FIELD
  - INPUT SELECTOR
  - RM SET UP
- マクロ機能がうまく働かないときは、働かなかった操作の前に「WAIT TIME」を設定すると、うまく働くことがあります。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、学習させた操作を行うことができます。

付属のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、付属のリモコンにもともと入っていないリモコンコードを学習させることができます。



1 RM SET UP を押す。

セットアップリストが表示されます。

```
→IR SET
 LEARNING
 INPUT LIST
 AUTO POWER
```

2 イージースクロールキーでセットアップリストから「LEARNING」を選び、押して決定する。

入力リストが表示されます。

```
<LEARNING>
 VIDEO 1
→VIDEO 2
 VIDEO 3
```

3 イージースクロールキーで入力リストから学習させたい入力を選び、押して決定する。

ボタンリストが表示されます。

```
Button[VIDEO 2 ]
→*POWER
 *PREVIOUS
 *NEXT
```

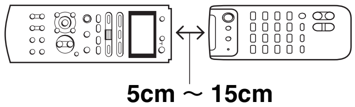
4 イージースクロールキーで、ボタンリストから学習させたいボタンを選び、押して決定する。

学習機能を設定する画面が表示されます。

```
VIDEO 2
*(POWER)
→Learning Start
 Exit
```

1行目：入力名
2行目：ボタン名

5 リモコンのリモコンコード受光部と学習させる機器のリモコンの受信 / 送信部とを向かい合わせる。



6 イージースクロールキーで「Learning Start」を選び、押して決定する。

「Learning Now!!」が表示されます。

7 学習させたいリモコンのボタンを押し、リモコンコードを送信する。

軽く1回押せばリモコンコードは送信されます。3秒から5秒たつと正しく学習したかどうかが表示されます。
正しく学習すると、「Learning OK!」、学習中のボタンの数と容量が表示されます。

```
VIDEO 2
■(POWER)
 Learning OK!
 (15/80   20%)
```

正しく学習されなかったときは、その原因が3行目に表示されます。

```
Learning NG!
  (REVERSE)
  FULL (keys)
→ Exit
```

FULL（Keys）：収納ボタン不足
FULL（memory）：記憶容量不足
ERROR：その他
イージースクロールキーで手順3に戻り、操作をくり返します。

学習機能を途中でやめるときは

手順の途中でイージースクロールキーで、「Exit」または「Cancel」を選び、押して決定します。

学習したリモコンコードを消すときは

1 手順6で、イージースクロールキーで「CLEAR」を選び、押して決定する。「ALL CLEAR?」と表示されます。

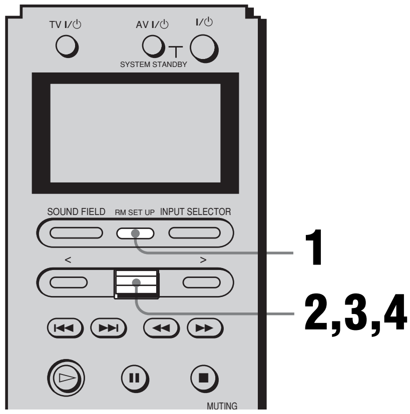
2 イージースクロールキーで「Yes」を選び、押して決定する。「CLEAR OK?」と表示されます。

3 イージースクロールキーでもう一度「Yes」を選び、押して決定する。

学習させたコマンドを使うには

学習させた入力を選んでいるときに、学習させたボタンを押します。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す



1 **RM SET UP を押す。**

セットアップリストが表示されます。

```
 BACK LIGHT
 CONTRAST
 COMMAND MODE
→ALL CLEAR
```

2 **イージースクロールキーでセットアップリストから「ALL CLEAR?」を選び、押して決定する。**

ALL CLEAR?（オールクリア）リストが表示されます。

```
<ALL CLEAR?>
 Yes
→No
```

3 **イージースクロールキーで ALL CLEAR?（オールクリア）リストから「Yes」を選び、押して決定する。**

「CLEAR OK?!」と表示されます。

ちょっと一言

- ボタン名の前についている記号は、次を意味します。
  ■：すでに学習済みのもの
  ⁎：あらかじめ登録されているもの
- 手順4で、学習させたいボタンを直接選ぶことができます。直接学習させたいボタンを押すと、該当するボタンにリストがジャンプします。
- SUB メニューにも学習機能が使えます。SUB1 から SUB5 に学習させることができます。
- SUB1 ～ 5 に名前を付けることができます
  1 手順6で、イージースクロールキーで「Name」を選び、押して決定する。
  2 イージースクロールキーで文字を選び、押して決定する（8文字まで）。
  +/－：文字を選ぶ
  </>：カーソルを動かす
  Insert：スペースを入れる
  Delete：文字を消す

ご注意

- 学習させられるボタンは最大 80 個までです。80 個まで登録していなくてもそれ以上登録できない場合もあります。
- 学習させたボタンをマクロ機能で使用している場合に、このボタンの入力に IR SET しなおすとマクロの設定は消去されて工場出荷時のコードに戻ります。

つづく

```
<CLEAR OK?!>
 Yes
→No
```

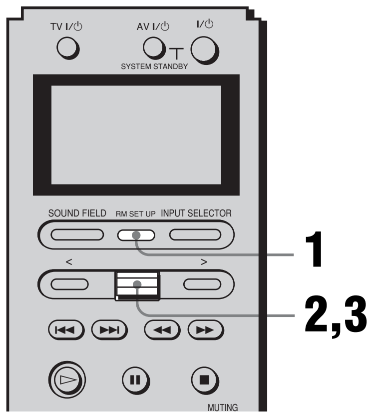
4 **イージースクロールキーでもう 1 度「Yes」を選び、押して決定する。**

リモコンのメモリーの内容（設定/登録したすべてのデータなど）がクリアされます。

その他の操作

入力リストの表示/非表示を設定する

入力リストで表示される入力表示を消したり、再び表示したりできます。



1 **RM SET UP を押す。**

セットアップリストが表示されます。

```
 IR SET
 LEARNING
→INPUT LIST
 AUTO POWER
```

2 **イージースクロールキーでセットアップリストから「INPUT LIST」を選び、押して決定する。**

INPUT LIST（入力リスト）が表示されます。前に「*」が表示されている入力は、入力リストで表示されています。

```
<INPUT LIST>
→*VIDEO 1
 *VIDEO 2
 *VIDEO 3
```

3 **イージースクロールキーで INPUT LIST（入力リスト）から、入力リストに表示させない入力を選び、押して決定する。**

選んだ入力の前に表示されている「*」が消えます。

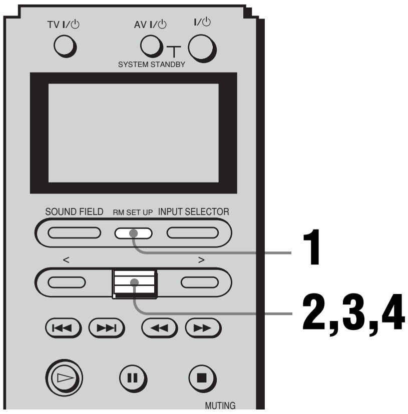
```
<INPUT LIST>
→ VIDEO 1
 *VIDEO 2
 *VIDEO 3
```

入力リストに表示されていない入力を表示させるには

手順3で、「*」が表示されるまでイージースクロールキーを押します。

オートパワー機能を使う

オートパワー機能をオンにしておくと、映像系の入力を選んだとき、使用するソニー製オーディオ/ビデオ機器とテレビの電源が自動的に入り、テレビの入力は選んだ入力に切り換わります。
この機能はソニー製機器にのみ働きます。



1 **RM SET UP を押す。**

セットアップリストが表示されます。

```
 IR SET
 LEARNING
 INPUT LIST
→AUTO POWER
```

2 **イージースクロールキーでセットアップリストから「AUTO POWER」を選び、押して決定する。**

AUTO POWER（オートパワー）リストが表示されます。

```
<AUTO POWER>
→On
 Off
```

3 **イージースクロールキーで AUTO POWER（オートパワー）リストから「On」または「Off」を選び、押して決定する。**

「On」を選ぶと、TV INPUT（テレビのビデオ入力）リストが表示されます。

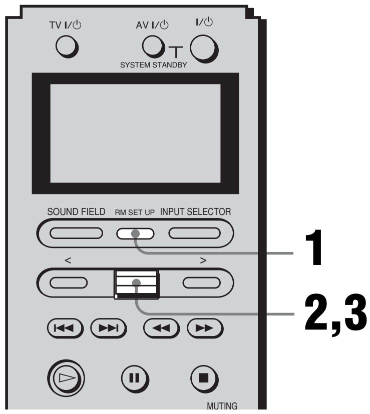
```
<TV INPUT>
→TV-VIDEO1
 TV-VIDEO2
 TV-VIDEO3
```

4 **イージースクロールキーでテレビのビデオ入力を選び、押して決定する。**

コンポーネントビデオ入力を選ぶときは、TV-COMPO1または2を選びます。

バックライトを入/切する

リモコンのボタンを押すたびに、バックライトが点灯して表示窓が明るくなります。下記の設定を行ってバックライトを消すと、電池が長持ちします。



1 **RM SET UP を押す。**

セットアップリストが表示されます。

```
 LEARNING
 INPUT LIST
 AUTO POWER
→BACK LIGHT
```

2 **イージースクロールキーでセットアップリストから「BACK LIGHT」を選び、押して決定する。**

BACK LIGHT（バックライト）リストが表示されます。

```
<BACK LIGHT>
→On
 Off
```

3 **イージースクロールキーで BACK LIGHT（バックライト）リストから「On」または「Off」を選び、押して決定する。**

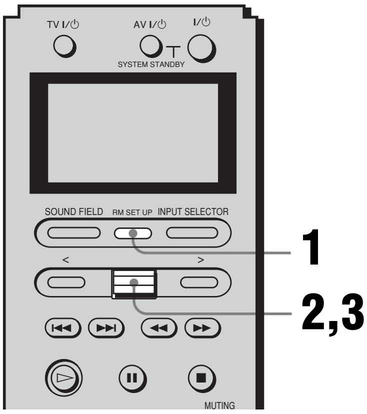
ご注意

- テレビによっては電源が入った直後に VIDEO1 ～ 6 入力へ自動的に切り換わらないことがあります。これは機器によっては電源が入った直後にはしばらくリモコンコードを受けつけないものがあるためです。
- 手順 3 で「(Off)」を選ぶと、テレビのビデオ入力は切り換わりません。

つづく

表示窓のコントラストを調節する

表示窓のコントラストを調節できます。



1 RM SET UP を押す。

セットアップリストが表示されます。

```
 INPUT LIST
 AUTO POWER
 BACK LIGHT
→CONTRAST
```

2 イージースクロールキーでセットアップリストから「CONTRAST」を選び、押して決定する。

```
<CONTRAST>
→+
 −
████████□□□□□□□□
```

3 イージースクロールキーで「+」または「−」を選び、押して決定する。

イージースクロールキーを押すたびにコントラストが変わります。コントラストの調節を途中でやめるときはイージースクロールキーで「Exit」を選び、押して決定します。

ちょっと一言

リモコンの表示が消えているとき、SOUND FIELD または INPUT SELECTOR を押すと、現在のコマンドモードが 1 行目に表示されます。

メニュー一覧

メニューを使ってさまざまな設定をすることができます。メニューはMAIN MENUを押すと表示されます。

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
LEVEL	TEST TONE [■■■]	OFF、AUTO、FIX	OFF	58～59ページ
	PHASE NOISE [■■■■■■■]*	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF	
	PHASE AUDIO [■■■■■■■]*	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF	
	FRONT L---- ----R	8.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	CENTER [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-A L [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-A R [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-B L [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-B R [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURR BACK [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURR BACK L [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURR BACK R [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SUB WOOFER [■■■.■ dB]	−20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	MULTI CH 1 SW [■■■■■]	0dB、+10.0dB	0dB	
	MULTI CH 2 SW [■■■■■]	0dB、+10.0dB	0dB	
	D. RANGE COMP.* [■■■]	OFF、STD、MAX	OFF	
SURROUND SET UP	C.WIDTH L----C----R*	8ステップ	3	57ページ
	DIMENSION F------S*	7ステップ	Center	
	PANORAMA MODE [_ _ _]*	OFF、ON	OFF	
	EFFECT LEVEL _ _ _%	20%～120%（5%単位）	100%	
	FRONT REVERB [■■■■]*	WET/STD	STD	
	SCREEN DEPTH [■■■]*	ON、OFF	ON	
	VIR. SPEAKERS [■■■]*	ON、OFF	ON	
	A. F. D. 2CH SW [■■■■■■]*	CREATE、OFF	OFF	
EQUALIZER	EQ PRESET [■■■]	1、2、3、4、5、OFF	1	68ページ
	FRONT BASS [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	FRONT BASS [■■■ Hz]	250Hz、500Hz	500Hz	
	FRONT TREBLE [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	FRONT TREBLE [■■■ Hz]	2.2kHz、4.3kHz	2.2kHz	
	CENTER BASS [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER BASS [■■■ Hz]	250Hz、500Hz	500Hz	
	CENTER MID [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER MID [■■■ Hz]	100Hz、300Hz、1.0kHz、3.0kHz、10kHz	1.0kHz	
	CENTER TREBLE [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER TREBLE [■■■ Hz]	2.2kHz、4.3kHz	2.2kHz	
	SURR/SB BASS [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	SURR/SB BASS [■■■ Hz]	250Hz、500Hz	500Hz	
	SURR/SB TRE. [■■■ dB]	−10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB	
	SURR/SB TRE. [■■■ Hz]	2.2kHz、4.3kHz	2.2kHz	
	PRESET ■ CLEAR [■■■]	YES、NO	NO	

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
AUTO CALIBRATION	AUTO CAL START?			42、67ページ
	CAL TYPE [■■■■■■■■■■]	ENGINEER、FULL FLAT、FRONT REF	FULL FLAT	
	SPEAKER CAL [■■■]	YES、NO	YES	
	LEVEL CAL [■■■]	YES、NO	YES	
	EQ CURVE EFFECT [■■■]	OFF、ON	OFF	
	EQ CURVE INFORMATION FL/FR/C/SL-A/SR-A/SL-B/SR-B/SB/SBL/SBR	20Hz、25Hz、31.5Hz、40Hz、50Hz、63Hz、80Hz、100Hz、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、315Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1kHz、1.25kHz、1.6kHz、2kHz、2.5kHz、3.15kHz、4kHz、5kHz、6.3kHz、8kHz、10kHz、12.5kHz、16kHz、20kHz －9.0～＋9.0dB（0.5 dB単位）		
	AUTO CAL [■■■■■■■■]	ALL OFF、ON	ALL OFF	
SPEAKER SET UP	SUB WOOFER [■■■]	MIX、NO、YES	YES	61～63ページ
	FRONT SP [■■■■■]	SMALL、LARGE	LARGE	
	CENTER SP [■■■■■]	MIX、NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURROUND SP-A [■■■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURROUND SP-B [■■■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURR BACK SP [■■■■■■]	BI-AMP、2ND ZONE、NO、SINGLE、DUAL	DUAL	
	FRONT L FRONT R CENTER SURROUND-A L SURROUND-A R SURROUND-B L SURROUND-B R SURR BACK L SURR BACK R SUB WOOFER ■.■■meter（自動音場補正機能で測定後は■m■cm）	1.0m～7.0m（0.1m単位、自動音場補正機能で測定後は1cm単位）	3.0m	
	DISTANCE UNIT [■■■■■]*	meter、feet	meter	64ページ
	SP-A POSI [■■■■■■■■■■]*	SIDE/LOW、SIDE/HIGH、BEHD/LOW、BEHD/HIGH	SIDE/LOW	
	SP-B POSI [■■■■■■■■■■]*	SIDE/LOW、SIDE/HIGH、BEHD/LOW、BEHD/HIGH	SIDE/LOW	
	SP CROSSOVER > ■■■Hz*	40Hz～200Hz（10Hz単位）	100Hz	
CUSTOMIZE	MENU EXPAND [■■■]	OFF、ON	OFF	79～81ページ
	SB DECODING [■■■■]	OFF、ON、AUTO	AUTO	
	SB DEC MODE [■■■■■■■■]	DDEX、PLIIx MV、PLIIx MS	PLIIx MV	
	DEC. PRIORITY [■■■■]	PCM、AUTO	AUTO	
	DUAL MONO [■■■■■■■■■]	MAIN/SUB、MAIN、SUB、MAIN＋SUB	MAIN	
	A/V SYNC [■■■ms]	0ms～200ms、	0ms	
	MULTI IN 5.1 → 7.1 [■■■]	YES、NO	YES	
	DC P. LINEARIZER [■■■■■■]	OFF、LOW－A、STD－A、HIGH－A、LOW－B、STD－B、HIGH－B	STD－A	
	i. POWER [■■■■■■■■]	AUTO、EVER ON	AUTO	
	H. A. T. S. [■■■]	OFF、ON	ON	
	i. LINK VIDEO ASSIGN	NONE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、VIDEO 5、LD、DVD、TV/SAT、HDMI 1、HDMI 2	NONE	

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
	DIGITAL ASSIGN?			
	VIDEO1 COAX VIDEO1 OPT	VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	VIDEO1	
	VIDEO5 OPT	VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、TAPE、TUNER	VIDEO5	
	DVD COAX	DVD、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	DVD	
	DVD OPT	DVD、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	DVD	
	LD OPT	LD、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	LD	
	TV/SAT COAX	TV/SAT、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	TV/SAT	
	TV/SAT OPT	TV/SAT、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	TV/SAT	
	MD/DAT COAX	MD/DAT、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	MD/DAT	
	MD/DAT OPT	MD/DAT、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	MD/DAT	
	SA-CD COAX	SA-CD、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	SA-CD	
	SA-CD OPT	SA-CD、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、TAPE、TUNER	SA-CD	
	COMP/D-VIDEO ASSIGN?			
	VIDEO1	NONE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	VIDEO1	
	DVD	NONE、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、DVD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	DVD	
	TV/SAT	NONE、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO4、VIDEO5、LD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	TV/SAT	
	HDMI VIDEO ASSIGN?			
	HDMI 1	NONE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	NONE	
	HDMI 2	NONE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、LD、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	NONE	
	HDMI AUDIO [■■■■■■■]	TV+AMP、AMP	AMP	
	HDMI POWER [■■■■■■■■]	AUTO、EVER ON	AUTO	
	VIDEO CONVERT [■■■]	OFF、ON	ON	
	PROGRESSIVE OUT [■■■]	OFF、ON	OFF	
	VIDEO BRIGHTNESS [■■]	1、2、3、· 4、5、6、7	· 4	
	VIDEO COLOR [■■]	1、2、3、· 4、5、6、7	· 4	
	VIDEO HUE [■■]	1、2、3、· 4、5、6、7	· 4	
	REC OUT [■■■■■■■■■■■■]	MAIN SOURCE、2ND SOURCE	MAIN SOURCE	
	OSD H. POSITION [■■]	0~64（1.0単位）	4	
	OSD V. POSITION [■■]	0~32（1.0単位）	4	
	DIMMER	0%、60%、100%	0%	

その他

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
	USER PRESET MEM. ? [■]	1、2、3	1	
	NAME IN? [■■■■■■■■]			
CIS	2ND ZONE [■■■■■■■■]	SOURCE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	SOURCE	85、86ページ
	3RD ZONE [■■■■■■■■]	SOURCE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、VIDEO4、VIDEO5、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	SOURCE	
	INSTALLER MODE [■■■]	OFF、ON	OFF	
	12V TRIG. MAIN [■■■]	OFF、CTRL、ZONE、INPUT	OFF	
	12V TRIG. 2ND [■■■]	OFF、ZONE、CTRL、MAIN	OFF	
	12V TRIG. 3RD [■■■]	OFF、ZONE、CTRL、MAIN	OFF	
	12V TRIG. EX1 [■■■]	OFF、CTRL、MAIN	OFF	
	12V TRIG. EX2 [■■■]	OFF、CTRL、MAIN	OFF	
STREAM INFO	STREAM=■■■■■■■■■■■■■■			83ページ

＊この項目は、CUSTOMIZE メニューで、「MENU EXPAND」が「ON」に設定されている場合のみ表示されます。

用語集

■AAC

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現できます。

■A.F.D.（Auto Format Direct）

入力された音声信号を自動的に判別し、適切な処理を行うことです。録音またはエンコードされたままの音を、残響などの効果を加えずに再現します。

■A/V SYNC

映像と音声がずれるときに、この機能を使って音声を遅らせ、映像と音声が合うように補正します。

■Component（コンポーネント）映像

映像信号を輝度Yと色差 Pb、Pr の3系統に分けて伝送する映像端子です。DVDビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

■Composite（コンポジット）映像

映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度Yと色Cを1つにまとめて伝送します。

■Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。その1つである5.1チャンネルドルビーチャンネルはフロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーで構成され、DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

■Dolby Digital Surround EX

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。サラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に6.1chで出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

■Dolby Pro Logic II

2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードの2種類があります。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

■Dolby Pro Logic IIx

7.1ch（または6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンドEX作品に加え、通常の5.1chドルビーデジタル作品を7.1ch（または6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも7.1ch（または6.1ch）で再生できます。

■Dolby Surround (Dolby Pro Logic)

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。DVDビデオでは最も一般的な音声処理方法です。

■DSD（Direct Stream Digital）

スーパーオーディオCDに採用されているフォーマット方式です。アナログの音楽信号をデジタルに変換した後、加工せずにそのまま記録します。加工段階での情報欠落がなく、原音に近い高音質の録音・再生を実現します。

■DTS 96/24

高音質再生フォーマットです。DVDビデオでは最高の、サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビットで音を記録します。ソフトにより、再生チャンネル数は異なります。

■DTS Neo: 6

2chステレオで記録された音声を6.1chに変換して再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

■DTSサラウンド

Digital Theater Systems社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■DTS-ES

サラウンドバックを加えた6.1ch方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート6.1」と、ドルビーサラウンドEXと同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス6.1」の2種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

■Dynamic Range

音声信号の再現能力を示した数値です。最小値（小さい音）と最大値（大きい音）の差を指し、単位はdB（デシベル）で表示します。この数値が大きいほど、小さい音から大きい音まで再現できます。

つづく

■D映像信号

D端子付きテレビと1本のケーブルで簡単にコンポーネント映像信号を接続できるため、より高画質な画像となります。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3、D4端子があります。

- D1端子：525i（480i）の信号
- D2端子：525i（480i）と525p（480p）の信号
- D3端子：525i（480i）と525p（480p）と1125i（1080i）の信号
- D4端子：525i（480i）と525p（480p）と1125i（1080i）と750p（720p）の信号

＊i はインターレース、p はプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

■HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できます。
デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応しています。

■i.LINK

パソコンと周辺機器を結ぶ転送方式の一つである「IEEE 1394」の別名です。プレーヤーとアンプ間をケーブル１本でシンプルにつなぐ、新しいインターフェースです。5.1chの情報をデジタルで伝送するため、クリアな音質で再生されます。

■L.F.E. (Low Frequency Effect)

ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。帯域内が20Hz～120Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

■PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

■Sビデオ信号

映像信号を輝度Yと色Cの2系統で伝送する方式です。コンポジットと比べてより美しい映像で記録・再生します。

■TSP(Time Stretched Pulse)信号

TSP信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号です。
一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができます。

■インターレス

テレビやモニターの管面にある走査線のうち、まず奇数番目の走査線を1/60秒かけて描き、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線を描いて画面を映し、合わせて1枚の完全な画面を作っていく飛び越し走査のことです。

■クロスオーバー周波数

各スピーカーユニットがカバーする周波数帯域が交差するポイントの周波数です。

■サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要があります。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数といいます。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1kHzと表します。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になります。

■ダウンミックス

5.1チャンネルなどのマルチチャンネル音声を、2チャンネルなどに振り分けて出力することです。

■入力ストリーム

ドルビーデジタル5.1、DTS 5.1などのフォーマット情報やチャンネル情報を付帯しているデジタル入力信号のことです。

■プログレッシブ

インターレス（インターレスの項目を参照）方式ではなく、すべての走査線を順番通りに描いていく順次走査のことです。

技術解説

■S-Master/S-Master PRO

“S-Master”はソニーが開発し、ホームシアターの分野での実績があるフルデジタルアンプ・デバイスです。S-Master PROはこのS-Masterをさらに進化させ「パルスハイト・ボリューム」と「DCフェーズ・リニアライザー」を搭載し、さらなるディテールの再現力と、従来からのアナログ音質の統一感を獲得。原音により忠実な高音質を実現しています。

■S-Master

本機に搭載されているアンプ「S-master」は、「ストリームマスターデジタルアンプ」技術を採用することで、フルデジタルで音声信号を処理します。その結果、次のように性能が向上しました。

- 音の純度や鮮度を、スーパーオーディオCDにデジタル信号で記録したときのままに再現。音質に有害なジッター* を、水晶発振器が生成する安定度の極めて高い周波数のレベルまで低減し、高速かつ精度の高い信号を生成することによって可能にしています。従来のアナログパワーアンプでは、出力信号の一部を入力部に戻して（フィードバック制御）、不安定な信号を補正していたのに対し、その必要がなくなり、アンプを構成するすべてのステージにおいてフルデジタルで処理します。

  * 信号波形が時間軸方向に進んだり遅れたりして起こる音揺れです。
- 出力部分の発熱を極めて低く抑え、アンプ部をより小型化。電力効率を90%以上に高めて、電源のエネルギー変換効率を改善することで可能にしています。

■パルスハイト・ボリューム

S-Master PROの特長の一つであるパルスハイト・ボリュームは、アナログ再生音を含むパルスの高さを変えて音量を調整します。デジタル・ビット領域で音量調整を行う方法に比べ情報量の欠落もなく、より高音質な再生が可能です。

■DCフェーズ・リニアライザー

アナログ方式のパワーアンプでは数十Hzより下の周波数で位相が回転します。これに対しデジタルパワーアンプは位相回転が起こらずフラットな特性となっています。
現在発売されているスピーカーはこの特性を前提として音作りがされているため、低域の表現がアナログ方式のアンプと違ったものになりがちです。そこで“S-Master PRO”ではアナログアンプ方式の位相特性をデジタル領域の演算で再現し聞き慣れた低音感を得ています。

■Digital Cinema Sound (DCS)

映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテイメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

■シネマスタジオEX

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の3つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が7.1chまでの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現（9.1chスピーカー再生時では「バーチャル・マルチディメンション」はOFFで使用してください。）し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズ・エンタテイメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。スタジオの種類によりA/B/Cの3つのモードを選べます。

■デジタルコンサートホール

「デジタルコンサートホールモード」は、CDなどの2chステレオソースをより豊かな音で楽しめるモードです。5.1chまたは7.1chスピーカーとバーチャルスピーカー技術を利用した立体的な残響や反射音の再現により、音楽ソフトをより臨場感豊かな音で楽しめます。コンサートホールの音場の再現は、実測データを元に、ホールを幾何学的に解析し、反射音や残響音を精密にモデリング。音の強さや周波数特性といった音色的な要素も取り込み、DSP上での演算により残響を再現します。あたかも、コンサートホールの席で音楽を楽しんでいるような、自然で心地よい響きとともに音楽を楽しめます。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない	→ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。 → 本機前面のFRONT SPEAKERSスイッチが「OFF」になっていないか確認する（37ページ）。 → スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。 → モノラル機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売り）を使ってL/R両方の端子に接続してください。ただし、サウンドフィールド（PRO LOGICなど）を選ぶとセンタースピーカーからは音が出ません。センタースピーカーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカー L/Rからのみ音が出ます。
音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で正しい入力が選ばれているか確認する。 → 本機前面のFRONT SPEAKERSスイッチが「OFF」になっていないか確認する（37ページ）。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。 → 小音量でしか聞こえないときはNIGHT MODEが働いていないか確認する（53ページ）。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
アナログ2チャンネル入力の音が出ない	→ 選んだ入力に、DIGITAL ASSIGN機能を使ってデジタル音声入力を割り当てていないか確認する。 → 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってデジタル入力固定（COAXIAL FIXED、OPTICAL FIXED）を選んでいないか確認する（72ページ）。 → MULTI CH IN機能を使っていないか確認する。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	→ 選んだ入力のデジタル音声入力を、DIGITAL ASSIGN機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（73ページ）。 → 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってアナログ入力固定（ANALOG 2CH FIXED）を選んでいないか確認する。またはOPTICAL入力時に「COAXIAL FIXED」を選んでいないか、逆にCOAXIAL入力時に「OPTICAL FIXED」を選んでいないか確認する（72ページ）。 → MULTI CH IN機能を使っていないか確認する。
i.LINK機器の音が出ない	→ i.LINK機器が接続されているか確認する。 → SCD-XA9000ES、SCD-DR1またはDVP-NS9100ESの出力がi.LINK出力モードになっているか確認する。 → 本機またはプレーヤーに「BUSFULL」と表示されている場合、本機が選択していないプレーヤーは停止させて、本機のi.LINKを押して再生したいプレーヤーを選びなおしてください。

つづく

症状	原因と対応のしかた
HDMIに入力しているソースの音がアンプまたは本機に接続したテレビからでない。	➔ CUSTOMIZEメニューの「HDMI AUDIO」の設定を確認してください。 ➔ HDMI接続を確認してください。 ➔ ON SCREENを表示しているときは音がでません。ON SCREENの表示を「OFF」にしてください。 ➔ HDMI接続では、スーパーオーディオCDは聞けません。 ➔ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。 ➔ HDMI→DVI変換ケーブルを使用している場合は、本機からもテレビからも音声は出力されません。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ 本機の上にビデオデッキやカセットデッキを置いていないか確認する。 ➔ ⏚ SIGNAL GNDが正しく接続されているか確認する。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センタースピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 ➔ シネマスタジオEXモードを選ぶ（52ページ）。 ➔ スピーカーの音量を調節する（65ページ）。 ➔ センタースピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（62ページ）。
サラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 ➔ シネマスタジオEXモードを選ぶ（52ページ）。 ➔ スピーカーの音量を調節する（65ページ）。 ➔ サラウンドスピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（62ページ）。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	➔ パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、サラウンドバックデコーディングモードを「ON」に設定してください（54ページ）。
サブウーファーの音が出ない	➔ すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているとサブウーファーからは音が出ません。
サラウンド効果が得られない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 ➔ サンプリング周波数48 kHzを超える信号が入力されているときは、サウンドフィールドは働きません。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	➔ 各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で録音したい機器を選ぶ。 ➔ デジタル入力、HDMI入力、i.LINK入力からの信号はREC OUTから出力されません。 ➔ アナログ入力からの信号はMD/DAT OUTからは出力されません。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	➔ 再生機器をデジタル接続し、アンプ側でその入力を選んでいるか確認する。 ➔ 選んだ入力のデジタル音声入力を、DIGITAL ASSIGN機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（73ページ）。 ➔ 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 ➔ 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。

映像

症状	原因と対応のしかた
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	→ 適切な入力を選ぶ。 → テレビの入力モードを確認する。 → テレビをオーディオ機器から離す。 → コンポーネント映像入力の割り当てを正しく設定する（76ページ）。 → 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする。 → COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO端子に480p以上の映像信号を入力した場合、映像は通常の映像、S映像に変換されずVIDEO/S VIDEO MONITOR OUT端子から出力されません。 → ビデオデッキの早送り/巻き戻しやゲーム機の映像などの非標準信号が入力されると、映像が出力されない場合があります。「VIDEO CONVERT」を「OFF」に設定して、本機とテレビを再生機器からの入力と同じ種類のコードでつないでください。 → HDMIに入力している映像はHDMI OUTからのみ出力されます。
コンポーネント入力の画像が乱れる	→ コンポーネント映像端子から出力している場合は、「PROGRESSIVE OUT」の設定が「ON」になっていると480p以上の信号の入力信号は出力されません。設定を「OFF」にしてください。 → S VIDEO端子、VIDEO端子から出力している場合は、480p以上のコンポーネント映像の入力は受け付けられません。480iコンポーネント映像を入力してください。 → 480p以上のコンポーネント入力信号を出力する場合は、出力するビデオ端子をコンポーネントにして、「PROGRESSIVE OUT」の設定を「OFF」にしてください。
HDMIに入力しているソースの映像がアンプまたは、本機に接続したテレビから出ない	→ ケーブルの接続を確認してください。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。 → 接続している再生機器やテレビがHDCPに対応しているか確認してください。 → ビデオデッキの早送り/巻き戻しやゲーム機の映像などの非標準信号が入力されると、映像が出力されない場合があります。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 → リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 → リモコンの乾電池を交換する。 → 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（35ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 → リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 → 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

つづく

エラーメッセージ一覧

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージとチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下の表をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	チェックコード	原因と対応のしかた
DECODE ERROR	CHECK CODE 01	CUSTOMIZEメニューの「DEC. PRIORITY」が「PCM」に設定されている場合、DTS-CDなどデコードできない信号が入力されると表示されます。「AUTO」に設定してください（79ページ）。
PROTECTOR	CHECK CODE 11	スピーカー出力に異常な電流が流れています。本機の電源を切り、スピーカーコードの芯線が、本機または他のスピーカーに触れていないか、接続を確認してください。バイアンプ接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
PROTECTOR	CHECK CODE 12	アンプ部が熱くなっています。天板の上がふさがれていませんか。本機の電源を切り、しばらく放置してから再度電源を入れてください。バイアンプ接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
PROTECTOR	CHECK CODE 13	電源部が熱くなっています。天板の上がふさがれていませんか。本機の電源を切り、しばらく放置してから再度電源を入れてください。バイアンプ接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
PROTECTOR	CHECK CODE 14	本機の電源を切り、スピーカーコードの芯線が、本機または他のスピーカーに触れていないか、接続を確認してください。
PROTECTOR	CHECK CODE 21	本機の電源を切り、スピーカーコードの接続を確認してから再度電源を入れてください。バイアンプ接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
PROHIBITED	CHECK CODE 71	著作権保護のため、音声を出すことができません。
UNKNOWN SIGNAL	CHECK CODE 72	入力された信号のフォーマットに本機が対応していません。
BUSFULL	CHECK CODE 73	i.LINKのバスが接続されている他機器からの出力で混みあっているため、オーディオ信号が入力できません。 ➔ 接続されている他の機器の出力を止めてください。（機器の電源をオフにする、STOPボタンを押すなど） ➔ 本機の電源を入れなおしてから、プレーヤーを再度選びなおしてください。
LOOP CONNECT	CHECK CODE 74	i.LINK接続がループしています。 ➔ 接続を確認してください。（21ページ）

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	35ページ
調節したサウンドフィールド	60ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA9100ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
260 W ＋ 260 W
（4 Ω、JEITA）
320 W ＋ 320 W
サラウンドモード：
（8 Ω、JEITA）
フロント部：260 W ＋ 260 W
センター部：260 W
サラウンド部：260 W ＋ 260 W
サラウンドバック部：260 W ＋ 260 W
（4 Ω、JEITA）
フロント部：320 W ＋ 320 W
センター部：320 W
サラウンド部：320 W ＋ 320 W
サラウンドバック部：320 W ＋ 320 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.15 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
200 W＋200 W
（4 Ω負荷）
220 W＋220 W

周波数特性

パワーアンプブロック：
10 Hz～50 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

VIDEO 1、2、3、4、5、LD、DVD、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：100 dB
（Input short、20kHz LPF、Aネットワーク、インプットレベル 2 V、入力換算）
PHONO：
入力感度：3.0 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：90 dB
（Input short、20kHz LPF、Aネットワーク、インプットレベル 40 mV、入力換算）

入力（デジタル）

VIDEO 1、DVD、TV/SAT、MD/DAT、SA-CD/CD（COAXIAL）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：100 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
SA-CD/CD、DVD、LD、TV/SAT、MD/DAT、VIDEO 1、5（OPTICAL）：
S/N比：100 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力 TAPE、MD/DAT（REC OUT）、VIDEO 1、2、3（AUDIO OUT）：
出力感度：170 mV
出力インピーダンス：2.2 kΩ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、SUB WOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：220 Ω

ビデオ部

入力/出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω
S VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度：1 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
クロマ（C）
入力感度：0.286 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度：1 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
B-Y/R-Y
入力感度：0.7 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
80 MHz HD Pass Through

HDMI部

入力/出力

タイプA（19ピン）HDMI Ver 1.1に対応

i.LINK部

ピン数： 4ピン
転送スピード：S200（最大データ転送速度 200 Mbps）
伝送プロトコル：A/Mトランスミッションプロトコル
＊DTLA のコピー・プロテクション技術（Revision 1.3）に対応

電源、その他

電源　AC100 V、50/60 Hz

消費電力　400 W
スタンバイ時：1 W

最大外形寸法430 × 238 × 480 mm
（幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む）

質量　約 28.5 kg

付属品　電源コード（1）
キャリブレーションマイクロフォン：
ECM-AC1（1）
取扱説明書（本書）（1）
接続・設定ガイド（1）
リモートコマンダー：RM-AAE004（1）
RM-AAE004用単3形アルカリ乾電池（3）
リモートコマンダー：RM-U9S（1）
RM-U9S用単3形マンガン乾電池（NS）
（2）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内
（1）
保証書（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info

- 待機時消費電力 1W
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

索引

あ行

イコライザー 67
映像端子 23
映像変換機能 2, 31-33
エラーメッセージ 118
オンスクリーン 65, 70
音声端子 18

か行

各種設定 78
ゲーム
　テレビゲーム 46
コマンドモード 36
コントロールシステム
　コントロール A1II 90
　CONTROL S 91

さ行

サウンドフィールド 12, 48-60
サラウンド効果
　選ぶ 48, 51
　調節する 56-59
　リセットする 60
サラウンドスピーカー端子 37
サラウンドバックデコーディング機能 54
サラウンドバックデコーディングモード 55
自動音場補正
　確認する 66
　測定する 38
シネマスタジオ EX 52, 113
初期設定 35
スーパーオーディオ CD プレーヤー
　再生する 44
　接続する 19, 20
スピーカー
　インピーダンス 17
　距離の設定 63
　接続する 16
　設定する 61-64
　レベルとバランスを調節する 65-66
スピーカースイッチ
　サラウンドスピーカースイッチ 37
　フロントスピーカースイッチ 37
スリープタイマー 83
設定した内容を登録する 77

た行

ダウンミックス 53
中心周波数 65
調節する
　サラウンド効果 56-59
　スピーカーのレベルとバランス 58
　EQUALIZER メニュー 68
　LEVEL メニュー 58
　SURROUND SET UP メニュー 56
デジタル音声とアナログ音声 72
デジタルコンサートホール 52, 113
デジタル CS チューナー 29
テストトーン 58, 65
テレビ 26, 70
電源コード 34
ドルビーデジタル 48-50, 54-56

な行

二重音声モード 79
入力ストリーム 55, 83
入力を選ぶ 43

は行

バイアンプ接続 90
パルスハイト・ボリューム 113
ビデオ
　再生する 47
　接続する 30
ビデオコンバータ 2, 31-33
表示切り換え 82
表示窓 7, 82
ヘッドホン 6, 52

ま行

マクロ操作 100
マルチゾーン機能 87-90
マルチチャンネル 20
メニュー
　AUTO CALIBRATION メニュー 42, 67, 108
　CIS メニュー 85, 110
　CUSTOMIZE メニュー 79, 108
　EQUALIZER メニュー 68, 107
　LEVEL メニュー 58, 107
　SPEAKER SET UP メニュー 61, 108
　STREAM INFORMATION メニュー 83, 110
　SURROUND SET UP メニュー 57, 107
メニュー一覧 107

ら行

リセット 118
リモコン
  オートパワー機能 105
  学習させる 102
  準備する 35
  登録する 98
  バックライト 105
  マクロ操作 100
  RM-AAE004 11
  RM-U9S 12
録音する 84
録画する 84

わ行

割り当て
  コンポーネント映像端子 76
  デジタル音声端子 73
  HDMI 端子 75
  i.LINK 音声 74

A-Z

AAC 8, 55-56, 79, 111
AUTO CALIBRATION メニュー 42, 67, 108
A.F.D. 48
A/V シンク機能 2, 79, 111
BS デジタルチューナー 29
CD
  再生する 44
  接続する 19
CIS メニュー 85, 110
COMP/D-VIDEO ASSIGN 76
CUSTOMIZE メニュー 79, 108
DAT デッキ 19
DC フェーズ・リニアライザー 80, 113
DCS 51-52, 113
DIGITAL ASSIGN 73
Dolby 48-50, 54-56
DTS 48-50, 54-56
DVD プレーヤー
  再生する 45
  接続する 20, 27-28
EQUALIZER メニュー 68, 107
HDMI 24, 112
  接続する 24
HDMI VIDEO ASSIGN 75
IMPEDANCE SELECTOR スイッチ 17
i.LINK 21
i.LINK VIDEO ASSIGN 74
LEVEL メニュー 58, 107
L.F.E. 8, 61
MD デッキ 19
NIGHT MODE 53
ON SCREEN 65, 70
PRO LOGIC 8, 49, 57
REC OUT 33
SB DECODING 54
S-Master/S-Master PRO 2, 113
SOUND FIELD 12, 48-60
SPEAKER SET UP メニュー 61, 108
STREAM INFORMATION メニュー 83, 110
SURROUND SET UP メニュー 57, 107
TEST TONE 65
USER PRESET 77

数字

12V トリガ 85
2 チャンネル 53
2CH STEREO 53
2nd ゾーン 87
3rd ゾーン 87
5.1 チャンネル 14
7.1 チャンネル 14
9.1 チャンネル 15

記号

⏚ SIGNAL GND 端子 22